



第2図 坂元遺跡付近の地形面と調査区

段丘が北西—南東方向に長く延びる。これは印南野台地における段丘分布の特徴であり、そこでは各段丘が南西に向かって階段状に配列する。

〔更新世段丘Ⅲ～V〕 更新世段丘ⅢとⅣは白ヶ池川中～下流部でみられる。これらは、白ヶ池川に沿つて断続的に分布し、遺跡の北側と南側では概ね南北に延びる。これらの段丘はそれぞれ比高2～3mの段丘崖をもつ。他方、更新世段丘Ⅴは遺跡より約300m南西に分布する。この段丘は、白ヶ池川沿いに認められず、白ヶ池川はその形成にはほとんど関係しなかったと考えられる。

〔完新世段丘Ⅰ〕 この段丘は、白ヶ池川の下流部でよく発達している。これは、とくに南西方向へ連続して延び、加古川下流沖積低地の南東端を縁取るように細長く分布する。白ヶ池川の下流部では、この段丘が現流路の両岸にみられ、なかでも南岸には東西方向に約600mの長さをもつ段丘面が広がる。これは、西方へ緩やかに傾斜し、完新世段丘Ⅱと比高2m前後の段丘崖で接する。

調査区の多くのがこの段丘上に位置し、白ヶ池川南岸の段丘面には、2～7区、9～14区、17～18区、19区の南西部、20～27区、29区、31～35区、37～40区、45～46区、および53区の南西部がみられる。他方、白ヶ池川北岸の段丘面は南岸と比べて発達しておらず、そこには36区と48～51区が位置する。

〔完新世段丘Ⅱ〕 これは白ヶ池川に沿つて断続的に認められる。段丘面は、現氾濫原より約50cm高く、白ヶ池川の下流へ行くほど高度を下げる。1区と56区がこの段丘面に位置し、それらは白ヶ池川下流部の北岸に分布する。

〔現氾濫原〕 この地形面は、最も低く、河川の氾濫に伴って冠水する危険性がある。これは白ヶ池川の中～下流部とそれが合流する別府川沿いに認められる。白ヶ池川中～下流部の現氾濫原は、現流路に沿つて細長く延び、幅は最大でも150m前後しかない。ここには、15区、16区、19区の北東部、および53区の北東部が位置する。一方、別府川の南東岸では、完新世段丘Ⅰの段丘崖下に低湿な現氾濫原が認められる。そこには、28区と30区の北西部、52区、ならびに54～55区が分布する。

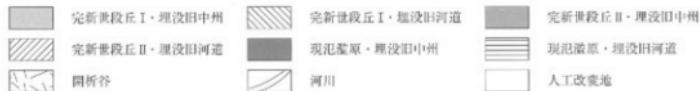
〔開析谷〕 遺跡周辺には、比較的大規模な開析谷が2ヶ所でみられる。ひとつは白ヶ池川中流部の東岸から南東へ延びるものである。この谷は100～350mの幅でほぼ直線状に数km発達し、白ヶ池川付近では更新世段丘Ⅰ～Ⅳを下刻している。他の一つは遺跡の南端から南へ延びるものである。これは、更新世段丘Ⅳを下刻して発達しており、100m前後の幅をもつ。谷底は、北へ緩やかに傾斜し、完新世段丘Ⅰの段丘面と傾斜変換線で接する。この谷の出口(北端)付近には、8区、42～44区、および47区がみられる。

(2) 遺跡付近の微地形

多くの調査区が位置する完新世段丘ⅠとⅡは埋没した扇状地が段丘化したものであり、白ヶ池川沿いの現氾濫原には地下浅所に扇状地が発達する。そのため、これらの地形では、扇状地の微地形である旧中州と旧河道が埋没している(第3図)。旧中州の埋没地点は旧河道が埋もれている箇所より地表が数十cm高い。

白ヶ池川北岸の完新世段丘Ⅰでは、埋没旧中州が少なくとも2ヶ所で、南岸のそれでは約10ヶ所で認められる。旧河道は、これらの間に延び、白ヶ池川南岸の完新世段丘Ⅰでは6～7本みられる。これらはやや平行し、全体としては網状を呈する。旧河道の多くは白ヶ池川の流路跡で、48区付近の旧河道と23区から37・38区を経て40区に至るものとは、その方向からみて加古川の分流跡と考えられる。

完新世段丘Ⅱは、白ヶ池川に沿つて断続的にわずかの面積しかみられない。そのため、旧河道は1区



第3図 坂元遺跡付近の微地形分類図

の南西端に認められるだけであり、他には埋没旧中州が分布する。現氾濫原は白ヶ池川と別府川に沿ってみられる。これらのうち白ヶ池川に沿う現氾濫原では、埋没旧中州と白ヶ池川の旧河道とがそれぞれ約5ヶ所に分布する。他方、別府川沿いには、比較的大規模な旧河道が認められる。これは加古川の分流跡と考えられる。

3. 遺跡調査区における堆積物について

(1) 完新世段丘Iの堆積物

この段丘における堆積物の基本的な層序は、下位から順に橙褐色～橙灰色の砂礫、橙灰～灰褐色の砂礫～シルト質砂礫、灰色の砂～シルト質砂、黄灰色の砂質シルト～シルト、灰～暗灰色のシルト質砂～シルト、および現耕土である(第4・5・6図の南西部)。

最下位で観察される橙褐色～橙灰色の砂礫は層状地堆積物に該当する。その上面は、現地表下1～1.7mでみられ、旧中州が分布するところで高い。厚さは少なくとも1.2mある。この砂礫はそれを構成する礫の径からみて2つに細分される。下位の砂礫は主に径4～9cmの礫からなり、最大で径十数cmの大礫がみられる。他方、上位の砂礫に含まれる礫は、それより小さく、径2～5cmを主体とする。両者は、ともに亜角～亜円礫からなり、比較的締まりがよい。両堆積物の間には、砂がレンズ状に挟まれる。

完新世段丘Iでは、この砂礫を切る旧河道が最も多く認められる(第15図)。その深さは少なくとも1mあり、幅は10m以上のものが多い。旧河道堆積物は、砂礫である場合と、砂礫と砂、砂質シルトなどの互層からなる場合がある。これらの砂礫は、2～5cmの亜角～亜円礫を主体とし、前者の多くは間に砂を挟んで上下2つの砂礫に分けられる。

層状地堆積物の上位に位置する橙灰～灰褐色の砂礫～シルト質砂礫は、旧中州と旧河道を覆う洪水堆積物にあたる。厚さは20～60cmで、層状地堆積物の上面が高い箇所では局的に分布していない。この堆積物は、径1～4cmの亜角～亜円礫を主体としており、下位の砂礫より小さい礫からなる。これには、部分的に砂に変化したり、間に砂を挟んで2～3つに細分されることがある。

本遺跡の西部では、このような砂礫を切る旧河道が2本認められる。ひとつは23区の北西端にみられるもので、深さが1.1m以上である。他の一つは、23区から37区を経て40区に至る旧河道で、加古川の分流跡と考えられる。これは少なくとも1.6mの深さをもつ。

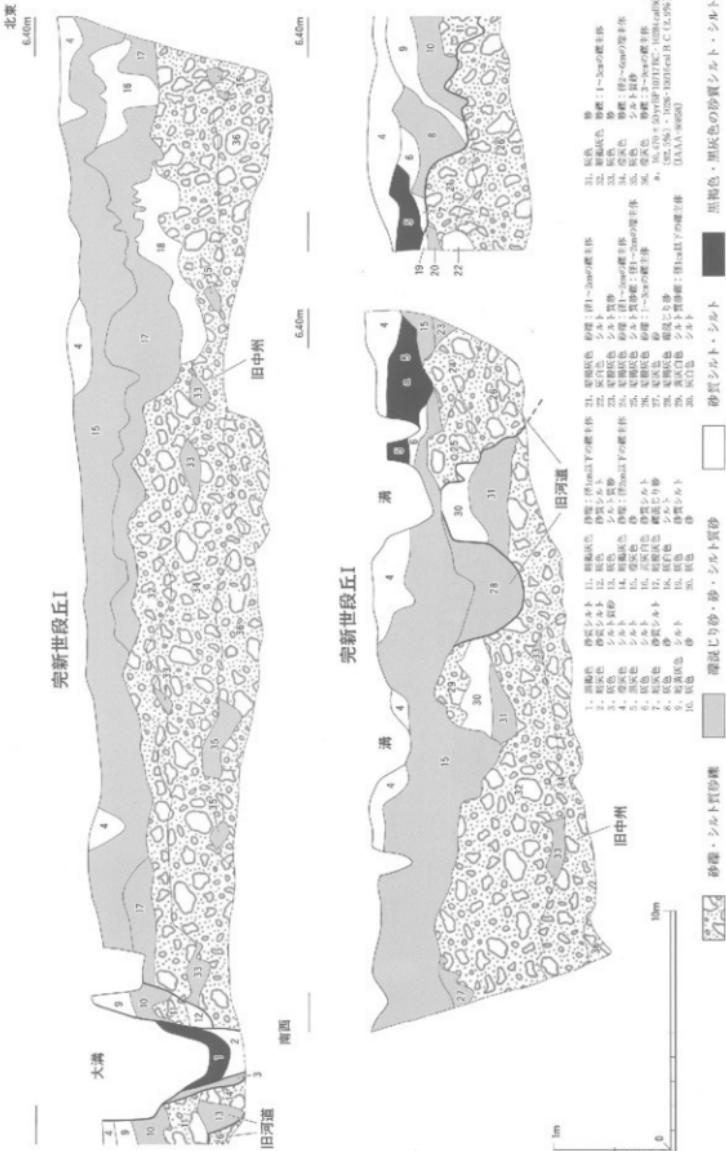
砂礫を覆う灰色の砂～シルト質砂は、多くの場合3つ前後の砂やシルト質砂からなり、砂質シルトを挟むことがある。これらは洪水堆積物に相当する。全体の厚さは20～80cmで、調査区のほぼ全域で認められる。この上位にみられる黄灰色の砂質シルト～シルトは、調査区のほぼ全域に分布し、2～3つに分けられることがある。これらの堆積物には、黒灰色のシルトが局的に認められ、そこには小規模な湿地が形成されていたと考えられる。40区にみられるこうした黒灰色のシルトからは $10,470 \pm 50$ yrBP (IAAA-80858) の放射性炭素年代測定値^aが得られている。

こうした砂質シルト～シルトのうち、最上位の黄灰色シルトを切る旧河道が少なくとも4本認められる。旧河道の幅は3～10mと比較的小規模で、遺跡の西部を北東～南西方向にやや曲がりながら延びる。これらは、白ヶ池川や加古川の分流跡と考えられ、橙灰色の砂礫や砂、シルト質砂によって埋積されている。

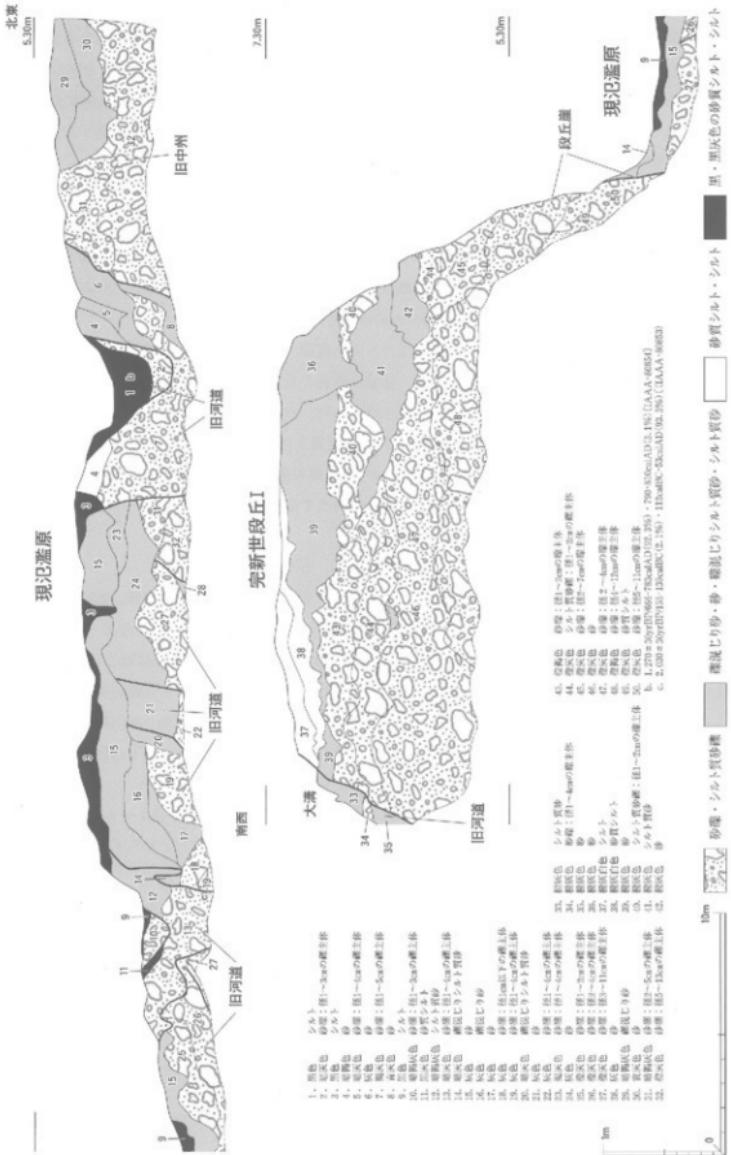
黄灰色のシルト上面からは、縄文時代晩期以降の遺構が検出される。完新世段丘Iの埋没旧中州上で



第4図 12・13区における遺構検出面以深の地質断面図



第5図 40区における遺構検出面以深の地質断面図



第6図 16・19区における過渡帶突出面以深の地質断面図

は、縄文時代晚期の土坑(11区)、弥生時代中期後半の方形周溝墓(12・19・26・53区など)、弥生時代中期後半と後期、古墳時代後期の堅穴住居跡(28・31・37・40区など)、ならびに弥生時代中期と8世紀、13世紀の掘立柱建物跡(2・25・26・28・31・37・38・40区など)などが認められる。また、旧河道を利用した溝も4条検出されている。これらは、黄灰色のシルトを切る小規模な旧河道⁵を人為的に掘削してつくられており、他に溝に比して大きい。4条のうち3条は弥生時代中期に、40区を通過する1条は弥生時代後期につくられ、いずれも8世紀に埋もれたものである。

その上位に位置する灰～暗灰色のシルト質砂～シルトは、下位の堆積物と異なり、完新世段丘Iの段丘化後に段丘面上に堆積したと考えられる。すなわち、この堆積物は降雨の量が多かった時などに遺跡南側の開析谷から流れ出た洪水によってもたらされた可能性が高い。これは、32・33・40区などの遺跡西部を中心に認められ、主に埋没旧河道上から埋没旧中州の斜面上にかけて堆積する。この堆積物は5つ前後に細分され、それぞれ厚さ数cm～十数cmの薄いものである。

40区では、この堆積物が下位から灰色の疊混じりシルト質砂、暗灰色のシルト、灰色のシルト、および黄灰色のシルトに分けられる。これらのうち、灰色の疊混じりシルト質砂には、9世紀の遺物が含まれる。その下面からは、埋没旧中州上で弥生時代中期の土坑、古墳時代後期の堅穴住居跡、ならびに8世紀末～9世紀初頭の掘立柱建物跡が検出され、埋没旧河道上では8世紀後半の水田遺構が認められる。疊混じりシルト質砂の上にのる暗灰色のシルトは中世前期の遺物を含む水田土壤にあたる。さらに、その上位にみられる黄灰色のシルトはそれ以降の耕土に相当する。

(2) 完新世段丘IIの堆積物

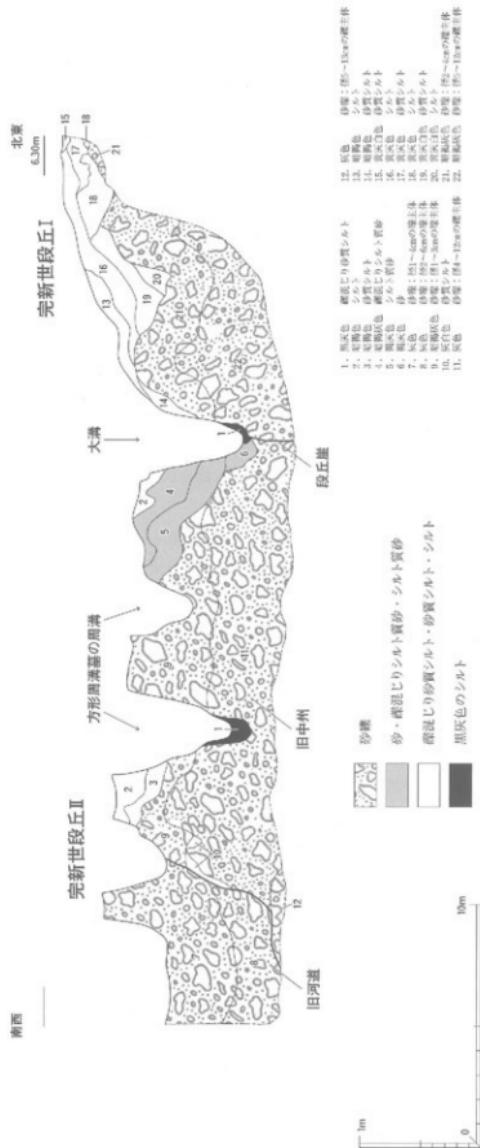
ここでは、砂礫の上を細粒堆積物が被覆する。1区では、下位から褐灰～灰色の砂礫、褐灰色のシルト質砂、暗褐～褐灰色の砂質シルト～シルト、および現耕土が認められる(第7図の南西部～中央部)。これらのうち、褐灰～灰色の砂礫は疊層からみて3つに分けられる。最下位の砂礫は径5～13cmの礫を主体とし、最大で径25cmの礫が混入する。これより上位の砂礫には、径の小さい礫が多く含まれるようになり、最上位の砂礫では径1～3cmの礫が主体となる。いずれも、主に亜角～亜円礫からなり、マトリックスは粗砂である。これらは扇状地の堆積物に該当する。1区では、ほとんどの範囲が埋没した旧中州上に位置しており、この砂礫の上面が高くなっている。

こうした砂礫を切って旧河道の堆積物が認められる。1区での旧河道堆積物は、径1～6cmの亜角～亜円礫を主体とし、細粒(グラニウル)～粗砂に充填されている。これは、締まっておらず、1区の南西端にみられる。

砂礫の上位に位置する褐灰色のシルト質砂ならびに暗褐色～褐灰色の砂質シルトやシルトは、旧中州や旧河道を被覆する。前者は主に砂礫上面の隙間に堆積し、後者は全体を覆う。両者は、50cm～1mの厚さで認められ、扇状地を埋没させている。これらのうち、最上位にみられる褐灰色のシルトは、土壌化した旧表土であり、遺物が含まれる。1区の埋没旧中州上では、その下面から弥生時代中期後半の方形周溝墓などが検出されている。

なお、56区は埋没旧中州上に位置しており、1区と同じ層位で縄文時代晚期の土坑および弥生時代後期と古墳時代後期の堅穴住居跡などが認められる。

第7図 1区における連続検出面以深の地質断面図



(3) 現氾濫原の堆積物

別府川と白ヶ池川に沿う現氾濫原では、堆積物の様相が異なる。別府川に沿う現氾濫原では、旧河道堆積物の上に細粒堆積物がのる。28区では、完新世段丘Ⅰの段丘崖下を数度流れた流路の跡がみられ、これらは加古川の分流跡と考えられる。旧河道のうち最も新しいものは、幅が約7mで、深さが約1.8mに達する。旧河道堆積物は、黒褐色や灰色の砂質シルトとシルトからなり、褐色の砂を薄く挟むことがある。なかでも黒褐色のシルトが厚く、植物遺体が多く含まれることから、旧河道内は湿地的な環境下で埋積されたと考えられる。堆積物には、古墳時代後期の遺物が混入する。

他方、最も古い旧河道堆積物の上部には、礫混じり砂や砂質シルトがみられ、礫混じりシルトに混入する植物遺体からは $2,240 \pm 30$ yrBP (IAAA-80856) の放射性炭素年代測定値が得られている。こうした旧河道堆積物を覆う細粒堆積物は、黄褐色の砂質シルトで、洪水に伴うものである。これらからは古墳時代後期や8世紀の水田遺構(28・30・53・54・55区など)が検出されている。

一方、白ヶ池川に沿う現氾濫原の基本層序は下位から暗褐色～橙灰色の砂礫、灰色の砂、黒灰色のシルト、灰色のシルト質砂、ならびに現耕土である(第6図の中央部～北東部)。これらのうち、暗褐色～橙灰色の砂礫は扇状地堆積物に相当する。この堆積物は、径3～13cmの亜角～亜円礫を主体とし、最大で径24cmの礫を含む。厚さは50cm以上あり、現地表下およそ1mで認められる。その上位にみられる灰色の砂は、砂やシルト質砂からなり、2～3つに細分される。砂礫が部分的に挟まれ、これには径1～5cmの礫がみられる。

この砂を覆う黒灰色のシルトは2～3つに分けられる。これらは湿地性堆積物にあたり、19区の北東部ではその上面で畦畔と足跡が検出されている。15区と19区北東部では、この堆積物が調査区のほぼ全域に分布しており、現氾濫原では湿地的な環境が数度にわたって訪れ、その度に水田がつくられたと考えられる。この上位に位置する灰色のシルト質砂は、砂とシルト質砂の互層であり、3～4つに細分される。これらは白ヶ池川の氾濫堆積物であり、湿地的な環境の後洪水が繰り返し発生したことを物語る。こうした堆積物のうち、下位にみられるシルト質砂には、中世後期の遺物が含まれ、これより上位の砂とシルト質砂には江戸時代の遺物が混入する。

旧河道は、それが切り込む層位からみて3種類に分けられる。すなわち、暗褐色～橙灰色の砂礫を切るものと、灰色砂の間および黒灰色シルトの下面から切り込むものである。暗褐色～橙灰色の砂礫を切る旧河道は最も古い時期に形成されたもので、約12mの幅をもつ。これは径2～8cmの亜角～亜円礫からなる橙色～灰色の砂礫によって埋積される。灰色砂の間から切り込む旧河道は、10m前後の幅であり、15区や19区で数本認められる。この旧河道堆積物は、砂礫、砂、およびシルト質砂が互層をなし、比較的層相変化が激しい。

黒灰色シルトの下面から切り込む旧河道は、幅5～8m、深さ80cm～1m程度であり、それ以前に形成されたものに比して浅く狭い。これらは、それ以前の旧河道堆積物を侵食して形成されており、同じ箇所を再び流れた河川の跡に該当する。旧河道の堆積物は砂礫や砂、シルトなど多様である。19区では、こうした旧河道が東西に3本伸び、そのうち中央の旧河道堆積物からは8世紀後半の墨書き器と斎事が出土している。

これらの旧河道堆積物には、植物遺体が混入しており、旧河道の底にみられる植物遺体の放射性炭素年代測定値は $2,030 \pm 30$ yrBP (IAAA-80853)⁶を示す。また、旧河道堆積物の上部にみられる黒灰色のシルトからは $1,270 \pm 30$ yrBP (IAAA-80854) の年代測定値⁶が得られている。

(4) 開析谷の堆積物

開析谷の出口(北端)付近では、基本的に下位から青灰色の砂礫、灰色の砂礫、褐灰色のシルト質砂、褐灰色のシルト、および現耕土が観察される(第8図)。44区では、最下位にみられる青灰色の砂礫が、径2~7cmの亜角~亜円礫を主体とし、1.4m以上厚さで堆積する。この堆積物は旧河道に切られている。旧河道は南から北西へ延びるもので、開析谷中を流下した小規模な流路の跡である。これは径1~4cmの礫からなる砂礫、砂、ならびに砂質シルトなどの互層によって埋積されている。

最下位の砂礫と旧河道堆積物を覆って、灰色の砂礫がみられる。これは、厚さ20~50cmで、径1~4cmの礫からなる。さらにその上位に位置する褐灰色のシルト質砂とシルトは44区のほぼ全域で認められ、このシルト上面が造構検出面にある。これらは、いずれも縦まりがよく、更新世に堆積したと推定される。

4. 遺跡調査区付近の地形環境

これまでに述べた事柄から次のような地形環境が考察される。

〔ステージ1〕 更新世段丘I~Vが順次形成された後、本遺跡の南側では、更新世段丘IVの下刻が進んだ。そこでは、更新世段丘IVがほぼ南北方向に3m以上の深さで侵食され、100m前後の幅をもつ開析谷がつくられた。

〔ステージ2〕 更新世段丘Vの段丘化後、遺跡付近には主に白ヶ池川によって砂礫がもたらされた。それに伴って、扇状地が発達し、遺跡付近では中州が約12ヶ所につくられた。白ヶ池川の流路は5本程度みられ、これらは流路変更の後、主に砂礫に埋積された。他方、開析谷の底には、小規模な河川が流れ、砂礫が堆積した。開析谷の出口にあたる44区では、この河川が北西方へ流れていた時期があり、その後流路跡は砂礫、砂、ならびに砂質シルトなどの互層によって埋積された。

〔ステージ3〕 扇状地上では、約10,500年前までに径1~4cmの小さい礫からなる砂礫が洪水によって堆積し、ついで砂とシルト質砂がそれを覆った。10,500年前後になると、砂質シルトやシルトが堆積し、旧中州と旧河道は地表下約1mの深さに埋没した。さらにそれ以降には、白ヶ池川や加古川の小規模な分流が少なくとも4本流下し、その後これらは砂礫や砂、シルト質砂によって埋積された。この時期、開析谷の出口付近では、谷中を流れる小河川によって砂礫やシルト質砂、シルトがもたらされ、旧河道を覆った。

〔ステージ4〕 遺跡付近は白ヶ池川と加古川の下刻によって段丘化した。これは、完新世に入ってから縄文時代晩期までのある時期に起こったことであり、縄文海進頂期直後の海退に伴う可能性が高い。白ヶ池川の中~下流部では、この段丘化によって狭長な低地が形成された。

〔ステージ5〕 白ヶ池川沿いの低地には、砂礫が堆積し、扇状地がつくられた。そこには、中州が形成され、流路跡は主に砂礫によって埋積された。

〔ステージ6〕 この扇状地は、白ヶ池川の度重なる氾濫に伴って、シルト質砂やシルトなどの細粒堆積物に覆われた。その結果、旧中州と旧河道は地表下およそ1mに埋没した。

〔ステージ7〕 白ヶ池川沿いの低地では、約2,240年前までに同河川の下刻によって段丘化が起こった。そのため、完新世段丘IIが白ヶ池川に沿って断続的に形成された。白ヶ池川沿いで扇状地の形成、埋没、および段丘化が起こっていたころ、完新世段丘I上では洪水の発生しない安定した環境が続いた。縄文時代晩期には、白ヶ池川北岸の完新世段丘I上や完新世段丘II上で人間活動がみられ、土坑がつくられ

第8図 44区における連携検査面以深の地質断面図



た。

〔ステージ8〕 完新世段丘Ⅱの段丘崖下では、白ヶ池川によって砂礫がもたらされ、扇状地が発達した。15区や16区南東部では、白ヶ池川が何度も流下し、中州が流路間に形成されるとともに、流路は変更度に砂礫を中心とする堆積物に埋積された。

〔ステージ9〕 白ヶ池川に沿って形成された扇状地は、約2,030年前までに洪水に伴う砂に覆われ、浅く埋没した。一方、遺跡北西端の別府川沿いでは、約2,240年前以前に加古川の分流が完新世段丘Ⅰの段丘崖下を流下し、それが埋積された。このような現象が現氾濫原でみられていた間、完新世段丘ⅠとⅡ上は安定した環境下にあり、弥生時代中期後半には、完新世段丘Ⅰの埋没旧中州上で堅穴住居と方形周溝墓などが、また完新世段丘Ⅱの埋没旧中州上でも方形周溝墓がつくられた。

〔ステージ10〕 約2,030年前から1,270年前にかけて、白ヶ池川沿いの現氾濫原では、小規模な流路の形成と埋積が数度みられた。また、別府川に沿う現氾濫原では、そのころ加古川の分流が流下し、古墳時代後期にそれがシルトによって埋積・埋没した。ここでは、その流跡を被覆したシルトを土壤に水田耕作が営まれた。他方、完新世段丘ⅠとⅡでは、この時期も安定した環境が続き、弥生時代後期と古墳時代後期にも埋没旧中州上で堅穴住居が建てられた。

〔ステージ11〕 よそ1,270年前以降になると、白ヶ池川沿いの現氾濫原では、洪水に伴うシルトが2～3つ堆積した。ここでは、その度に湿地的な環境が訪れ、シルトは腐植化するとともに、白ヶ池川の小規模な流路が幾度か形成された。8世紀後半には、腐植化した黒灰色のシルトを土壤に水田耕作が営まれ、また小規模な流路では畜糞を流す祭祀が行われた。同様に、別府川に沿う現氾濫原でも、埋没旧河道上にシルトが洪水堆積し、8世紀にはそれを土壤とした水田がつくられた。一方、完新世段丘Ⅰ上の埋没旧中州上では、8世紀や8世紀末～9世紀初頭に掘立柱建物が建てられた。

〔ステージ12〕 白ヶ池川沿いの現氾濫原では、その後中世後期までに洪水によるシルト質砂の堆積がみられた。さらに江戸時代に入ると、数度の洪水が発生し、砂やシルト質砂が堆積した。また、完新世段丘Ⅰ上では、9世紀以降に遺跡南側の開析谷から洪水が数度及んだ。そのため、疊混じりシルト質砂とシルトが主に遺跡西部の低所に薄く堆積した。こうした遺跡西部では、9世紀初頭以降に顕著な人間活動がみられず、東部では13世紀に掘立柱建物が建てられた。

5. おわりに

本遺跡は白ヶ池川下流部の完新世段丘ⅠとⅡ、現氾濫原、および開析谷に広がり、その北西端は別府川沿いの現氾濫原に位置する。これらのうち、完新世段丘Ⅰは繩文海進頂期後の海退期に、また完新世段丘Ⅱはそれ以降2,240年前までのある時期に段丘化したと考えられる。白ヶ池川に沿う完新世段丘ⅠとⅡ、および現氾濫原には、扇状地が埋没しており、2つの完新世段丘はそれが段丘化したものである。そのため、これらの地形面には、埋没した旧中州と旧河道が認められる。

完新世段丘Ⅰでは、段丘化の後に訪れた安定した環境下で、まず縄文時代晚期に人間活動がみられた。その後埋没旧中州上では、弥生時代中期後半に堅穴住居と方形周溝墓が、さらに弥生時代後期、古墳時代後期、ならびに8世紀に堅穴住居や掘立柱建物がつくられた。他方、段丘化の直前に形成された小規模な旧河道が段丘化後の弥生時代中期後半と後期に利用され、そこには比較的大規模な溝が掘削された。溝の周辺では水田が営まれ、旧河道付近には局地的な牛生産域が存在した。こうした段丘上の遺跡西部には、9世紀初頭以降に遺跡南側の開析谷から洪水が及ぶようになり、人間は13世紀に遺跡東部の埋

埋没中州上で居住した程度であった。

完新世段丘Ⅱでも、段丘化後の安定した環境下で人間活動がなされた。ここでの埋没中州上では、弥生時代中期後半に方形周溝墓が、また古墳時代後期に竪穴住居がつくられた。わずかに高い埋没中州上は、排水の便がよいため、完新世段丘ⅠとⅡで居住域や墓域に利用されたのである。

現氾濫原は、白ヶ池川流域で扇状地、別府川沿いで旧河道が埋没する過程で生産域に利用された。これらの埋没がなされていた8世紀の現氾濫原は、洪水が多発する低湿な環境であった。そのため、洪水に伴うシルトを土壤に水田稲作が営まれた。また、白ヶ池川流域では、小規模な流路で祭祀が行われ、居住は埋没中州上でもみられなかった。その後も洪水は繰り返され、白ヶ池川流域では中世後期まで江戸時代にも砂やシルト質砂が堆積した。

以上のように、本遺跡では地形面ごとに各時期の地形環境が異なり、人間はそれを巧みに利用して活動してきたのである。

注

- 1) 3区と32区におけるこの堆積物には、植物遺体が混入しており、それらの放射性炭素年代測定値はともに53,900yrBP以前(IAAA-80852・IAAA-80855)である。これらの植物遺体は旧河道内における二次堆積のものと考えられる。
- 2) 本報告書の(株)加速器分析研究所「V-2、坂元遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)」による。
- 3) これらの旧河遺は、小規模であるため遺構検出面からのトレンチ断面で確認したもので、第3図の微地形分類図には掲載していない。
- 4) 前掲2)
- 5) 前掲2)

2. 坂元遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1. 測定対象試料

坂元遺跡は、兵庫県加古川市野口町坂元(北緯34°45'35.3"、東経134°51'5.6")に所在する。測定対象試料は、縄文包含層(2003198-2区)出土の炭(01:IAAA-80850)、SX0201(2003198-2区)出土の炭(02:IAAA-80851)、下層断面(2003198-3区)出土の植物片(03:IAAA-80852)、下層断面(2004001-19区)出土の木片(04:IAAA-80853)と木片(05:IAAA-80854)、下層断面(2004001-32区)出土の木片(06:IAAA-80855)、下層断面(2004001-28区)出土の炭(07:IAAA-80856)、SX4004(2004001-40区)出土の炭(08:IAAA-80857)、下層断面(2004001-40区)出土の土(09:IAAA-80858)、合計9点である。

2. 測定の意義

遺構や地層の年代を特定する。

3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 木片や炭化物は酸・アルカリ・酸(AAA)処理、泥炭は酸(HCl)処理を実施し、内面的な不純物を取り除く。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4. 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS 専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polash 1977)。
- (2) ¹⁴C 年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として測る年代である。この値は、δ¹⁴C によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差(± 1σ)は、試料の¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) δ¹⁴C は、試料炭素の¹⁴C 濃度(¹⁴C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用

いる。加速器により $^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$ を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。

- (4) pMC(per cent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 歴年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。歴年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の曆年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。曆年較正プログラムに入力される値は、下括弧を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、曆年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.0較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

6. 測定結果

^{14}C 年代は、縄文包含層(2003198 2区)出土の炭(01)が 2450 ± 30 yrBP、SX0201(2003198 2区)出土の炭(02)が 1200 ± 30 yrBPである。下層断面(2003198 3区)出土の植物片(03)は 53860 yrBPよりも古い。下層断面(2004001 19区)出土の木片は 2030 ± 30 yrBP(04)、木片が 1270 ± 30 yrBP(05)である。下層断面(2004001 32区)出土の木片(06)が 53900 yrBPよりも古い。下層断面(2004001 28区)出土の炭(07)は 2240 ± 30 yrBP、SX4004(2004001 40区)出土の炭(08)が 1330 ± 30 yrBPである。下層断面(2004001 40区)出土の土(09)は 10470 ± 50 yrBPである。

炭や木片、植物片の炭素含有率は、すべて50%以上であり、十分な値であった。土は不純物を含まない粘土であり、炭素含有率が0.65%と低いものであったが、粘土としては標準的な値である。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

第2表 試料一覧

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{14}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-80850	01	縄文包含層 2003198 2区	炭	AAA	-30.67 ± 0.37	$2,450 \pm 30$	73.72 ± 0.27
IAAA-80851	02	SX0201 2003198 2区	炭	AAA	-25.25 ± 0.36	$1,200 \pm 30$	86.13 ± 0.29
IAAA-80852	03	下層断面 2003198 3区	植物片	AAA	-30.71 ± 0.85	$>53,860$	<0.12
IAAA-80853	04	下層断面 2004001 19区	木片	AAA	-30.88 ± 0.41	$2,030 \pm 30$	77.67 ± 0.28
IAAA-80854	05	下層断面 2004001 19区	木片	AAA	-26.46 ± 0.43	$1,270 \pm 30$	85.39 ± 0.29
IAAA-80855	06	下層断面 2004001 32区	木片	AAA	-27.22 ± 0.46	$>53,900$	<0.12
IAAA-80856	07	下層断面 2004001 28区	炭	AAA	-27.31 ± 0.44	$2,240 \pm 30$	75.67 ± 0.28
IAAA-80857	08	SX4004 2004001 40区	炭	AAA	-19.56 ± 0.40	$1,330 \pm 30$	84.70 ± 0.27
IAAA-80858	09	下層断面 2004001 40区	土	HCl	-26.57 ± 0.58	$10,470 \pm 50$	27.15 ± 0.16

[#2374]

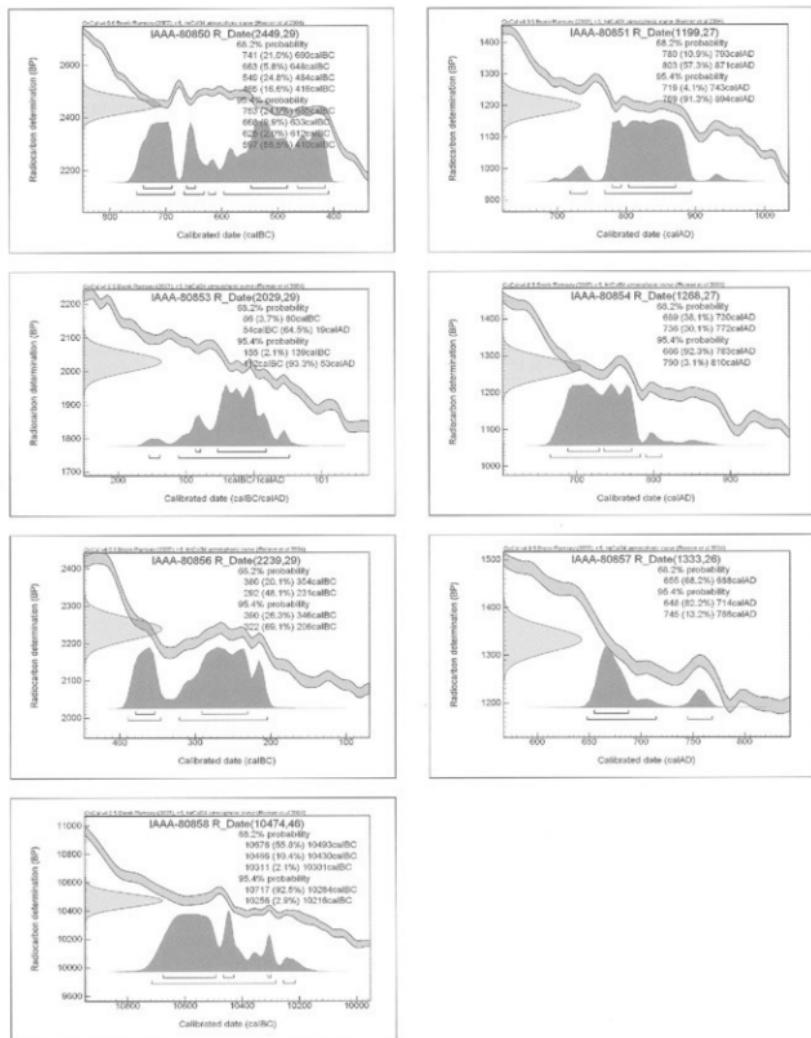
第3表 歴年較正年代

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-80850	$2,540 \pm 30$	72.86 ± 0.27	$2,449 \pm 29$	741BC-690BC(21.0%) 663BC-648BC(5.8%) 549BC-484BC(24.8%) 465BC-416BC(16.6%)	753BC-685BC(24.9%) 668BC-633BC(9.9%) 625BC-612BC(2.0%) 597BC-410BC(58.5%)
IAAA-80851	$1,200 \pm 30$	86.08 ± 0.29	$1,199 \pm 27$	780AD-793AD(10.9%) 803AD-871AD(57.3%)	719AD-743AD(4.1%) 769AD-894AD(91.3%)
IAAA-80852	$>53,860$	<0.12	$>53,856$		
IAAA-80853	$2,130 \pm 30$	76.74 ± 0.27	$2,029 \pm 29$	86BC-80BC(3.7%) 54BC-19AD(64.5%)	155BC-139BC(2.1%) 112BC-53AD(93.3%)
IAAA-80854	$1,290 \pm 30$	85.14 ± 0.28	$1,268 \pm 27$	689AD-730AD(38.1%) 736AD-772AD(30.1%)	666AD-783AD(92.3%) 790AD-810AD(3.1%)
IAAA-80855	$>53,900$	<0.12	$>53,902$		
IAAA-80856	$2,280 \pm 30$	75.31 ± 0.27	$2,239 \pm 29$	380BC-354BC(20.1%) 292BC-231BC(48.1%)	390BC-346BC(26.3%) 322BC-206BC(69.1%)
IAAA-80857	$1,240 \pm 30$	85.65 ± 0.27	$1,333 \pm 26$	655AD-688AD(68.2%)	648AD-714AD(82.2%) 745AD-768AD(13.2%)
IAAA-80858	$10,500 \pm 50$	27.06 ± 0.15	$10,474 \pm 46$	10676BC-10493BC(55.8%) 10466BC-10430BC(10.4%) 10311BC-10301BC(10.4%)	10717BC-10284BC(92.5%) 10256BC-10216BC(2.9%)

[参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radio carbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radio carbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radio carbon* 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radio carbon Program OxCal, *Radio carbon* 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Mat Ching' radio carbon dates, *Radio carbon* 43 (2A), 381-389
- Reimer, P. J. et al. 2004 Int cal 04 terrestrial radio carbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, *Radio carbon* 46, 1029-1058



第9図 暦年較正年代グラフ

3. 坂元遺跡Ⅱ出土弥生土器および埴輪の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

矢作 健二・石岡 智武

はじめに

加古川市に所在する坂元遺跡Ⅱは、播磨平野東部を流れる加古川の下流域左岸に広がる「いなみの台地」の西端部付近に位置する。太田ほか編(2004)に掲載されたいなみの台地の地形面区分によれば、坂元遺跡の位置する台地は、いなみの台地の中でも最も低位の段丘群であり、約10万年前に形成された野原面に相当する。これまでの発掘調査により、弥生時代、古墳時代、奈良時代および中世までの各時期におよぶ墓や住居跡などの遺構が広い範囲で確認されており、各時期を示す土器などの遺物も多く出土している。特に古墳時代では、埴輪窯とされる遺構が検出され、その灰原からは埴輪が多く出土している。

本報告では、坂元遺跡Ⅱから出土した、弥生土器および埴輪について、その材質(胎土)の特性を明らかにすることにより、その由来する地域性や弥生土器と埴輪との間での胎土の類似性あるいは異質性を見出し、坂元遺跡の弥生土器や埴輪の製作事情に関する資料を作成する。

1. 試料

試料は、坂元遺跡Ⅱから出土した弥生土器片12点と埴輪片14点の合計26点である。弥生土器試料は、弥生時代中期の壺が1点と同時期の壺11点からなる。埴輪は、円筒埴輪が5点、形象埴輪が9点であり、形象埴輪の中には石見型盾とされた試料が6点ある。また、窯跡灰原から出土した試料が3点、窯跡床面から出土した試料が4点含まれている。

なお、各試料には1~26までの資料No.が付されている。各試料の資料No.、器形、出土地区、出土遺構などは一覧表にして第4表に示す。

2. 分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるため、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される。同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を行い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫~中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレバラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

第4表 分析試料一覧および胎土分類

資料 No.	種別	形態	田上地区	出土遺物など	編 番 No.	備考	鉱物・ 岩石集成 A1 A2	粒径組成					砂量
								s	m	f	vf	ca	
1	弥生土器	壺	I区	SK9104	128		●	●	●	●	●	●	●
2	弥生土器	壺	I区	SK9101	74								
3	弥生土器	壺	I区	SK9102	96								
4	弥生土器	壺	I区	SK9103(化粧)	109								
5	弥生土器	壺	I区	SK9101	65								
6	弥生土器	壺	II区	SD1203	187								
7	弥生土器	壺	II区	SD1203	195								
8	弥生土器	壺	II区	SD1203	191								
9	弥生土器	壺	II区	SD1203	196								
10	弥生土器	壺	II区	SD1203	188								
11	弥生土器	壺	II区	SD1205	204								
12	弥生土器	壺	II区	SK2201	382								
13	埴輪	円筒	II区	SK1603									
14	埴輪	円筒	II区	SK1603									
15	埴輪	石瓦型埴	II区	SK2203									
16	埴輪	石瓦型埴	II区	SK2203(崩壊欠陥)									
17	埴輪	馬形	II区	SK3206(崩壊欠陥)									
18	埴輪	馬形	II区	SK3206(崩壊欠陥)									
19	埴輪	動物頭	II区	SK3205(崩壊欠陥)									
20	埴輪	瓦片型埴	II区	SK3205(崩壊欠陥)									
21	埴輪	瓦片型埴	II区	SK3205(崩壊欠陥)									
22	埴輪	瓦片型埴	II区	SK3205(崩壊欠陥)									
23	埴輪	円筒	II区	SK701									
24	埴輪	円筒	II区	SK701									
25	埴輪	石瓦型埴	II区	SK701									
26	埴輪	石瓦型埴	II区	SK701									

A1:第6月の種類組成が必ずチャートに記入される種類組成は、後述の岩質組成などの併記部において花崗岩類のみである。

A2:岩石の種類組成はA1欄と同様試料によっては認められないであります。さらに火山ガラスを多く含む。

砂:全般的な粒径組成においてビードルを構成する粗粒砂・中粒砂・細粒砂・粗粒砂シルト・中粒砂シルト・●:第二のビードル

I:鉱物組成の割合が約50%後半 II:非鉱物の割合が約50%後半 III:鉱物の割合が約25%前後

3. 結果

観察結果を第5表、第10図～第16図に示す。鉱物片および岩石片の組成をみると、弥生土器試料間では大きく2つに分類され、埴輪試料間ではほぼ1つの組成に収まる結果を示す。これまでに兵庫県下各地における弥生土器・土師器の胎土分析で認められている鉱物・岩石組成分類と比較し、ここでは、それらを踏襲した分類を示す。

A 1類：A類の特徴は、岩石片の種類構成が主にチャートや頁岩、砂岩などの堆積岩類と凝灰岩・流紋岩などの火碎岩類および花崗岩類などの深成岩類の3者からなることであった。また、試料によつては珪長岩、脈石英、変質岩、珪化岩なども微量含まれている。この典型的なA類の組成をA 1類とした。

A 1類は、これまでにも伊丹市小坂田遺跡の弥生土器や坂元遺跡に隣接する加古川市溝之口遺跡の弥生土器に多く認められている。今回の試料では、弥生土器試料12点の中の5点がA 1類に分類され、埴輪試料は全点がA 1類に分類された。

A 2類：上述したA類の特徴を有し、かつ、火山ガラス(形態は偏平板状のバブル型が多い)を比較的多く含む組成をA 2類としている。これまでにA 2類は、上述した小坂田遺跡の弥生土器や溝之口遺跡の土師器に認められている。今回の試料では、弥生土器試料の7点がA 2類に分類され、埴輪試料には認められなかった。

胎土中の砂の粒径組成(第14図～第16図)では、弥生土器においては、鉱物・岩石組成とほぼ整合する傾向を示している。すなわち、A 1類の試料は粗粒砂または中粒砂をモードとし、A 2類の試料は細粒砂または極細粒砂をモードとしている。これは、A 2類の砂の中では細粒～極細粒の火山ガラスが比較的多く含まれることを反映している。一方、埴輪試料では、中粒砂をモードとする試料が多い傾向が窺えるが、粗粒砂や細粒砂、極細粒砂さらには粗粒シルトをモードとする試料もあり、全体的にはばらつ

第5表 薄片観察結果(1)

資料番号	被検区分	砂粒の種類構成												合計
		石英 カリ 長石	斜長石 角閃石 輝石	長石 斜長石 輝石	不透 明 物	チャート	真岩 砂岩 泥灰岩	砂岩 泥灰岩 流紋岩 凝灰岩	安山岩 斑状安山岩 火山岩類	多孔 質 晶石類	柱状 長石岩 長石岩	千枚岩 雲母岩 片岩	ホルンフェルス 変質岩 珪化岩 火成ガラス	その他 粘土塊 素鐵 鉱物 植物性隕石
1	粗粒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	2	2	—	—	3	2	3	2	—	—	—	1	14
	中粒砂	2	2	—	—	—	—	2	2	2	—	—	—	11
	細粒砂	5	1	—	—	—	1	1	2	1	—	—	—	11
	極細粒砂	2	—	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	6
	粗粒シルト	2	—	1	6	—	—	—	—	—	—	—	—	9
	中粒シルト	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	163
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
2	粗粒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	3	—	—	—	—	1	—	2	2	—	—	1	10
	中粒砂	10	2	4	—	—	2	1	1	11	6	8	3	49
	解離砂	12	3	5	—	—	7	1	6	1	2	1	—	38
	細粒砂	8	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	12
	粗粒シルト	6	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8
	中粒シルト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	340
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
3	細粒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	細粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3
	中粒砂	1	1	2	—	—	—	1	—	—	2	—	4	13
	細粒砂	7	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	11
	極細粒砂	10	1	9	1	—	—	—	1	—	—	3	—	25
	粗粒シルト	9	—	11	—	—	—	—	—	—	—	—	3	23
	中粒シルト	5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	384
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15
4	粗粒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2
	粗粒砂	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	4
	中粒砂	9	2	4	—	—	1	—	—	—	—	—	4	23
	細粒砂	21	1	7	—	—	2	—	1	—	—	—	11	49
	解離砂	31	1	14	—	—	1	—	—	3	—	—	3	53
	粗粒シルト	18	2	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	中粒シルト	2	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35
5	細粒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	細粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2
	中粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細粒砂	5	2	12	1	—	2	—	—	—	—	—	6	28
	解離砂	12	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	6	23
	粗粒シルト	4	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
	中粒シルト	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	315
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14
6	粗粒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	粗粒砂	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	3
	粗粒砂	16	3	1	—	—	6	2	9	3	1	2	2	45
	中粒砂	8	1	—	—	—	1	1	4	1	3	2	—	22
	細粒砂	7	1	—	—	—	1	—	2	—	1	—	—	13
	解離砂	9	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
	粗粒シルト	5	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
	中粒シルト	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	310
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14

第5表 薄片観察結果(2)

資料番号	砂質区分	砂質の種類構成										総合砂質体	合計	
		片岩	角閃石	輝長石	カリ長石	輝石	隕石母	不透明鉱物	テナント	頁岩	砂岩	火成岩	軽微片	
7	輝緑													0
	輝柱粒砂													0
	粗粒砂	3								1				5
	中粒砂	2							4					6
	細粒砂	4	1						1	2				13
	極細粒砂	8	3	1							3			14
	粗粒シルト	7	2						1					10
	中粒シルト													0
	基質													173
	孔隙													6
8	輝緑													0
	輝柱粒砂													0
	粗粒砂													0
	中粒砂	2	2								1			1
	細粒砂	6	1	7						1				7
	極細粒砂	3	5	1										23
	粗粒シルト	2	7									5		15
	中粒シルト	1	2											3
	基質													300
	孔隙													15
9	輝緑													0
	輝柱粒砂													3
	粗粒砂	9							5		2			22
	中粒砂	8	1						6	2	4			21
	細粒砂	7	2					1	4	2	6	1		12
	極細粒砂	3	2										6	13
	粗粒シルト	2												2
	中粒シルト													0
	基質													331
	孔隙													13
10	輝緑													0
	輝柱粒砂													1
	粗粒砂	1								1				2
	中粒砂	7	1	1					3					18
	細粒砂	11	2	6	2					1	3			45
	極細粒砂	14	2	4					1					24
	粗粒シルト	4	2									3		10
	中粒シルト	3												3
	基質													363
	孔隙													13
11	輝緑													0
	輝柱粒砂													0
	粗粒砂	9	1						3	2	1	1		29
	中粒砂	9	1	2				3	1	6	3	3		30
	細粒砂	5		1							1			7
	極細粒砂	6		5							1			12
	粗粒シルト	5		4										9
	中粒シルト	1												1
	基質													240
	孔隙													9
12	輝緑													0
	輝柱粒砂													1
	粗粒砂	6	1						1	5	2	2	1	21
	中粒砂	4	1	2					2	3	2	1	1	18
	細粒砂	12	3	5				2	1	1	5	2		36
	極細粒砂	15	1	8				2		1				28
	粗粒シルト	7	1	5	1									14
	中粒シルト	1												1
	基質													323
	孔隙													13

第5表 薄片観察結果(3)

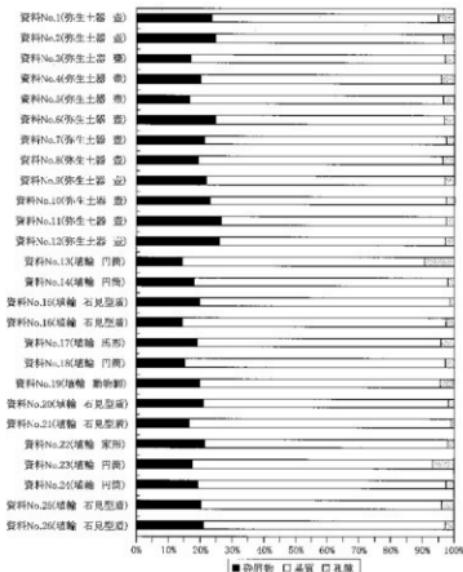
資料番	分類区分	分類の構成												その他 鉱物 種別	植物 珪藻体	合計	
		紅 色 物 質	片 岩	斜 長 角 閃 石	緑 葉 石	不 透 通 透 性 物	ザ イ ヤー ー ト	矽 岩	頁 岩	花 崗 岩	片 岩	侵 入 岩	ホ ル ン フ エル ス	黄 鐵 石	化 石	火 山 ガ ラ ス	硫 鐵 銹 塊
13	緑縞																0
	板状砂岩																0
	粗粒砂	6							2	1	2	1					12
	中粒砂	7	2	3				1		6		1					21
	細粒砂	6		4						1	1	1					12
	板状砂岩	14	1	5				3		1							24
	粗粒シルト	3	1	10													14
	中粒シルト			1													1
	基質																442
	孔隙																54
14	緑縞									1							1
	板状砂岩																3
	粗粒砂	3	1					2		1							19
	中粒砂	6		1	1			1		3	1	1	2				18
	細粒砂	7	2	1				1	1			4					16
	板状砂岩	13	2	7	1			1	1								25
	粗粒シルト	20	2	13		1											36
	中粒シルト	6		4													10
15	灰質																564
	孔隙																15
	緑縞									1							1
	板状砂岩																3
	粗粒砂	7	8	1				3	2	1	10	4	4	7	1		56
	中粒砂	8		1	1			2		2	1		3	3			29
	細粒砂	14	3	3				2		1		11	2		1		39
	板状砂岩	16	2	5	1							3					27
16	粗粒シルト	13		3													17
	中粒シルト	3		1													4
	基質																756
	孔隙																13
	緑縞																0
	板状砂岩																2
	粗粒砂	5	1				3										10
	中粒砂	11	2				3			2	1			1			21
17	細粒砂	16		2			3	1		1		5					28
	板状砂岩	18	1	2			1			1		2					25
	粗粒シルト	13	1	2			1								1		18
	中粒シルト	8		2													10
	基質																651
	孔隙																20
	緑縞																0
	板状砂岩																3
18	粗粒砂	9	1	3			9	1		11		3	2	1	1	6	46
	中粒砂	13		2			8	3		11		6	1		3	2	51
	細粒砂	6	2	1			3	1		1		5					17
	板状砂岩	15		2			1										18
	粗粒シルト	3		3													6
	中粒シルト	1															1
	基質																568
	孔隙																31
19	緑縞																0
	板状砂岩																0
	粗粒砂	3	1				1		1		2						13
	中粒砂	8	2				5		2	1	4						23
	細粒砂	14	3	4			1		1		3						27
	板状砂岩	24	4	4	1		2			4							39
	粗粒シルト	14	1	6													21
	中粒シルト	8		1													9
20	基質																710
	孔隙																24

第5表 薄片観察結果(4)

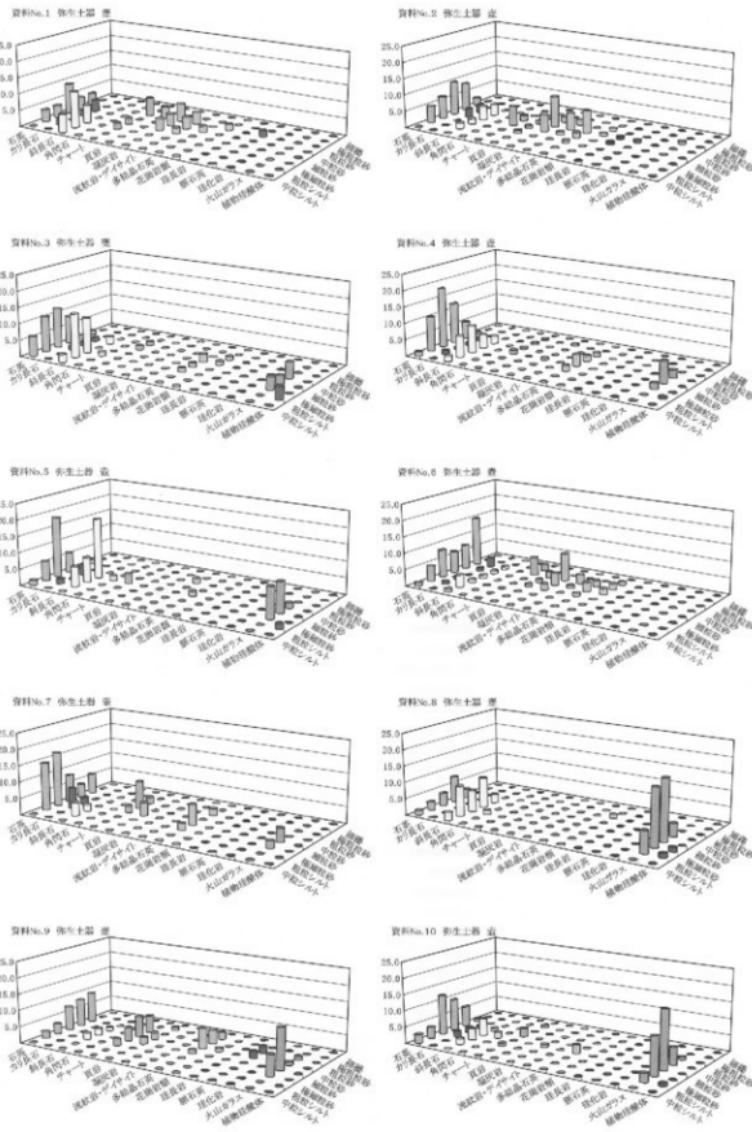
資料 No.	岩被区分	砂粒の種類構成												植物性體	合計
		石英	斜長石	角閃石	輝石	輝長石	長石	砂岩	頁岩	泥岩	多孔質岩	火成岩	その他の岩		
	石英	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	斜長石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	1
	角閃石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	珪化岩	1
	輝石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火山ガラス	1
	輝長石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	1
	長石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	珪化岩	1
	砂岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	1
	頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	1
	泥岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	珪化岩	1
	多孔質岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	1
	火成岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	1
	その他の岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	珪化岩	1
19	細砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	1
	粗粒砂	6	2	—	—	—	—	3	—	3:1	—	—	—	火成ガラス	17
	中粒砂	8	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	粘土質	13
	細粒砂	13	1	—	—	—	—	2	—	—	2:1	—	—	火成ガラス	20
	極細粒砂	12	4	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	粘土質	22
	粗粒シルト	2	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	5
	中粒シルト	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	3
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	313
20	粗砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	18
	粗粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粘土質	0
	粗粒砂	12	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	火成ガラス	1
	中粒砂	22	3	1	—	—	—	9	—	3:2	7	—	—	火成ガラス	48
	細粒砂	16	3	2	—	—	—	3	—	2	8	—	—	火成ガラス	36
	極細粒砂	16	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	19
	粗粒シルト	12	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	15
	中粒シルト	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	3
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	516
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	13
21	細砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粒砂	2	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	火成ガラス	6
	中粒砂	6	1	—	—	—	—	2	—	1:2	1	—	—	火成ガラス	12
	細粒砂	8	—	—	—	—	—	—	2	—	1:1	—	—	火成ガラス	12
	極細粒砂	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	6
	粗粒シルト	6	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	10
	中粒シルト	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	5
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	255
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	3
22	細砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粒砂	8	2	—	—	—	—	3	—	1:2	3	—	—	火成ガラス	33
	中粒砂	15	1	—	—	—	—	6	—	2:3	2:4	—	—	火成ガラス	38
	細粒砂	6	2	2	—	—	—	2	—	1	3	—	—	火成ガラス	16
	極細粒砂	9	—	5	—	—	—	—	—	—	1	—	—	火成ガラス	15
	粗粒シルト	3	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	1
	中粒シルト	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	2
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	460
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	11
23	細砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粗粒砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	粗粒砂	4	1	—	—	—	—	1	—	1	2	—	—	火成ガラス	11
	中粒砂	11	1	—	—	—	—	4	—	1	5	—	—	火成ガラス	23
	細粒砂	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	4
	極細粒砂	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	6
	粗粒シルト	6	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
	中粒シルト	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	232
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	20
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	0
24	細砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	2
	粗粗粒砂	5	1	—	—	—	—	1	—	—	1:1	—	—	火成ガラス	16
	粗粒砂	10	—	1	—	—	—	3	—	2:1	4	—	—	火成ガラス	23
	中粒砂	9	2	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	火成ガラス	16
	細粒砂	14	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	火成ガラス	17
	粗粒シルト	9	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	11
	中粒シルト	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	2
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	329
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	火成ガラス	11

第5表 薄片観察結果(5)

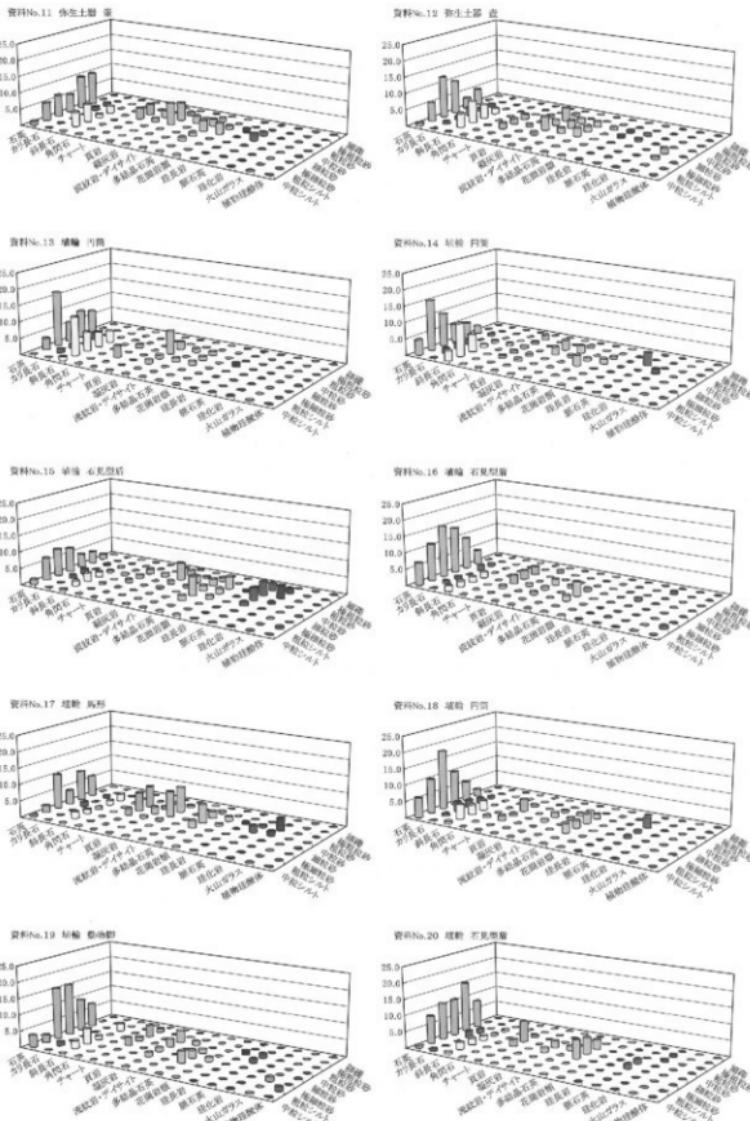
資料番	薄片区分	砂粒の種類構成										合計												
		石英	長石	斜長石	黑雲母	黑雲母 絆物	小透明 絆物	ナノート	頁岩	板状岩	花崗岩類	火山岩	多孔性 岩・ ダイサイト	千枚岩	無名 岩	トルンフェルス	変質岩	火成岩	地上盤	植物 片	植物 酸性 物	その他		
25	石英	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	板状砂	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	15
	板状砂	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33
	中粒砂	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	3	1	—	—	—	—	—	—	—	26
	細粒砂	16	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	9	—	—	—	—	—	—	—	33
	膠結粒砂	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13
	粗粒シルト	13	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	18
	中粒シルト	7	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	560
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29
26	砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	極粗粒砂	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	12
	粗粒砂	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20
	中粒砂	11	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	4	—	2	4	—	—	—	—	36
	細粒砂	6	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	6	2	1	—	—	—	19
	極細粒砂	20	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28
	粗粒シルト	16	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23
	中粒シルト	8	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
	基質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	584
	孔隙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22



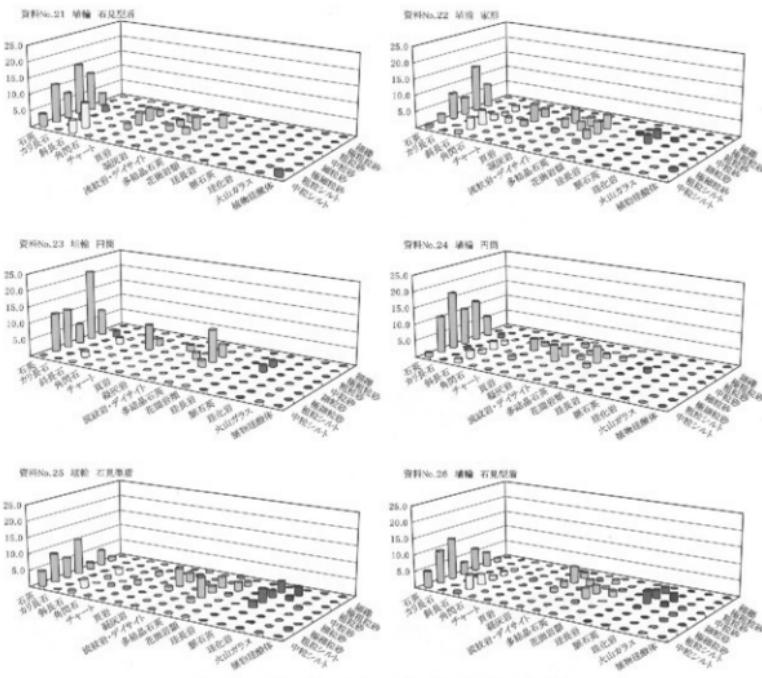
第10図 破屑物・基質・孔隙の割合



第11図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)①



第12図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)②



第13図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)③

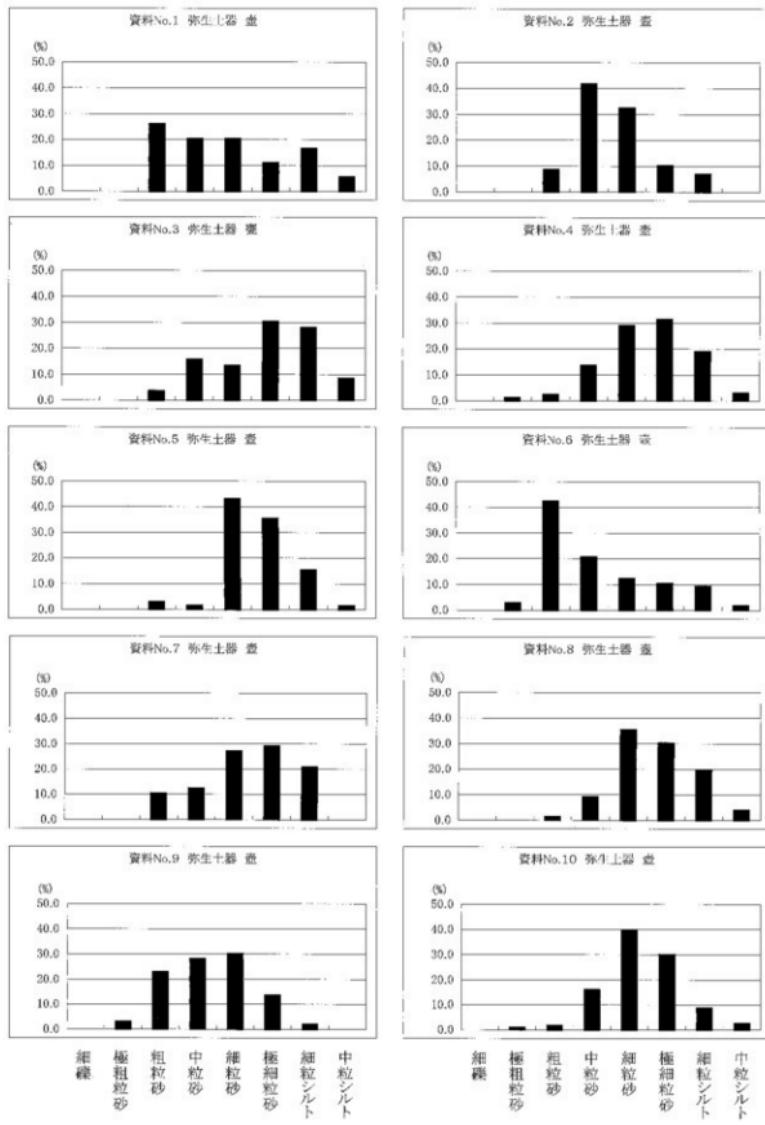
いた印象が感じられる。器形別にみた場合、円筒埴輪は、中粒砂をモードとする試料と細粒砂以下をモードとする試料とに分かれ、石見型盾の場合は、中粒砂をモードとする試料と粗粒砂をモードとする試料とに分かれる。

各試料の碎屑物・基質・孔隙の割合(第10図)をみると、碎屑物の割合が20%前後の試料が多く、26点中半数の13点を占める。残り13点は、碎屑物15%前後に7点、碎屑物25%前後に6点とは二分される。ここでは、碎屑物が少ない順にⅠ、Ⅱ、Ⅲ類とした。種別にみると、弥生土器試料で最も多いのはⅢ類であり、Ⅲ類の全点が弥生土器試料である。次いでⅡ類が4点、Ⅰ類は2点である。埴輪試料では、Ⅲ類がなく、Ⅱ類が9点と多く、Ⅰ類は5点である。

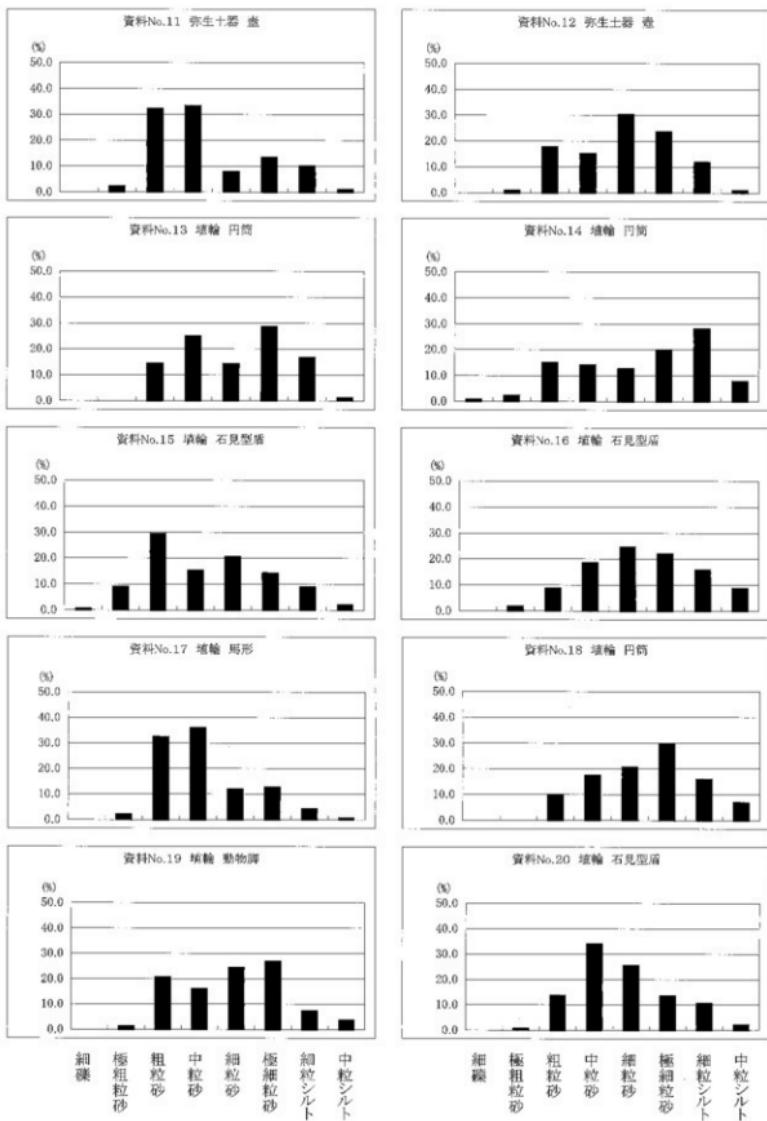
以上述べた試料の胎土分類をまとめて第4表に併記する。

4. 考察

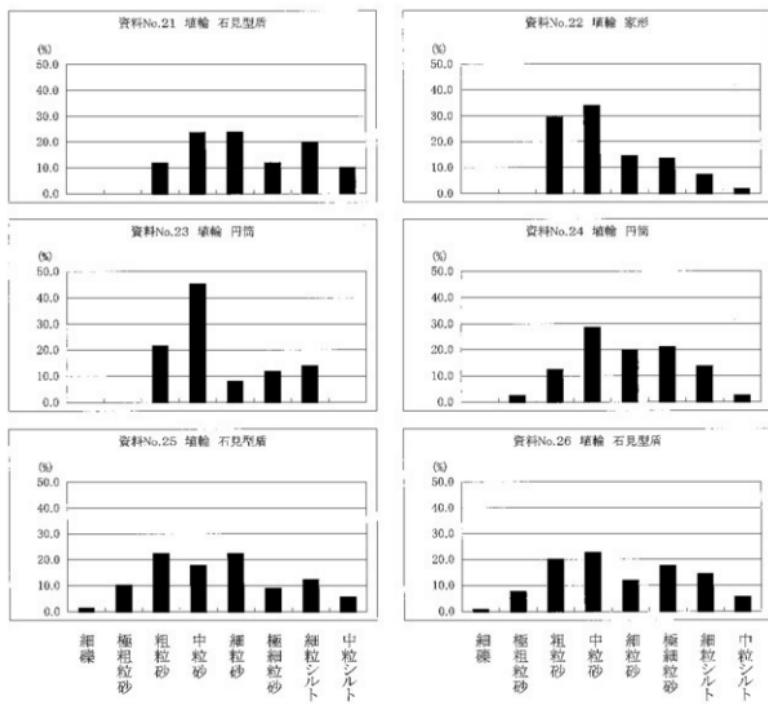
今回の試料の胎土に認められたA 1類とA 2類の鉱物片・岩石片の組成は、隣接する溝之口遺跡から出土した弥生土器および土師器の胎土と同様である。矢作・石岡(2006)による分析結果では、溝之口遺跡から出土した弥生時代後期とされた弥生土器の壺・壺・高壺およびイイダコ壺までいずれもA 1類に



第14図 胎土中の砂の粒径組成(1)



第15図 胎土中の砂の粒径組成(2)



第16図 胎土中の砂の粒径組成(3)

分類され、古墳時代中期とされた土師器の壺と高杯は A 2 類に分類された。同報告では、A 類の由来する地質として、猪木(1981)、日本の地質「近畿地方」編集委員会編(1987)および尾崎ほか(1995)などの記載から、加古川流域に分布する地質であると考えた。すなわち、加古川下流域から中流域の左岸側に分布する台地や丘陵を構成する鮮新世～更新世の湖成・河成堆積物である大阪層群、右岸側に分布する山地を構成する流紋岩やデイサイト質の溶岩および火碎岩(凝灰岩)からなる相生層群および相生層群に観入する播磨花崗岩類、さらには加古川上流域の山地を構成するチャート・砂岩・頁岩からなる丹波帯の以上新旧取り混ぜた各地質が混在する加古川下流域の堆積物の碎屑物の鉱物片・岩石片組成が、A 類には反映されていると考えられた。坂元遺跡も溝之口遺跡とは同様の地質学的背景にあることから、坂元遺跡から出土した弥生土器および埴輪は、いずれも遺跡周辺に分布する粘土や砂が材料として使用されている可能性が高い。

なお、今回の A 2 類に分類された試料における砂分中の火山ガラスの割合が比較的高いことから、おそらく、大阪層群からなる段丘や丘陵の崖面などに露出した火山灰層が意識的に選択された可能性がある。坂元遺跡より上流の加古川右岸に位置する都台の露頭では、厚さ10～25cm のバブル型火山ガラス

を主とする火山灰層が確認されており(佐藤ほか, 1999)、このような露頭があれば火山灰層を採取することは可能である。現時点では、今回のA 2類の試料の火山ガラスの採取地を特定することはできないが、今後、播磨平野東部地域におけるA 2類の分布を蓄積することにより、A 2類の由来する地域をより詳細に推定することが可能になることが期待される。

また、今回の分析では、弥生土器試料ではA 2類の方がA 1類よりも多く、それに対して埴輪試料にはA 2類は認められなかった。さらに、溝之口遺跡では、弥生土器試料は全てA 1類、土師器試料は多くがA 2類という結果もある。このような状況は、A 1類とA 2類の違いは決して偶然ではなく、何らかの事情の違いを示唆している可能性がある。ここで、溝之口遺跡の弥生土器の胎土の砂粒の粒径組成をみると、細粒砂または極細粒砂をモードとしており、今回の坂元遺跡の弥生土器のA 1類の試料が粗粒砂または中粒砂をモードとしている結果とは異なっている。さらに、碎屑物の割合も、溝之口遺跡の弥生土器は30%を超えており、坂元遺跡の弥生土器よりも高い傾向が明瞭である。一方、A 2類の溝之口遺跡出土土器の胎土の粒径組成は、粗粒砂や中粒砂をモードとするものがあり、坂元遺跡のA 2類の弥生土器とは異なる傾向を示す。これだけの例ではあるが、互いに近接する溝之口遺跡と坂元遺跡ではあるが、両遺跡の弥生土器は、地質学的に共通する材料を使用していても、両遺跡間でそれらが交換されるということはおそらく稀であったと考えられる。

A 1類とA 2類の違いという問題に戻るならば、上述の溝之口遺跡と坂元遺跡との比較から、粒径組成や碎屑物の割合と必ずしも整合するものではないと考えられる。この場合、A 1類とA 2類の違いは、素地土の可塑性や粘性、乾き具合の速さなど物理的な性質の違いには連動していない可能性がある。すなわち、A 1類とA 2類の背景にあると考えられる様々な事情の違いのうち、物理的な材質による使い分けという可能性はやや低くなる。使い分けではない場合に考えられることとして、製作者の違いという可能性がある。坂元遺跡の弥生土器の場合、A 1類の土を好む製作者とA 2類の土を好む製作者とがいたというような事情も想定できる。A 2類の土を好む製作者は、ある場所の火山灰層を取りに行っていたことも想像される。

いずれにしても、現時点ではまだ想像の域を出ることはなく、少しでも検証を進めるためには、様々な事例での分析結果を蓄積し、検討していく必要があると考えられる。

引用文献

- 猪木幸男, 1981, 20万分の1地質図幅「姫路」, 地質調査所.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高, 1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察—岩石学的・堆積学的による-, 日本文化財科学会第16回大会発表要旨集, 120-121.
- 日本の地質「近畿地方」編集委員会, 1987, 日本の地質 6 近畿地方, 共立出版, 297p.
- 尾崎正紀・栗本史雄・原山智, 1995, 北条地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 100p.
- 佐藤裕司・加藤茂弘・井上史章・兵藤政幸, 1999, 兵庫県、播磨平野東部で発見された酸素同位体ステージ7.3の海進堆積物、第四紀研究, 38, 401-410.

4. 和同開珎の材質同定

坂元遺跡の確認調査Na59トレンチから出土した和同開珎は、別府川左岸の段丘直下に立地する低地に埋蔵されていた。このため良好な遺存状況を示している。保存処理にあたって、事前に保存担当の岡本が蛍光X線分析による材質調査を行った。なお、対比資料として姫路市上原田遺跡（「上原田遺跡調査概報」「播但連絡有料自動車道建設にかかる埋蔵文化財調査報告書II」兵庫県教育委員会）から出土した和同開珎の内、1点の分析も行なったため、併せて報告する。

1. 試料調査の方法

調査は、兵庫県立考古博物館において行った。試料が小さく表面の風化が進みもろいため、エネルギー分散型蛍光X線分析装置(SPECTRO 社製 MIDEX M)を用いた非破壊による調査を行った。ターゲットはモリブデン(Mo)、管電圧45kv、管電流0.25mA、測定時間300sec、コリメーターは1mmを使用し大気圧中で測定した。

坂元遺跡の試料の全体的な表面の色調は、緑黒色を呈し良好な状態である。顕微鏡で見ると一部に調査時の擦痕が見られ、赤銅色を呈している。測定個所は、坂元遺跡は第17図、上原田遺跡は第18図の様に比較的風化の進んでいない部分2箇所を選び、分析を行なった。

2. 坂元遺跡の出土和同開珎の分析結果

今回の分析した2箇所の結果は差異がほとんど認められなかつたが、個々の形状の違いを少なくするため裏面の①を代表として第6表のデータと第19図の分析スペクトルを提示する。分析試料からはCu(銅)・Sn(錫)・Pb(鉛)以外にFe(鉄)・Ag(銀)・Sb(アンチモン)・As(砒素)等が検出された。分析値はAg以下については微量なので計算しない。Cu:Sn:Pb:Feの4元素の数値は75%:7%:18%:0.4%である。Sn/Cuは0.09、Pb/Cuは0.24であり、「鉛系」の新和同錢である。

3. 上原田遺跡の出土和同開珎の分析結果

今回の分析した2箇所の結果は差異がほとんど認められなかつたが、風化が少ない表面の③を代表として第6表のデータと第20図の分析スペクトルを提示する。分析試料からはCu(銅)・Sn(錫)・Pb(鉛)以外にFe(鉄)・Ag(銀)・Sb(アンチモン)・As(砒素)等が検出された。分析値はAg以下については微量なので計算しない。Cu:Sn:Pb:Feの4元素の数値は63.5%:8.5%:25%:3%である。Sn/Cuは0.13、Pb/Cuは0.39であり、「鉛系」の新和同錢である。

4.まとめ

遺存状況が良好な坂元遺跡出土の和同開珎に比べて上原田遺跡の和同開珎はCuの含有量が少なく、Sn・Pbの含有量が高いのは、風化に伴い酸化物となったときにCuよりSn・Pbの酸化物の方が比較的残存しやすいためと考えられる。

Feについては、試料が埋蔵されていた周囲の土の中に含まれていたものが試料中に取り込まれ検出されたものと考えられる。AgとAsは、今回の分析値を見る限りでは非常に微量であるためCuやPb鉱石の不純物として混入したものと見られる。Sbは、最近、奈良の飛鳥池遺跡の富本錢や和同開珎に意図的にSnの代用として混入されていたとして注目されているが、今回の試料の場合は意図的なものではなく不純物として混入したものと思われる。



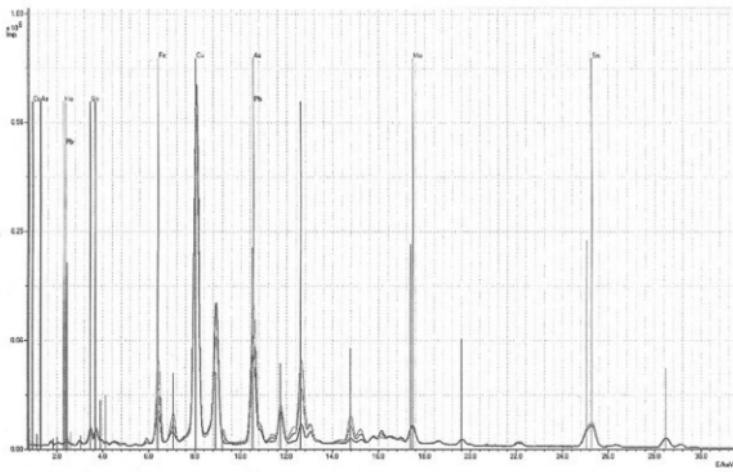
第17図 坂元遺跡出土と同開珍全体像と測定箇所



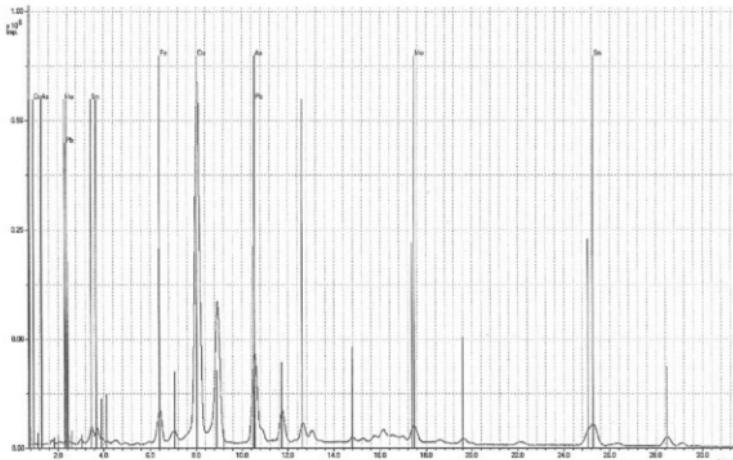
第18図 上原田遺跡出土と同開珍全体像と測定箇所

第6表 和同開珍測定表

Z	Symbol	Element	坂元遺跡011		上原田遺跡111	
			Concentration	Abs.Error	Concentration	Abs.Error
22	Ti	Titanium	0.0847%	0.0077%	0.2310%	0.0100%
23	V	Vanadium	<0.0081%	(0.0043)%	0.0365%	0.0041%
24	Cr	Chromium	<0.0031%	(0.0)%	<0.0034%	(0.0)%
25	Mn	Manganese	0.0151%	0.0017%	0.0776%	0.0024%
26	Fe	Iron	0.3717%	0.0038%	2.996%	0.010%
27	Co	Cobalt	0.0961%	0.0015%	0.0587%	0.0017%
28	Ni	Nickel	0.00591%	0.00021%	<0.0026%	(0.0)%
29	Cu	Copper	74.11%	0.06%	62.82%	0.05%
30	Zn	Zinc	<0.0051%	(0.0)%	<0.0049%	(0.0)%
31	Ga	Gallium	<0.0034%	(0.0)%	<0.0054%	(0.0)%
33	As	Arsenic	0.01284%	0.0%	0.02157%	0.0%
39	Y	Yttrium	<0.0020%	(0.0)%	<0.0039%	(0.0)%
40	Zr	Zirconium	<0.050%	(0.0)%	<0.050%	(0.0)%
41	Nb	Niobium	0.04055%	0.00088%	0.1540%	0.0024%
42	Mo	Molybdenum	<0.30%	(0.0)%	<0.30%	(0.0)%
45	Rh	Rhodium	0.0020%	(0.0)%	<0.0020%	(0.0)%
46	Pd	Palladium	0.0084%	0.0034%	<0.0075%	(0.0)%
47	Ag	Silver	0.2235%	0.0058%	0.3558%	0.0074%
48	Cd	Cadmium	<0.0089%	(0.0)%	<0.0100%	(0.0)%
49	In	Indium	<0.011%	(0.0)%	<0.012%	(0.0064)%
50	Sn	Tin	6.937%	0.027%	8.446%	0.031%
51	Sb	Antimony	0.2667%	0.0093%	0.181%	0.011%
73	Ta	Tantalum	<0.0010%	(0.0)%	<0.0010%	(0.0)%
74	W	Tungsten	<0.025%	(0.0)%	<0.025%	(0.0)%
75	Re	Rhenium	<0.0010%	(0.0)%	<0.0010%	(0.0)%
77	Ir	Iridium	<0.0010%	(0.0)%	<0.0010%	(0.0)%
78	Pt	Platinum	<0.020%	(0.0)%	<0.020%	(0.0)%
79	Au	Gold	<0.020%	(0.0)%	<0.020%	(0.0)%
82	Pb	Lead	17.82%	0.03%	24.61%	0.04%



第19図 坂元遺跡出土和同開珎の蛍光X線定性分析スペクトル



第20図 上原田遺跡出土和同開珎の蛍光X線定性分析スペクトル

VI まとめ

1. 弥生時代

当遺跡における弥生時代の遺構と遺物は中期を中心とし、一部後期におよぶ。中でも1区、12区、37区からはまとった形で中期の土器が出土しており、それらの概要を述べた後、弥生時代における坂元遺跡の変遷にもふれてみたい。

出土土器の分類については、出土量の多い壺類を中心とした一覧を第22図に示した。篠宮氏による分類⁽¹⁾に準拠しているが、一部簡略化したところや、1区・12区・37区以外から出土したものについては紙幅の都合もあり図示できていない点があることを最初にお断りしておく。

広口壺は口頭部が大きく広がる壺で、いくつものバリエーションがある。ここでは口縁内部に突帯を持つものを口縁内突帯広口壺、体部最大径をしのぐ口縁部径を持つものを大型広口壺、口頭部が太く外反するものを太頭広口壺とした。直口壺は口頭部が直立し、縦長の体部を持つものである。短頭壺は外傾する口縁部と直立するごく短い頭部が細長い体部に付くものと、直立する短い口頭部と胴の張る体部を持つものがある。大型短頭壺は外傾する口縁部を持ち、頭部に突帯を付加する。細頭壺は直立した細い口頭部と扁平な体部を持つものである。水差は直立する口縁部を持つ短頭壺に把手と脚台がつくものである。無頭壺は頭部を持たない壺で、脚台を伴うものといわゆるタコツボ形のものも含めている。高杯は口縁が水平に張り出す水平口縁高杯と椀形の杯部を持つ椀形高杯がある。この他にも甕、鉢も出土しているが、各地区の概要の中で触れておきたい。なお、12区出土土器に関しては、友久の素描を元にしているが、最終的な文責は鐵にある。

1区出土土器

この地区的出土土器は、方形周溝墓の可能性を持つ溝の出土資料を含めて、約80個体を図示している。ほとんどのものに焼成後穿孔があり、供獻土器と考えている。以下、器種ごとに特徴を見ていきたい。

広口壺に分類できるものが全体の3割を占める。その中でも口縁部・体部上半に櫛描き文・浮文を多用し、体部の張るもののが優位を占める。これらは口縁部に凹線を施すと共に頭部にも突帯に代わって凹線を加えている。また、口縁内突帯を持つものは2点と少なく、このうち94は頭部に突帯が残存し、口縁部の拡張もなく、古い要素を残す。加飾された広口壺以外にもプロポーションは同じであるが体部の文様が欠落する、あるいは側突起だけを施すものが少量認められるが、これらについても口縁部には凹線の上から浮文を付加している。太頭広口壺は3点確認された。頭部から体部にかけての形態にはあるものの、文様には加飾広口壺と同じく櫛描き文と浮文を用いる。

直口壺は6点確認した。うち4点は口縁部直下に複数条の凹線をめぐらせるだけの簡素な形態である。残りの2点はいずれも特異な形態である。126は口縁部・頭部に突帯を付加し、櫛描き文で飾り、体部も横に張り出すものである。128は口縁部に刻み目と突帯、頭部から体部に櫛描直線文のみを施し、頭部と体部の境界がやや不明瞭である。短頭壺は口縁が直立する形態のものが2点確認された。うち1点はミニチュアともいいくらい小型のもの、1点は口頭部全体に凹線をめぐらせ体部上半に櫛描き文で飾るものである。細頭壺は4点確認された。口縁部に凹線をめぐらせ、頭部から体部上半にかけて櫛描き文・浮文で加飾するものである。ただ、80については口頭部のみの破片であるが、頭部には凹線以外の文様は認められず、肩部にも文様はないようである。無頭壺は5点で、形態の変化に富む。タコツボ形

のもの 2 点、算盤玉状の体部を持つもの、口縁が内側に折れ脚台を持つもの、口縁に把手状の突起が付くものがある。水差は 4 点あり、基本的には口縁部の凹線以外の文様を持たないが、129は櫛描き文と突帯を付加し、149は刺突文を施している。高杯は口縁部が残存する 3 点を含め、5 点出土しており、水平口縁高杯と椀形高杯の双方が認められる。水平口縁高杯については、口縁端部の垂下がかなり進んでいる。壺は 12 点で器種別では広口壺に次いで出土している。口縁端部をつまみ上げ、外面調整がハケのものとヘラミガキのものがある。この他には分類では示していないが、くの字口縁の鉢が 1 点認められる。これらの土器は、広口壺の口縁部だけではなく、頸部にも凹線文が採用される事をはじめとして、すべての器種で凹線文が採用される点、壺類の体部が算盤玉状を呈する点、水差が出現している点、水平口縁高杯の端部が垂下する点からみて、東播磨 IV - 3 期を中心とする時期のものと考えられる。

12区出土土器

この地区的出土土器は 27 点を図示している。1 区と同様方形周溝墓の供献土器である。

広口壺に分類されるものは全体の 1/3 近くに占めており、優位を占めているのは口縁・体部上半に櫛描き文・浮文等による多くの加飾を施し体部が算盤玉形に張るものである。いずれも、口縁端面には凹線文が、頸部には断面三角形突帯が 2 ~ 3 条めぐらされる。加飾は口縁内面にも及び、波状文・扁形文が施され、2 帯が組み合わされているものもある。同時期の西播磨で優勢な壺には口縁内突帯が残るが、ここでは 1 点に見られるのみで、複数帶めぐるものも見られない。櫛描きによる加飾を持たない広口壺は 3 点見られ、そのうち大型の 194 は体部最大径を凌ぐ大きな口縁部を持ち、頸部に指頭圧痕文突帯がめぐる。上記分類では大型広口壺としたが、系統や器種の内容には再考の余地がある。また、比較的短い口頸部を持つ 2 点には櫛状工具による刺突文がめぐらされるが、口縁部への凹線文は施されない。太頸広口壺は 1 点見られ、加飾手法・文様構成は加飾広口壺と同様である。口縁内面は無文である。

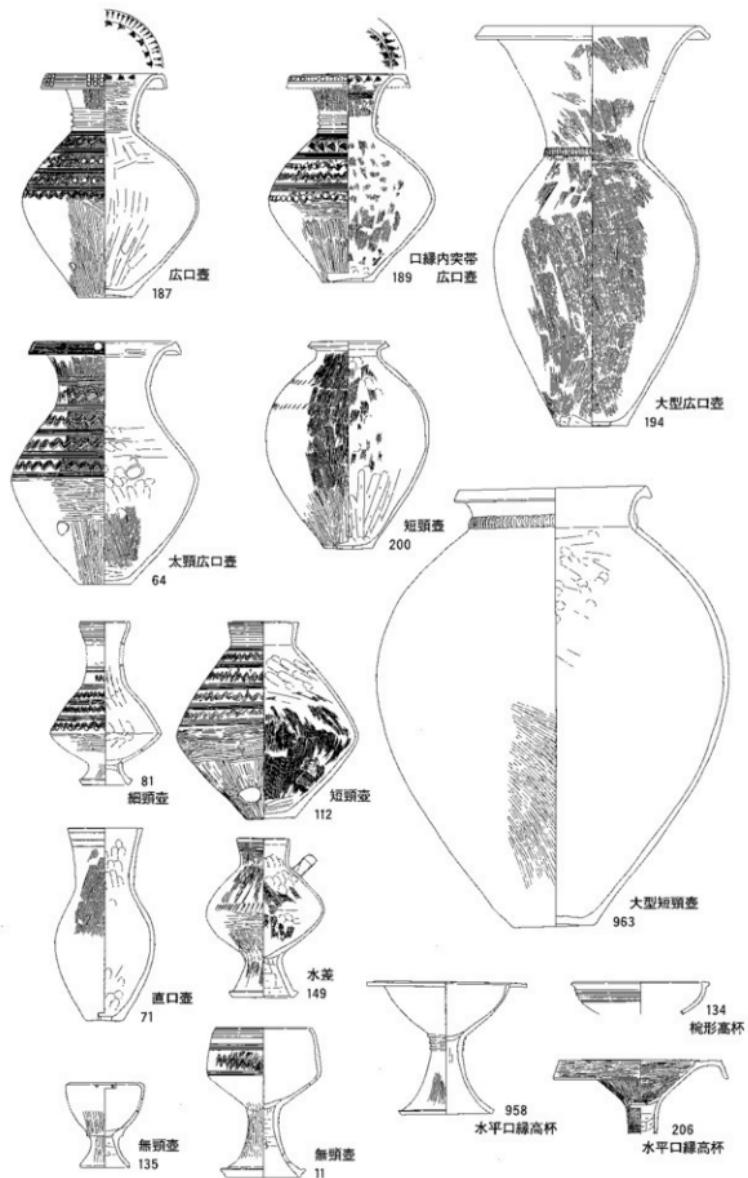
直口壺は口縁部に凹線文・刻み目をめぐらせるものがある。190 では口縁の一部に抉りが入り、その直下に 2 個 1 対の小円孔が穿たれている。頸部に刺突文がめぐる。

短頸壺では、口縁端部に斜行文、頸部に指頭圧痕突帯をめぐらせ、大型短頸壺を小型化したような 212、口頸部の短い直口壺ともみえる 193 の他、短い口縁部が屈曲して開き、体部上半に櫛状工具による刺突文が 2 段にめぐらされる 200 がある。これには中部瀬戸内地域に類似例が認められる^④。

細頸壺も櫛描きによる直線文・波状文・円形浮文による加飾が頸部および体部に施されたもので、加飾広口壺に準ずる供献品であろう。無頸壺には複数の形態が認められる。195 は深いカップ状の体部に高い脚が付き、ヘラミガキで丁寧に仕上げられ赤色化粧土が塗布される。この時期の中北部瀬戸内地方で見られるタイプの台付鉢に類似する^⑤。215 は口縁部直下に突帯がめぐり、注ぎ口の剥離痕が残る。201 は深いカップ状で、いわゆるイイダコ壺であろうと思われる。高杯は水平口縁の端部を程度の差はあれ下方に垂下させ、脚柱部中位に沈線がめぐらされる。杯部底の充填された円盤の中央に焼成後穿孔が穿たれる。壺はくの字口縁で、端部を上方へ引き上げている。これらの土器については、壺の口縁部に凹線文が採用されるものの、頸部には断面三角形突帯が残ること、口縁部に突帯をめぐらせる無頸壺が残る点、水平口縁高杯で端部の垂下に長短がある点、水差が出現していない点か



第21図 SD1203出土土器



第22図 弥生土器分類

らみて東播磨IV-2期にあたると考えられる。

37区・38区出土土器

37区のSD3704では多数の土器が廃棄されていた。図示できたのは20点である。広口壺が1/3を占め、うち半数に口縁内突帯があり、二重に突帯を巡らせるものもある。口縁端面は拡張されておらず、凹線ではなく刻み目を施す。頸部には断面三角形突帯が付加されている。全体の判明する良好な資料がないため、体部の加飾状況は不明瞭であるが、966やSK3809出土の944からみて、櫛描きによる複数の文様で加飾されていたと思われる。壺類では他にも数は少いものの、断面三角形突帯を巡らせる直口壺や、口縁端部に斜格子文を施した無頸壺があり、頸部に指頭圧痕突帯を巡らせた大型短頸壺が出土している。高杯は水平口縁高杯であり、口縁端部の垂下ではなく、端面に刻み目を施している。また、958については脚柱部に断面三角形突帯を加える。壺はくの字口縁壺で、壺部の引き上げがあるものと無いものがある。956のようにかなり胴部が膨らむものについては無頸壺とした方がよいかもしれない。

これらの土器は壺に四線の採用が無く、頸部の加飾が断面三角形突帯である事、大型短頸壺の存在、水平口縁高杯の形態から見て、本文中でも触れたとおり、東播磨III-2期にあたると考えられる。

他の地区出土土器

他の地区で出土している弥生土器についてもごく簡単に述べる。22区のSK2201でIV期の直口壺、25区のSB2502でIII期の水平口縁高杯、26区のSX2604でIII期の直口壺・広口壺・外反口縁高杯、直口鉢が出土している。28区のSH2801からはIII期の広口壺・くの字口縁壺・脚台とIV期の大型受口壺が出ている。SK2801・SK2802でもIV期の壺・壺が出土している。31区ではピットからIII期の直口鉢、SK3106・SK3112・SK3116からIII期の口縁内突帯広口壺を含む壺や大型短頸壺と無頸壺の中間形態を示すような壺、外反口縁高杯、SK3103・SK3115からIV期の広口壺・くの字口縁壺が出土している。45区・48区・50区の溝からはV期後半の土器が出土している。53区のSX5303・SX5304・SX5307からは量は少ないものの東播磨III-2期と思われる土器群が出土している。広口壺は口縁部に四線が採用されず、頸部には断面三角形突帯が付加されている。特に加飾性の強い1130は、口縁内突帯が二重にめぐり、口縁内面に櫛描きと二種類の浮文、端面に格子文と浮文、頸部に突帯と浮文、体部上半にも三種の櫛描き文と円形浮文を施している。また、口縁部と頸部に突帯を持つ直口壺1132は1区の128と共通するものがある。56区のSH5601からは東播磨V-4期の直口壺・短頸壺・器台・鉢がまとまって出土している。

以上、坂元遺跡の弥生土器を概観した。結果的に中期はIII-2期、IV-2期、IV-3期の3段階があり、少し断絶があった後、V期後半の土器が認められる。III-2期に調査地域南西部の段丘上で遺構が営まれ始める。この段階では住居跡・土坑が確認されている37区南半から31区にかけてが居住域であり、その北側に近接して墓域が営まれている。次のIV-2期では墓域が12区周辺にも営まれるようになり、集落範囲が拡大する。そして、IV-3期には新たな墓域が白ヶ池川の北側の段丘面に築かれる。ただ、IV期の居住域についてはIII期のそれと重なる形で想定されるが、IV期の土坑がIII期のものと混在して検出されている以外に、それを証明する材料はほとんどない。V期前半の断絶のあと、新たな居住域が57区周辺に営まれると共に、31区周辺でも再び居住が始まると、遺構や遺物の点から見ると、調査範囲内においては、中期よりも規模が縮小したものと思われる。

(鑑)

注

(1) 篠宮 正「東播磨地域における弥生土器編年」「弥生土器集成と編年－播磨編－」(2007)

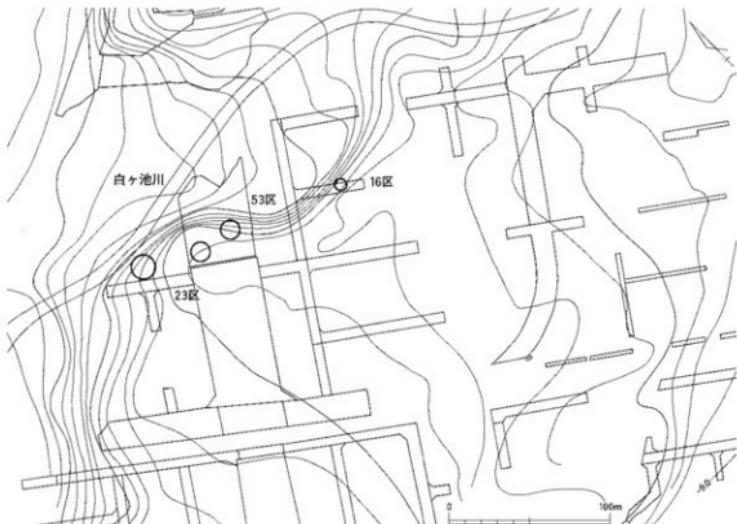
(2)・(3) 正岡陸夫「備前地域」「弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編」(1992)

2. 古墳時代

古墳時代の遺構は堅穴住居跡11棟・埴輪窯跡2基・古墳3基と水田跡を検出している。白ヶ池川南岸の微高地上に古墳が築造されている。弥生中期の墓域と同じ地域であるが低地にまでは広がっていない。今まで日岡丘陵や西条には多くの古墳が知られているが、坂元近辺の平地では良野の具平塚古墳だけが存在し、さらに南鶴長砂に前期古墳の聖陵山古墳が立地しているだけである。古墳以外の遺構や別時期の遺構も今回の調査ではじめて知られるようになった。埴輪窯跡は段丘崖を利用して構築しており、水田跡は低地に広がっている。生産域は低地とその縁辺となる。居住域は段丘面上である。

堅穴住居跡は31区・37区・40区・56区で検出している。56区だけが白ヶ池川北岸になるので、小単位の集団は異なっているかもしれない。祭祀土坑が17区・19区にあり、土坑も段丘上には広がっているので、全域に生活の痕跡を残している。の中でも別府川に近い低い部分を選択している。7世紀に遡る水田が確認されたのは、28区・30区の低地部分であり、水田部と近接していることに起因している可能性がある。

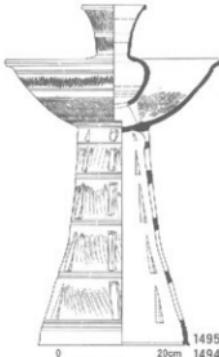
古墳は白ヶ池川南岸の縁辺部に並んでいる。3基を確認し、53区のSX5302の埴輪が多数出土している地点にも古墳の可能性を求めれば、4基となる。すでに削平された古墳があり、未だ知られていない埋没古墳が存在するものと思われ、それ以上に古墳が並んでいたことは確実であろう。3基の古墳は東からSX1603・SX5301・SX2301北となり、SX5301以外は埴輪が出土している。年代は、SX1603→SX2301北→SX5301の順になる。SX1603出土の埴輪は粗い縱方向のハケメが見られ、色調も黄橙で胎土が緻密であることから、埴輪窯跡などから出土した埴輪とは異なっている。円筒埴輪以外に武人埴輪・人物埴輪(腕のみ)と家形埴輪が出土している。1段階古い6世紀前半(初頭)であろうか。SX2301北は円筒埴



第23図 坂元遺跡古墳分布図

輪・朝顔形埴輪が出土している。切り合い関係にある SX2302からは石見型盾の脚台部が出土している。北側で工事中採集された石見型盾や須恵器装飾器台も同一古墳のものと想定している。そうなると大形の土器である朝顔形埴輪・石見型盾形埴輪・装飾器台を周囲(主体部)に樹立させた(巡らせた)古墳となる。SX1603の次代であろう6世紀中ごろと思われる。SX5301は周溝から須恵器が出土している。杯・高杯が出土していないので確定ではないが、TK10からTK43くらいで、6世紀中ごろから後半までと思われる。3基の古墳は時代的に継続している。

埴輪窯跡は兵庫県下ではじめての調査例である。分布調査をはじめ調査段階でもまったく埴輪を探集することが出来なかつたので予想外であった。段丘崖を利用した築造位置も今後の分布調査にあたって注意すべき教訓となつた。SX5305は段丘面を利用した幅1.8~2.0m、長さ4.5m窯窓で、床面下半は18°と緩やかで上部窓出し近くで40°の急斜面となる。形象埴輪を主体に焼成した窯跡である。もしかすれば、円筒埴輪は全くない形象埴輪専用窯の可能性は高い。石見型盾形埴輪を主に家・人・鹿・馬を焼成している。石見型盾は最も多く出土している4段の鱗があるタイプで円孤文を描いてゐる。全国で80数例の出土が畿内を中心にしており、広島県から群馬県までの広がりを持つ遺物である。窯跡例も奈良県・大阪府の4遺跡と岡山県・愛知県・三重県での例があるが、数少ない調査例である。県下で窯跡出土は坂元遺跡だけであるが、その他古墳などから8遺跡の出土が知られている。明石川流域に5遺跡と集中し、姫路平野で2遺跡と揖津・揖保川に各1遺跡である。坂元遺跡では窯跡と古墳の両者から出土しており、それは寄附関係にある。周辺の明石・姫路の埴輪は文様構成や形態が異なり別物である。坂元遺跡の窯跡 SX5305は短期間の操業で、小範囲しか供給していなかったかもしれない。石見型埴輪も興味深いが、57区 SK5701の淡輪技法の埴輪も注目される。分布調査での確認は困難な小規模な焼上坑で埴輪を焼成している。粗い外面成形は23区の古墳との関連が窺われる。6世紀初頭から前半に坂元遺跡の白ヶ池川南岸の段丘上を利用して埴輪を作製し古墳を造営したものと思われ、今回調査した以上に眠っているものと思われる。日岡古墳群や西条古墳群を築造した首長クラスとは異なり、次代の1ランク下の系譜を求めるのが妥当であろう。



第24図 器台復原図

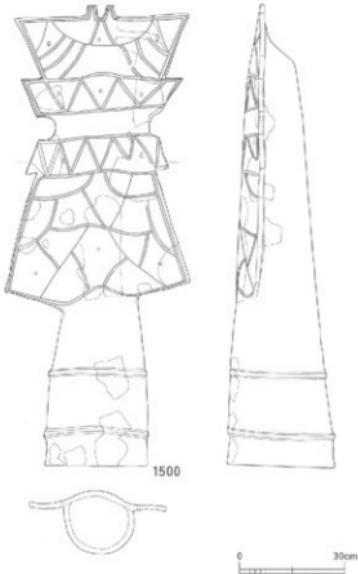
(渡辺)

第6表 石見型埴輪地名表

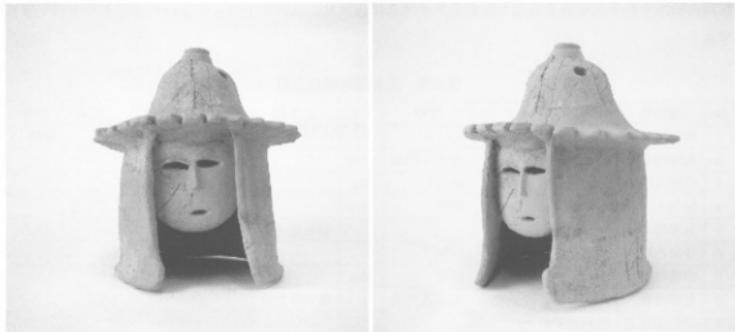
No	遺跡名	所在地	墳形	規模	主体部	伴出埴輪	時期	備考
1	坂元	加古川市野口町				馬・鹿・人・家		窯跡
2	大塚山古墳	尼崎市南清水	前方後円墳	44m		蓋・敷	TK10	
3	亀塚古墳	神戸市西区玉津町	帆立貝	29m		家・太刀・人・動物		
4	柿谷1号墳	神戸市西区伊川谷町	円墳	14m		家・人	TK10	
5	高津橋大塚	神戸市西区玉津町			削竹形木棺	家・人	5C末	遺跡出土
6	寺山古墳	明石市魚住町長板寺	円墳?					
7	中尾古墳	明石市中尾	円墳	16m				
8	見野長塚	姫路市四郷町見野	前方後円墳		横穴式石室		TK10	
9	手柄山周辺	姫路市手柄						採集品
10	西宮山古墳	たつの市龍野町日山	前方後円墳	35m	横穴式石室	蓋・家	MT10	



第25図 石見型盾



第26図 石見型盾復元実測図



第27図 武人埴輪

3. 奈良時代の中心遺構

坂元遺跡の大きな成果の1つとして多数の掘立柱建物を検出したことである。今回報告する坂元遺跡II分で86棟の掘立柱建物を検出した。そのうちSB2502だけが弥生時代の掘立柱建物である。それ以外にSB0201やSB5101のように低地で検出した平安時代末以降と時代の下る掘立柱建物を7棟調査している。それを除く78棟が律令期のものである。JR山陽本線高架工事に伴う調査(26区と28区の間「坂元遺跡I」)では20棟の掘立柱建物が調査されている。調査面積は遺跡全体の3割に満たない数字であることを考慮すると、非常に多くの掘立柱建物が存在することになる。

ただ、の中でも26区・28区・31区・37区・38区と坂元遺跡I部分の地域は遺構が密集した地域である。掘立柱建物の主軸方向から分類した正方位を探るAプランの時期は多少の広がりを有する。白ヶ池川の北側にも広がっている。総柱建物はすべて北側に存在し、この時期の特徴を示しているようである。ところが、8世紀後半のBプランの時期になると36区 SB3602 1棟だけが前代から継続して総柱建物を建てているが、それ以外の6棟は中心地に建設されている。Bプラン全体の掘立柱建物の数量でも中心地域に26棟あり、他地域は2棟だけと大きな較差がある。出土遺物の内容からみて明らかである。量的に内容的にも圧倒的に多くの遺物がこの部分から出土している。

遺構からその中心地域の外部ラインを追うと、大きさは西側26区から31区に流れる流路(SR2601・SR2801・SR3101)、東側は19区から20区・27区・40区を通るやはり旧流路(SR1901・SR2001・SR2701・SR4001)のラインである。北側は37区の遺構の希薄部分かと思われる。小さく見ると西辺は26区 SR2601の東側に平行する溝もしくはその東にあるSD2603である。南辺は28区 SD2809から40区に入り、東辺は SR4001西側の断続的な溝痕跡が北へ延びる。38区 SD3801から37区 SD3703となる。北側で浅くなり削平を受けているようである。北辺は残存度が悪いが2条の溝があり、いずれかが北辺に当たるものと思われる。

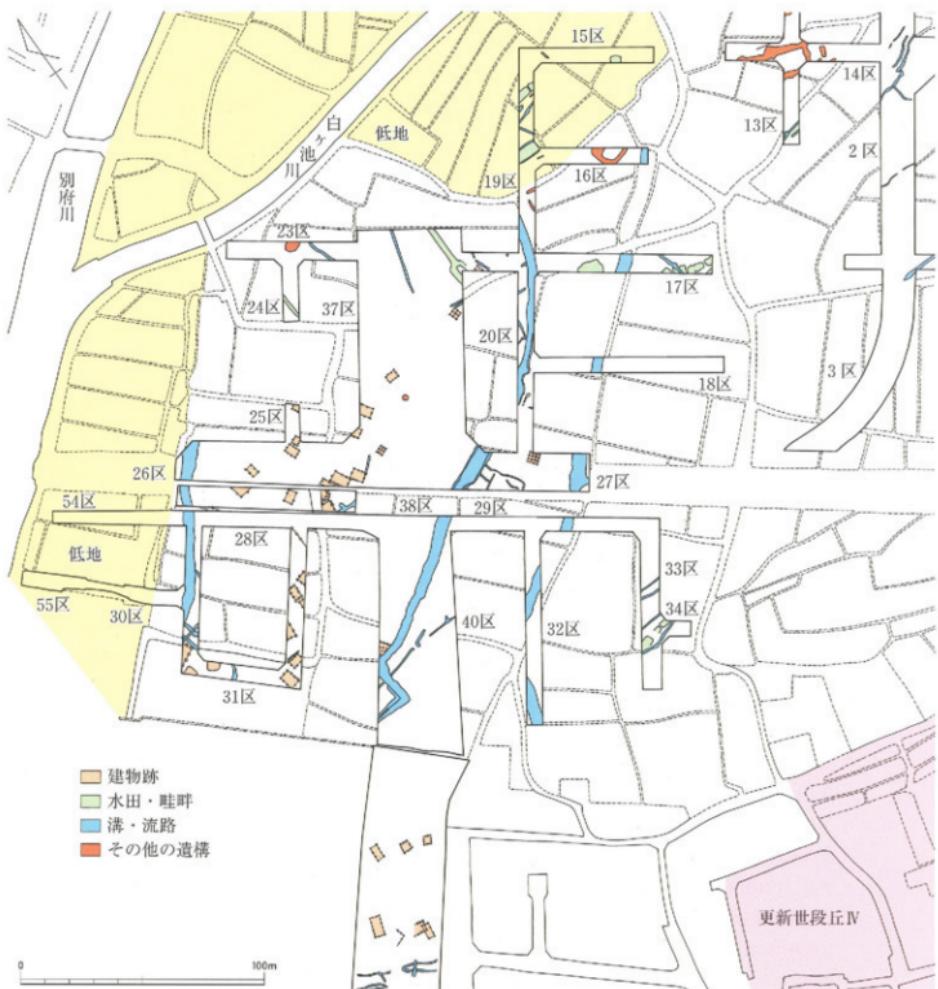
その規模は東西80m(SD2603で限れば70m)、南北80mの方形となり、これが中心区画と考えられる。古い時期の井戸 SE3701はこの東辺の溝と同じ位置にある。この中にBプランの掘立柱建物は20棟存在する。I時期ではないかもしれないが、相当数の建物が建っていたことになる。総柱建物は26区西端SD2603の東側に1棟(SB2601)位置する。北側調査区外に延びているが3間×3間と思われる。東側の区画外(巨視的にみた内側)であるがSB2701がやはり3間×3間の総柱建物である。中心区画東西と南側40区にもSB4001があり周囲に倉庫があることになる。中心区画にある建物はほとんどが2間×3間のもので、極めて大きな規模や特徴的な建物は確認されていない。37区西側が未調査で、80m四方の居域からすると中央部分は未調査地に位置するものと思われる。

出土遺物は周辺の流路を中心に、この区画は量的に多い。特にSR2601などの西側流路には大量に遺物が包含している。その多くは日常雑器であることが特徴であるが、播磨国府系軒丸瓦や多嘴壺・円面鏡など官衙的な代表遺物もここから出土している。この両面性が駅家郷として相応しい状況と言える。瓦そのものは中心地で多く出土していることは確実である。

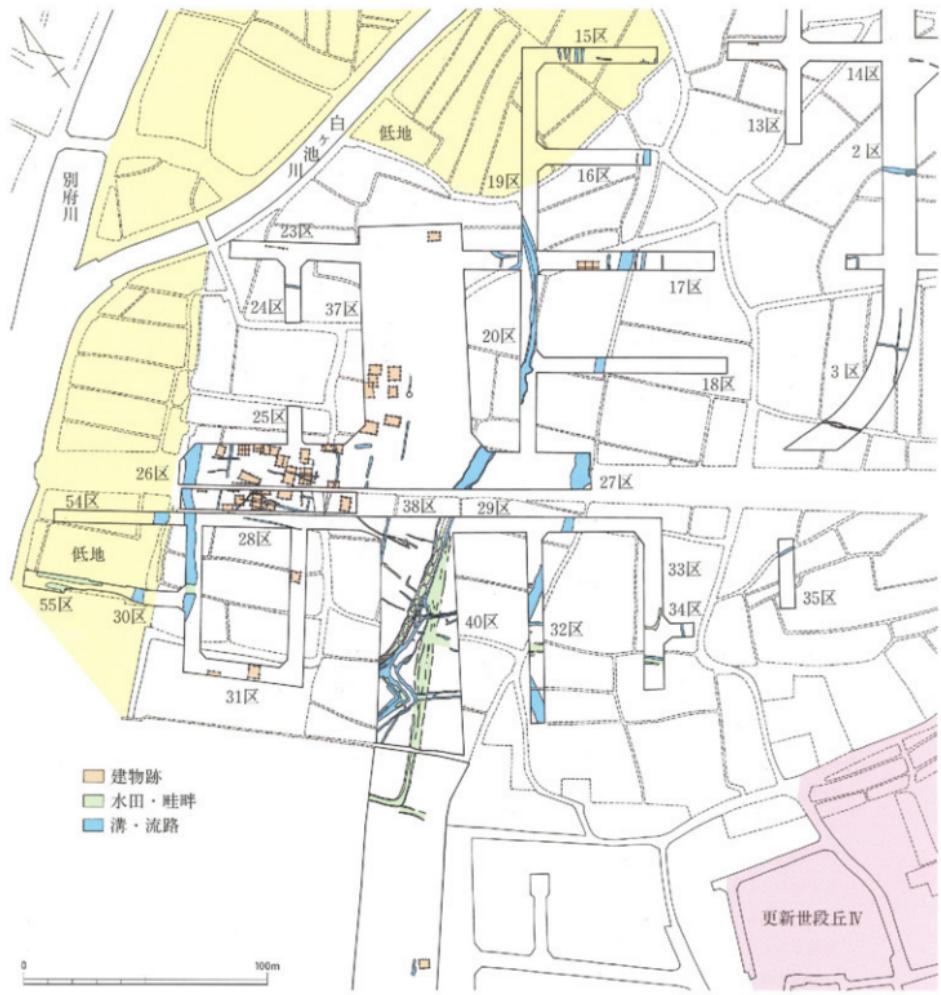
(渡辺)



第28図 空中写真(西上空から)



第29図 奈良時代前半の坂元遺跡



第30図 奈良時代後半の板元遺跡

4. 条里型地割の復元と集落の考察

はじめに

坂元遺跡では弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が検出されているが、大きな割合を占めるものは律令期の集落及び水田跡を主とした生産遺跡である。ここでは、主に検出された水田畦畔や水田に伴う水路の方位をまとめ、坂元遺跡内で検出された主に大畦畔跡をもとに更に現地表の地割痕跡を参考に遺跡及びその周辺における条里型地割の復元を行う。

加古川市域には現地表に1町方格の水田区画がよく残っており、加古川左岸の溝ノ門、更に野口町にかけても条里型地割が存在することがわかっている。その成果は『加古川市史』においても復元図が提示されている。

加古川市域のなかで、加古川左岸において判明している条里型地割は2種存在する。

1つは、正方位ではなく、北東へ軸をもつ条里型地割である。この地割は現地表に非常に多く残っており、条里型地割は正方位から約44°東へ振る。先学の研究成果を参考にすれば、古代山陽道を基準に方格地割を施行したことが判明している。坂元遺跡の南・西側を中心に広範囲に存在している。

いま一つは、東西南北の正方位に地割を行うもので、主に坂元遺跡の東側、野口町の東半、教信寺・野口庵寺の立地する台地上を中心に存在する方格地割である。高橋美久仁はこの地割が古代山陽道を越え更に南側(古大内遺跡=賀古駅家)周辺にまで広がることを指摘している。

結論を先に提示すれば、坂元遺跡にはその両者が存在しており、前者が新しく後者が古いという時期差が遺構から認められた。ここでは、坂元遺跡における正方位の方格地割を条里型地割プランA(以下プランA)、北東に軸をもつ方格地割を条里型地割プランB(以下プランB)としておく。

条里型地割プランBの復元

遺構として顕著な大畦畔は南北方向では40区、東西方向では東から33区・32区・40区・31区・30区・55区を走る1条の大畦畔が検出されている。

40区において北東・南西方向に検出された大畦畔は数条の溝が掘られており、対になる溝間の距離は約1.8mをはかる。この大畦畔は現地表に残る条里型地割りの南北方向の延長上にあり、一部は調査前の現地表にも畦畔として残っていたもので、今回の調査において、現地表の地割の下から、及び延長上からも畦畔が確認されたことになる。この畦畔の延長上には37区の東側にも同方位の畦畔が現地表において確認でき、北側の段丘崖に向かって現地表に一部残る坪境の大畦畔が、過去には調査地点内を北上していたことが判明した。

南北に対して東西については、33区・32区・40区において大畦畔と考えられる2本の溝が約1.2mの間隔をあけて検出されている。その延長上にあたる31区では流路 SR31001を渡る土橋があり、30区では湿地を渡る木芯を入れた大畦畔 SX3001が、更に55区では張り石を施した大畦畔が確認され、立体的な構造物として畦畔を検出している。これら各地区の大畦畔を図上におとした所、ほぼ一直線となることが確認された。

この南北及び東西方向に検出した大畦畔を図上におとし、更に1町方格を設定したものが第32図右である。

この図から40区の南北方向の大畦畔(イ)に対して1町西側の坪境線(ア)が現地表の段丘崖縁上の土地区画線にあたること、(イ)に対して1町東側の坪境線(ウ)が現地表の農道に一部遺存していることが明

らかである。また図よりはみ出したが、6区のSD0602、7区のSD0703・SD0704、2区東側のSD0208は更に1町東側の南北の坪境線に伴う溝と考えられる。

対して、東西方向の大畦畔(C)に対して1町北側の坪境線(b)が3区の南端溝にあたること、及び現地表の東西方向の農道に一部遺存していることも分かる。2町北側の坪境線(a)が2区の溝SD0209にあたることも明らかである。

以上の結果から、坂元遺跡には少なくとも南北4条、東西3条の坪境線が存在することが推断できる。

第31図は、復元した坂元遺跡内の坪境線をさらに広い範囲の地図に落とし込んだものである。図左側から伸びる現地表に残る条里型地割の延長上に坂元遺跡内の坪境線(条里型地割プランB)が合致するところが分かる。この現地表の方格が主に『加古川市史』において復元図が提示されている古代山陽道を基準に方格地割を施行した条里型地割である。

次にこれらのプランBを構成する大畦畔の成立時期が問題となる¹⁾。

通常、現代に遺るいわゆる条里型地割の時期は概ね中世以前ることは少ないが、坂元遺跡では32区・33区・40区において検出される畦畔の側溝は、何れも9世紀代と考えられる黄白色洪水砂礫によって埋没あるいは被覆されている。ここより各地区の大畦畔の成立が9世紀より古いと推定できる。

また、30区において検出されたSX3001は9世紀代の洪水砂によって埋没しているが、畦畔が跨ぐSR3001埋土からは8世紀前葉を中心とする土器が一定量出土している。段丘際(ア)に沿って通ると考えられるSD3002についても9世紀代の洪水砂によって埋没している。これらのことから、30区即ち段丘下の湿地では9世紀代には大畦畔が洪水によって埋没しており、8世紀前葉には造られていなかった可能性が指摘できる。

55区では30区から延伸した大畦畔が検出されている。この部分では張り石が認められ、更に畦畔構築時に土馬・桶・木皿を使用した祭祀が行われていることが今回の調査において明らかとなった。

以上のことから条里型地割プランBの方格は、少なくとも坂元遺跡においては8世紀後半には成立し、一部が9世紀に入って埋没したことが明らかである。

条里型地割プランAの復元

正方位に輪をもつ畦畔・溝の存在が複数の地点において明らかとなっている。また、現地表においても極部分的に正方位に畦畔・農道が存在している。これらの要素をつなぎ、正方位に輪をもつ条里型地割Aの復元を行う。

造構として顕著な畦畔は南北方向では29区・37区、東西方向では東から33区に畦畔が検出されている。これ以外には、2区・15区・19区・31区において東西南北方向の溝・水田が確認されているほか、現地表において東西方向の畦畔が部分的に残っていることが明らかとなった。

この南北及び東西方向に検出した畦畔・溝を図上におとし、更に1町方格を設定したものが43図左である。

この図から40区の南北方向に想定した大畦畔(あ)に対して1町東側の坪境線(い)が29区SD2903と37区の南北方向の大畦畔にあたること、また、南側の現在の農道がその企画を継承していることが明らかである。更に、大畦畔(い)に対して1町東側の坪境線(う)が15区のSD1501・SD1509の南北溝が集中する地点にあたることも読み取れる。少なくとも調査区内に1町間隔で南北3条の坪境線が存在する可能性が浮かびあがる。これに対して、東西方向については、まず、33区において検出された下層水田と南側を通るSD3328の延長上に現地表に東西方向に走る畦畔が続くことに注目する。この東西のラインを

基線に半町分北側を SD4077 と SD2906 を結ぶ線が通る。さらに 1 町北側には 37 区南側の現地表に東西方向の畦畔が存在している。更に半町北側には 19 区 SD1904・15 区 SD1516 よりなる東西方向の溝・水田が確認されている。以上の結果を 43 図に落とし込んだところ、坂元遺跡には少なくとも南北 3 条、東西方向には半町間隔で 5 条の方格地割線が存在することが推断できた。

では、復元したこれら東西南北の地割線が坂元遺跡周辺の局地的なものであるのか、更にとくに東西方向の 5 本の地割線のどれをもって坪境線と認識できるのか、以下、検討する。

図 42 は、復元した坂元遺跡内の坪境線(プラン A)をさらに広い範囲の地図に落とし込んだものである。

まず、図右側の教信寺が所在するいわゆる野口台地上に正東西南北方向をむく条里型地割が存在することが分かる。

野口台地上に正方位の条里型地割が存在することが指摘された歴史は古く、吉本昌弘は野口廃寺周辺に残る正方位の条里型地割から野口台地上に賀古郡衙の存在を推定している²。また、高橋美久仁は野口台地上の正方位の条里型地割が賀古駅家推定地である古大内遺跡周辺にまで及び、古大内遺跡自体が正方位の方格地割に則って位置していることを指摘している³。この先学の研究成果を受け、特に古大内遺跡周辺の方格地割については高橋美久仁が掲載した字限り図の成果を参考に空中写真・昭和 45 年代の都市計画図・現地踏査によって野口台地上の方格地割の復元を行った。

坂元遺跡において復元した方格が、野口台地・古大内遺跡周辺から延びる現地表に残る東西南北の条里型地割と合致することが分かる。古大内遺跡が 1 町方格内に入り、教信寺と不動院を結ぶ線が坪境線となる。また、野口廃寺(野口神社)が東西 1 町・南北 2 町の方格内に収まる。古大内遺跡の南西隅から 10 町で 40 区内を東西に走る方格線にある。即ち、43 図では、南北あ・い・う、東西 A・B・C の各 3 条が坪境線として復元でき、その中を半町ごとに区画していた可能性が高いのである。

次にこれらプラン A を構成する大畦畔の成立時期が問題となる。プラン A を構成する南北方向を指向する溝・畦畔あるいは現地表に残る畦畔についてもその大半がプラン B よりも古いこと(あるいは終焉が早いこと)は各調査区の結果、及び現地表ではプラン A の畦畔がプラン B の地割に埋没し僅少であることからも明らかである。

プラン B が 8 世紀後半には成立していることは先に述べた。40 区ではプラン A の方格に則った遺構として、SD4015 が存在する。SD4015 は、飛鳥 II ~ III 期の遺物をもつ SR4001 の 3 層を切って掘削されしており、溝内からは、7 世紀末 ~ 8 世紀前半の遺物が出土している。大まかな時期比定を行うならば、SR4001 が埋没する 7 世紀後葉よりも新しくプラン A の遺構は營まれ、30 区の成果を勘案するならば、8 世紀後半にはプラン B へと切り替わると考えることができる。7 世紀末から 8 世紀前半にはプラン A の条里型地割が坂元遺跡内に及んでいた可能性が指摘できる。

条里型地割 A・B についてまとめるならば、1. 7 世紀末から 8 世紀前半には坂元遺跡周辺には正方位の方向をもつ条里型地割プラン A が存在した。2. 正方位の地割プラン A は東側の野口台地上を中心には存在する地割の一部である。3. 地割プラン A は野口台地上を中心に野口廃寺(白鳳期の寺院か)、古大内遺跡(賀古駅家推定地)をその方格内に納めている。4. 坂元遺跡周辺の条里型地割は 8 世紀後半には北東の方向をもつ条里型地割プラン B に切り替わる。5. 条里型地割プラン B は加古川左岸一帯に広がる、古代山陽道を基線として施行された条里型地割である。

以上、2 種の条里型地割の復元を行い、7 世紀末以降、坂元遺跡では計画的な土地区画が行われてい

ることについて述べた。特に8世紀後半に行われた条里型地割プランBは古代山陽道を基線として加古川左岸(賀古郡)全城に施行されており、都規模で行われた大規模な計画的な土地区画に坂元遺跡周辺が含まれていたことを示すものである。

次に、主に水田域について行ってきた地割の復元作業を集落域に広げ、8世紀を中心とした集落の動態を検討したい。

律令期の集落

7世紀末～9世紀にかけて、段丘上の北西端に建物跡が集中する。図版1からも明らかなように集落は28区・31区・37区周辺の約20,000m²の範囲に集中していることが分かる。今回の調査では、その全てを発掘した訳ではなく、内約30%が調査されたと考えてよく、単純に考えれば250棟近くの建物が存在したと推測できる。

調査した建物は、3棟の堅穴住居跡(土房跡か)を除き、全て掘立柱建物跡である。総数は80棟を越えており、その殆どが8世紀代に収まるものと考えている。これは、県下の律令期の掘立柱建物跡群としては最大級である。

ここでは、条里地割検討から導きだした、正方位を指向する建物群(A群)と北東方向を指向する建物群(B群)を抽出し、図43の復元した条里型地割プランに分けて書き入れた。以下のことが指摘できる。

集落の配置 8世紀前半の建物群は31区を中心に大鞋畠を越えて37区にまで散漫に認められる。また、40区より南側の南北道関連の調査区(今回は未報告)においても集落の単位が認められる。

8世紀後半の建物群は26区を中心とした部分に集中する。それは、1町方格の中に取り、更に微細にみれば、方格内に存在する区画溝によって南・東を画された約80m四方内に密集する。

即ち、8世紀後半に賀古郡全城において行われた土地区画の変更と連動して、坂元遺跡では計画的な集落配置が行われ、1か所に集められたことが明らかである。

集落の性格について 坂元遺跡では、和同開拓・円面鏡・墨書き土器・木製祭祀具(斎串・人形・馬形)・稜枕・綠釉陶器・灰釉陶器・豪量である軒平瓦(播磨國府系瓦)が出土しており、やや新しいが呪符木簡など官衙的な遺物が多数出土している。しかし、同時に、土鍤やイイダコ壺、土師器甕・鍋・竈類などの雑器も多く出土していること、集落自体は条里型地割に規制されているが、1棟ごとの規模は倉庫と考えられる縦柱建物を除けば、8世紀を通じて、ほぼすべてが2×3間の側柱建物で構成されており、官衙的な配置もまた確認できること。以上の要素は、遺跡が官衙関連遺跡ではなく、一般集落の範疇を出ないことを指している。そのなかで注目すべきものとして、『大家』・『吉家カ』といったいわゆる『家』=ヤケを指す墨書き土器の存在がある。ヤケの性格について今回触れる紙数はないが、吉田孝のヤケ(ヤカ)を『門をもつ垣に囲まれ、内部に屋・倉などをもつ施設(屋敷)であり在地首長・豪族層の農業経営の拠点』と捉えるならば、県下では『大家』・『中家』といった墨書き土器が郡家・駅家などの官衙関連遺跡を除けば、坂元遺跡と同質的一般集落の範疇をでない大規模な集落遺跡から出土していることも、然りである。

さて、坂元遺跡の南南東約1kmの地点には古代山陽道最大の規模を誇った賀古駅家(古大内遺跡)が存在している。播磨国風土記には『駅家里』の存在が記されており、野口町を含む範囲にあった可能性が指摘されている。その所在はおおよそJR東加古川駅と加古川駅の間付近とされ、坂元遺跡・野口廢寺・古大内遺跡はすべて、駅家里のなかに所在したと考えられる。駅家には、施設としての駅家があり、運営を行うために編成された『駅戸』と駅戸より選ばれた駅長(駅戸中の有力者)があり、財政基盤としての

駅田・駅幡がある。高橋美久仁は賀古駅家(古大内遺跡)を経営するための駅田を、台地上の教信寺と野口庵寺の間にある字前田に求めており、岸本道昭は播磨国内の駅家と寺院の関連を考察するなかで、賀古駅家経営に携わった駅戸が8世紀初頭に創建された野口庵寺の檀越であると位置付けている。

即ち、同じ方格地割にのった賀古駅家(古大内遺跡)・駅田・野口庵寺が非常に強い連関を持って『駅家里』に存在していたことが推測できるのである。坂元遺跡もまた、同じ方格にのる集落遺跡である。播磨国風土記が編まれた8世紀初頭には、坂元遺跡が駅家・駅田・関連寺院に最も近い、最も大規模な、同じ方格地割に規制された拠点集落として存在していたことはあきらかである。賀古駅家を経営し、野口庵寺の檀越となり、駅田を耕作する駅戸集団が坂元遺跡に存在していた可能性は非常に高いと考えられる。

では、8世紀後半についてはどうか。集落が条里型地割の変更に伴い、1町方格内に集中することを述べた。8世紀の中葉から後半は、山陽道の駅家が、『続日本紀』に記された『造駅』-瓦葺き駅家の転換期にあたり、古代山陽道の各駅が整備された時期にあたる。また、駅家運営の財源が兵部省から民部省に替るなど大きな改革が行われた時期である。

これらの駅路に関わる変革と、賀古郡における山陽道を基線とした条里型地割への変更、集落の集中化の動きに関連を見出すか否かによって8世紀後半の坂元遺跡の評価は大きく変わらう。駅戸は駅制を円滑に運営する上で、駅家付近に置く必要があり、駅家の設置間隔に連動して計画的に集件させられていた可能性が指摘される。坂元遺跡における計画的な集落の集中を駅戸の集件の一環と捉えることができるなら、駅路に関わる変革が路線周辺における広範囲の土地区画の改編や駅戸集落の再編成などを伴っていたことの証左となり、大きな問題を描出することになる。本稿ではそこまで踏み込む準備がないが、1辺約80mの構区画内に集中した部分(古大内遺跡や小丸遺跡が示す駅家中枢の規模と近似することは非常に興味深い)を『ヤケ』とみて、賀古駅家と密接に係わった『駅家里』(駅家郷)を構成する集落の中核部の一つであった可能性を考えておきたい。

(西口)

注

1) 遺物の時期決定については以下の文献を参考にした。

兵庫県教育委員会 「志方窯跡群Ⅱ-投松支群」 2001年

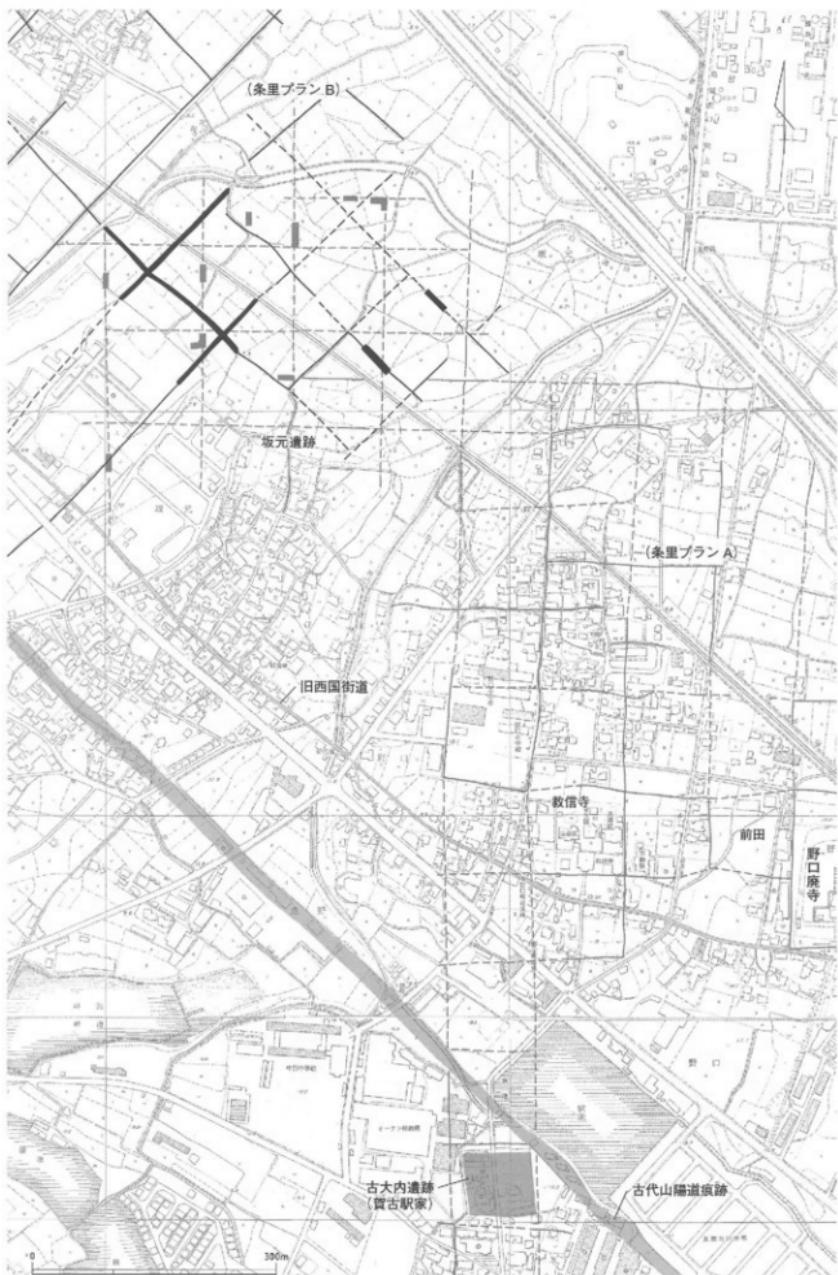
佐藤 隆 「難波地域の新資料からみた7世紀の須恵器編年」「大阪歴史博物館研究紀要」第2号 2003年
佐藤 隆 「8世紀の須恵器編年と難波宮・平城宮の並行関係」「大阪歴史博物館研究紀要」第3号 2004年

古代の土器研究会編『古代の土器千種炊具』 1996年

2)吉本昌弘 「古代播磨における山陽道と郡家の復元的研究」「新地理」25-1 1977年

3)高橋美久二 「古代交通の考古地理」大明堂 1995年

第31図 坂元港跡と山陽道(古大内港跡)

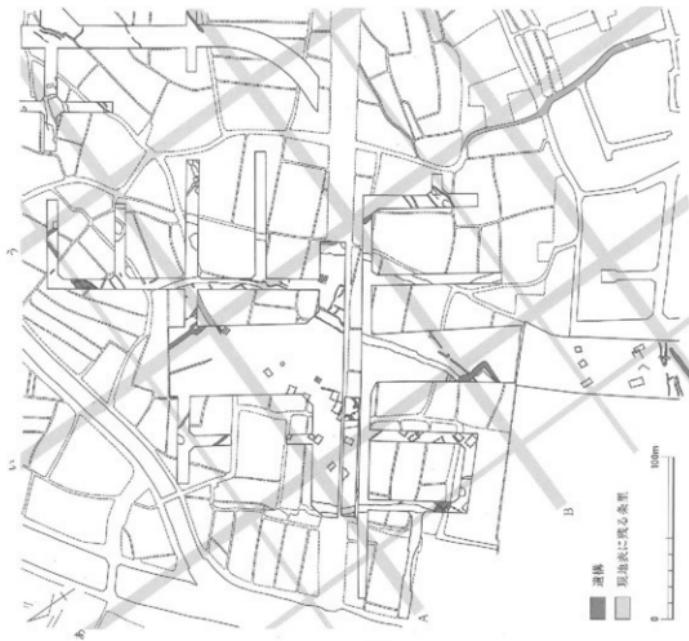


奈良時代後半の条里型地割(プランB)



第32図 板元遺跡と条里地割

奈良時代前半の条里型地割(プランA)



VII おわりに

3ヶ年で約32,000m²の坂元遺跡の発掘調査によって縄文時代から中世に至る複合遺跡であることが判明し多大な成果を上げることができた。面積の合計は大きいが調査面積は10m²を最小とし最大でも3,600m²で、57地区の調査の集合であり、調査地区の移動に苦慮し調査期間に追われる調査であった。その反面小面積のわりには、区画街路を方張状に調査することによって、幸いにも古代の地割りの検討ができるという好資料を得ることができた。それ以外にも多くの成果があり列挙すると、

1. 縄文晩期の埋葬群を確認した。4基の小土坑に甕を埋納したもので3個体はほぼ完形に近く復することができた。2区・11区でも同時期の土坑を検出しているので、低い段丘面に墓域が広がっている。
2. 弥生時代中期後半になってムラを構えるようになる。低地は水田として土地利用されたであろうが、調査では確實な遺構は検出できなかった。白ヶ池川両岸の段丘上から低地を墓地としており、方形周溝墓群が検出されている。計15基の方形周溝墓を調査している。低地部分の方形周溝墓は主体部も残存しており、11基の木棺墓を検出した。石劍・石鏡とともに多数の土器が溝に供獻されていた。
3. 中期後半の住居域は南側の別府川東岸の低い段丘面上で4棟の堅穴住居跡を検出している。また、集落周辺では上器棺墓かと思われる土坑もあり、方形周溝墓と土器棺墓との区別があるようである。1棟だけであるが、掘立柱建物を確認した。
4. 坂元遺跡が広がっている段丘上に4本流路が流れている。早い時期は中期後半と思われ、集落開始と関連があるものと思われる。水路として開削された可能性が高く、少なくとも流路を維持するため人工的な掘削が行われたと思われる。
5. 弥生後期の堅穴住居跡は中期と同じ位置に2棟、縄文埋甕のあった白ヶ池川北側段丘面(56区)に1棟確認している。小規模ながらムラの分散・移動が確認された。
6. 古墳時代前期から中期にかけての遺構は検出していない。ただ、流路内から古式土師器が少量出土していることから、周辺で生活していたであろう。
7. 6世紀はじめに古墳が段丘面縁辺に築かれるようになる。そこに樹立する埴輪を焼成するために、ムラの中に埴輪窯跡を構築したと思われる。古墳は6世紀後半まで营造されるが、6世紀末までは继续していない。埴輪窯跡も短期間の操業活動を終える。
8. 墳輪窯跡は2基あり、1基は窯窓で石見型埴輪を中心に形象埴輪専用の窯跡であり、もう1基は上屋構造のない土坑で淡輪技法の埴輪を焼成している。形象埴輪の種類は石見型盾以外に武人・盾持ち人・家・鹿・馬で少數ながら変化に富んでいる。
9. 古墳後期になると、再度集落を営むようになる。弥生後期の堅穴住居跡確認部分と同じ地域で堅穴住居跡を検出している。南側の段丘面は奥に入った37区まで集落域を広げている。
10. 遺構として古墳後期から水田も確認している。低地部分を中心に生産域としている。流路もこの時期の遺物から増加する。
11. 流路に向かって6世紀後半に土坑が築かれており、中に須恵器などを埋納し、細い溝が流路に流れるように築いている。2基並んで存在し焼土を伴っている。火を使った祭祀行為が行われたと考えられる。
12. 飛鳥期も南舞の段丘面では堅穴住居跡が継続しているが、北側の56区では終焉している。羽口・焼土が出土していることから、通有の住居ではなく工房かと思われる。

13. 飛鳥期から遺物量が急増する。掘立柱建物もこの時期から建てられているであろうが、明確ではないことからすべて奈良時代とした。
14. 奈良時代前半の建物は正方位を探っている(Aプランの地割)。13棟の建物を調査している。そのうち3棟は総柱建物である。総柱建物は白ヶ池川北側に存在する。
15. 奈良時代後半の建物は、主軸方向はN44°Wに探っている(Bプランの地割)。27棟あり、そのうち5棟が総柱建物である。
16. Bプランの地割の時期に26区・37区を中心とする方形に画する浅い溝が存在する。駅子の館を画する溝ではないかと思われる。
17. 奈良時代後半の集落は賀古駅家を支える駅子の集落と考えている。山陽道沿いに位置することと、播磨国府系瓦や木簡・墨書き器・律令期木製祭祀具(人形・童串)・土馬・古代銭貨(和同開珎)・硯・棊局などの官衙的遺物が豊富に出土していること、逆に炊飯具や土錘・イイダコ殻など日常の遺物も多く出土していること。それらの点から考えて、半官半民の生活をしている駅家郷の状態そのものを表徴しているのではと考えている。坂元遺跡の調査例が駅家郷の代表例になろうかと思われる。
18. Aプランの集落に比べてBプランの方が26区周辺に凝縮しており、散らばっていた集落が1ヶ所に集中した印象を受ける。
19. 墨書き器のなかに540「大家」659「吉家」587「小殿」があり、駅子館の存在を示唆するものである。また、667「美作」の文字は駅路に関するとすれば興味深い。654「山方寺」は加古川西岸の平荘町山角寺を表したものなら、氏族関係が予測される資料となる。
20. 37区で唯一井戸が確認されている。素掘りで井側を作わないが底が出土しており、それを井筒に利用していたと思われる。中層から出土した須恵器の一群は口縁部を意図的に欠いており、井戸鎮めの祭祀かと思われる。出土した杯セットには蓋に「二廿」身に「廿二」と逆字が記されている。呪符木簡によく記される九九の反対の安息を願う意識が高いいまじないであろうか。
21. 西側低地と北側低地の両者から律令期木製祭祀具が出土している。1ヶ所でなく、駅家郷でも複数の地点で祭祀行為を行っているのは注目される。
22. 平安時代おわり頃になると集落規模は縮小するが、依然掘立柱建物は確認され、木田も認められる。

報告書作成も網渡り状態が続き、かろうじて発刊に迫り着くことが出来た。調査現場で汗を流してくれた調査関係の方々や整理作業を支えていただいた嘱託員・担当職員の方々の協力・努力があってのことでの感謝である。感謝いたします。

第9表 出土土器観察表

部品名 番号	報告 番号	出土地区	所十遺跡	層位	種別	器形	口径	法量(cm)	文様・装飾方法の特徴		
									直径	底径	
272	1	6T	土器	見下層 黒毫唇下方	上層器	小型丸底盤	(8.30)	7.10	表面はやや扁平な直形器で、底盤して底面の外に 突出する腹筋部分がある。		
272	2	10T	土器	中層	土器	土器	底(4.30)	11.90	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	3	22T	土器	中層	土器	土器	(11.80) (6.80)	(8.30)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	4	22T	土器	中層	土器	土器	(9.40)	(6.80)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	5	22T	土器	中層	土器	土器	底(4.30)	—	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	6	18T	土器	中層	土器	土器	(13.80)	(3.80)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	7	18T	土器	中層	土器	土器	底(4.10)	—	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	8	14T	土器	中層	土器	土器	(2.70)	—	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	9	49T	SK01	生土器	広口盤	広口盤	(26.00)	29.00	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	10	49T	SK01	生土器	狭口盤	狭口盤	底(7.80)	20.50	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	11	49T	SK01	生土器	直壁盤	直壁盤	(15.80)	(24.80)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	12	49T	SK01	生土器	直壁盤	直壁盤	(30.00)	(3.10)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	13	49T	SK01	生土器	直壁盤	直壁盤	(9.75)	7.80	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	14	49T	SK01	生土器	イコロコロ	イコロコロ	(5.50)	(9.10)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
272	15	55T	土器	深灰	深灰	深灰	—	(2.60)	(3.00)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。	
273	16	55T	土器	黑	直壁盤	直壁盤	(20.60)	(5.40)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	17	55T	土器	黑	直壁盤	直壁盤	(31.60)	(5.40)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	18	55T	土器	黑	直壁盤	直壁盤	(—)	(5.60)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	19	55T	土器	灰	直壁盤	直壁盤	(11.80)	(12.60)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	20	55T	土器	灰	直壁盤	直壁盤	(16.20)	3.80	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	21	55T	灰砂	灰砂	直壁盤	直壁盤	(11.60)	3.40	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	22	55T	灰砂	灰砂	直壁盤	直壁盤	(28.40)	(1.80)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	23	55T	灰砂	灰砂	直壁盤	直壁盤	(14.60)	(4.80)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	24	55T	灰砂	灰砂	直壁盤	直壁盤	(—)	—	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	25	55T	灰砂	灰砂	直壁盤	直壁盤	(21.80)	(1.70)	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		
273	26	55T	灰砂	灰砂	直壁盤	直壁盤	(—)	—	器形は同じで、腹筋部分を厚づけし直形器であるが、 底盤は比較的薄い。		

高さ 番号	地名 番号	出土場所	層位	標印	法量(cm)	文様・調査結果の特徴
273	27	S0/T	黒	須磨器	口径 (15.70) 2.30 (17.40)	彫刻、或いは模造の特徴。 裏面にテラコッタ風の鉢底を有り、底面ナメ。
273	28	S0/T	黒	須磨器	直 (15.80) 4.70	裏面に須磨灰の直い口筒型。底部の質は 内芯灰泥にちがう柔らかい口筒型。底部は圓筒ナメ。
273	29	S0/T	黒	須磨器	直 (15.80) 4.70	大く盛る直い口筒型。底部の質は 須磨灰の直い口筒型。底部は圓筒ナメ。
273	30	S0/T	黒	須磨器	直 (15.80) 4.70	直い口筒型。須磨灰の直い口筒型。底部は圓筒ナメ。
273	31	S0/T	黒	須磨器	直 (15.80) 4.00	人型の直い口筒型。底部は直い口筒型。
273	32	S001	黒	須磨器	直 (15.80) 4.30	人型の直い口筒型。底部は直い口筒型。
273	33	S001	黒	須磨器	直 (15.80) 4.20	人型の直い口筒型。底部は直い口筒型。
273	34	S0/T	黒	須磨器	直 (15.80) 4.00	人型の直い口筒型。底部は直い口筒型。
273	35	S001	黒	須磨器	直 (15.80) 4.30	人型の直い口筒型。底部は直い口筒型。
273	36	S001	黒	須磨器	直 (15.80) 4.30	人型の直い口筒型。底部は直い口筒型。
273	37	S001	黒上面	土器類	直 (15.80) 7.00	直い口筒型で口幅が直面に俊んで立てる。 底部は指ナメサニエナメ。
273	38	S001	北アブトレ上層	土器類	直 (13.40) 14.90	直形の直筒型で外反する口筒型がつく。 底部は直筒型で外反する口筒型。
273	39	S003	黒上面	須磨器	直 (13.00) 20.00	直が盛った直筒型の底部が直大底型。口本の直筒 が盛る。外反する底部に直すする口筒型を作り、 底部ナメ。底部のみ手押ちケズリ。
274	40	61/T	包含層	土器類	高环 (7.90) 一	腹部は太く膨らむ。腰部分はケズリで直筒の直 筒型を行く。
274	41	61/T	サブトレ	土器類	イグロコ型 (6.90) 10.90	直筒型。
274	42	61/T	包含層	土器類	イグロコ型 (5.70) 11.90	直筒型。
274	43	61/T	包含層	土器類	直 (14.60) 6.20	口筒部は直筒から直筒して大きくなり外反する。口 筒部部に直すする。
274	44	61/T	褐色	土器類	直 (13.20) 4.90	口筒部は直筒から直筒して人きく外反する。口 筒部部に直すする。
274	45	61/T	—	土器類	直 (14.20) 6.10	腹部は太く膨らむ。腰部分はケズリで直筒の直 筒型を行く。
274	46	61/T	褐色	土器類	円筒形土器 (1.0cm) 1.00	円筒形分から直筒を點ける。内側に直筒、口本 部が直筒から直筒部分の直し。口本の直筒 部は直筒から直筒部分の直し。
274	47	61/T	サブトレ	土器類	直 —	直筒の直筒分から直筒を点ける。内側に直筒、口本 部は直筒から直筒部分の直し。
274	48	61/T	包含層	土器類	直 —	縁口左半直筒部の直筒分の直し。
274	49	61/T	褐色	須磨器	須磨器 (12.00) 3.50	直い口筒型から外傾する口筒部を持つ。 内側とも右回転ナメ。底部ハコ切り後、ナメ。
274	50	61/T	包含層	須磨器	直 (12.80) 3.00	直筒から外傾する口筒部を持つ。
274	51	61/T	サブトレ	須磨器	直 (10.70) 3.20	直筒から外傾する口筒部を持つ。
274	52	61/T	包含層	須磨器	直 (11.80) 3.00	直い口筒型から外傾する口筒部を持つ。
274	53	61/T	サブトレ	須磨器	直 (11.60) 2.80	直い口筒型から外傾する口筒部を持つ。
274	54	61/T	サブトレ	須磨器	直 (15.00) 3.90	直い口筒型から外傾する口筒部を持つ。
274	55	61/T	サブトレ	須磨器	直 (15.00) 2.40	直筒型から外傾する口筒部を持つ。

回数	報告書号	出力場所	出土場所	解説	標引	特種	法規(cm)	高さ	備考
274	56	6T	サブトレ		灰土器	灰土器	(18.00) (3.00)	-	瓦井部・瓦井状法の特徴 瓦井部は底盤で裏面が突出するつまみを持つ。 口縁部は短く屈曲する。
274	57		瓦井	瓦井	瓦井	瓦井	-	-	瓦井部の一型の窓。
274	58	6T	包含層	須恵器	立	-	(16.80) (11.00)	太い幅り腰附の瓦井部を有する。瓦井部より厚い瓦井部と瓦井状法。	
274	59	6T	包含層	須恵器	束	-	-	-	瓦井部に口縁部を持つ。瓦井部より厚い瓦井部と瓦井状法。
274	60	6T	地灰	須恵器	束(立)	(21.50) (7.30)	-	-	瓦井部に口縁部を持つ。口縁部は左側面ケズリ低、偶位のミガ前面を有す。
274	61	6T	包含層	須恵器	外(立)	(22.20) (8.30)	-	-	瓦井部から口縁部にかけて侈る。口縁部は外ともにも同じナガ。
274	62	6T	包含層	須恵器	束	-	(7.20)	-	外側にへききの裏面の細かい筋状文を持つ。筋状文を有する。
275	63	1区	SK0101	洋芋土器	灰土器	灰土器	12.60	25.30	腹部は平底で、輪郭部が外側を向く。口縁部を大きく外側に張り出す。瓶底に直ぐ上上がり、口縁部を大きく外側に張り出す。
275	64	1区	SK0101	灰生土器	灰生土器	灰生土器	25.00	40.00	平底に脚の張った体部を持つ。体部と周囲の地盤部から口縁部を有する。口縁部は口縫を施す。内側は頭部にへききがある。口縁部は口縫を施す。内側は頭部にへききがある。
275	65	1区	SK0101	灰生土器	灰生土器	灰生土器	21.60	43.60	泥足部は平底で、輪郭部を有する。口縁部は口縫を施す。内側は頭部にへききがある。口縁部は口縫を施す。
275	66	1区	SK0101	灰生土器	灰生土器	灰生土器	(14.80) (6.20)	-	直立状態に立ち上がる頭部から口縁部は直立し、本体部は伸び、口縁部は上部に張り出す。
275	67	1区	SK0101	灰生土器	灰生土器	灰生土器	(15.60) (5.10)	-	大きめの窓を持つ。口縁部は上部に張り出す。
275	68	1区	SK0101	灰生土器	灰生土器	灰生土器	-	-	瓦井状法の体部に斜縫と窓が付く。瓶底部は円柱状。
275	70	1区	SK0101	灰生土器	束	(14.80) (3.50)	-	-	瓦井状法の体部に斜縫と窓が付く。瓶底部は円柱状。
276	69	1区	SK0104	灰生土器	灰生土器	灰生土器	21.40	(37.50) 8.50	平底に頭部が大きな体部を持つ。体部と周囲の地盤部は直立せず、本体部は伸び、口縁部は上部に張り出す。
276	71	1区	SK0103	灰生土器	束	(14.80) (3.50)	-	-	直立して、外側灰井には窓と斜縫で、瓶底部は丸柱状。
276	72	1区	SK0107	灰生土器	小口器	灰生土器	(12.30) (31.80) (6.00)	3.80	平底で頭部を有する。口縁部は丸柱状。

試験番号	試験部位	出上清液	黒酸シルト(ドロ)	解剖部位	鏡視	器械	体温(°Cm)	形態・調査法の特徴	備考
216 73 1区	SX0107	黒酸シルト(ドロ)	鏡文十跡	解剖	「手」	器械	-	えみをenburgした後で、口歯部が著しく腫脹不 規則性に外側に膨張する。全体に腫脹が認められる。全体に発赤不 規則性に外側に膨張する。	外側に辺縫2番が内側に 膨張する。
216 74 1区	SX0101	新生十跡	広口歯	21.50	(38.70)	10.00	(3.20)	歯冠は平滑で、黒膜の突起部を有する。黒膜部は口歯部から 離れて、口歯部はよく開き、「解剖部を詰め方」にて解剖部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。	黒膜は平滑で、黒膜の突起部を有する。黒膜部は口歯部から 離れて、口歯部はよく開き、「解剖部を詰め方」にて解剖部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。
216 75 1区	SX0101	新生十跡	広口歯	(13.50)	(20.80)	(5.00)	-	黒膜は平滑で、黒膜の突起部を有する。黒膜部は口歯部から 離れて、口歯部はよく開き、「解剖部を詰め方」にて解剖部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。	黒膜は平滑で、黒膜の突起部を有する。黒膜部は口歯部から 離れて、口歯部はよく開き、「解剖部を詰め方」にて解剖部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。
217 76 1区	SX0101	新生十跡	広口歯	18.00	30.60	6.70	-	黒膜は平滑で、黒膜の突起部を有する。黒膜部は口歯部から 離れて、口歯部はよく開き、「解剖部を詰め方」にて解剖部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。	黒膜は平滑で、黒膜の突起部を有する。黒膜部は口歯部から 離れて、口歯部はよく開き、「解剖部を詰め方」にて解剖部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。
217 77 1区	SX0101	新生十跡	広口歯	17.20	(6.20)	-	-	大きく開くほどで、歯部は下方に肥厚させ る。	大きく開くほどで、歯部は下方に肥厚させ る。
217 78 1区	SX0101	新生十跡	広口歯	14.80	(5.30)	-	-	大きく開くほどで、口歯部は扁平化 する。	大きく開くほどで、口歯部は扁平化 する。
217 79 1区	SX0101	新生十跡	広口歯	(24.00)	(23.50)	7.10	-	歯部は平滑で、歯の張った体部を有す。歯部はよく閉じ て直立気味に立ち上がり、口歯部は大きく開いて 歯部を詰め方とする。	歯部は平滑で、歯の張った体部を有す。歯部はよく閉じ て直立気味に立ち上がり、口歯部はヨコ定め、「外側」面部に発赤を認める。 口歯部には「タガが残り」ハサミとヘラでカギを噛んで 口歯部に「ヒツ」を付ける。
217 80 1区	SX0101	新生十跡	細筋彌	4.80	(9.60)	-	-	立ちして伸ばす際で、口歯部は歯部を詰め する方に内側せざる。	立ちして伸ばす際で、口歯部は歯部を詰め する方に内側せざる。
217 81 1区	SX0101	新生十跡	細筋彌	(7.80)	(27.00)	(7.30)	-	細筋彌はよく伸びる筋筋状の体部に 細筋彌を詰め方で口歯部を詰めする。筋筋に間に隙間がある 細筋彌を詰め方で口歯部を詰めする。	細筋彌はよく伸びる筋筋状の体部に 細筋彌を詰め方で口歯部を詰めする。筋筋に間に隙間がある 細筋彌を詰め方で口歯部を詰めする。
217 82 1区	SX0101	新生十跡	細筋彌	(5.50)	(30.00)	3.20	-	筋筋部は平滑で、筋筋の張った体部を有す。口歯部は筋筋部 に間に隙間がある。筋筋部は筋筋部に間に隙間がある。	筋筋部は平滑で、筋筋の張った体部を有す。口歯部は筋筋部 に間に隙間がある。筋筋部は筋筋部に間に隙間がある。
217 83 1区	SX0101	新生十跡	細筋彌	-	(6.20)	-	-	体認行である。	体認行である。
217 84 1区	SX0101	新生十跡	細筋彌	-	(7.80)	(6.60)	-	筋筋部は平滑で、口歯部は筋筋部に間に隙間がある。	筋筋部は平滑で、口歯部は筋筋部に間に隙間がある。
217 85 1区	SX0101	新生十跡	細筋彌	-	(6.00)	7.00	-	外側はハラミガキ、内側はハラミガキ、内側はナデを施す。 外側はハラミガキ。	外側はハラミガキ、内側はナデを施す。 外側はハラミガキ。
218 86 1区	SX0101	新生十跡	要	(11.60)	(19.20)	(4.00)	-	口歯部は平滑で、黒膜部は黒膜部に間に隙間がある。黒膜部は口歯部 に間に隙間がある。	口歯部は平滑で、黒膜部は黒膜部に間に隙間がある。黒膜部は口歯部 に間に隙間がある。
218 87 1区	SX0101	新生十跡	要	17.20	30.30	5.80	-	口歯部は平滑で、黒膜部は黒膜部に間に隙間がある。黒膜部は口歯部 に間に隙間がある。	口歯部は平滑で、黒膜部は黒膜部に間に隙間がある。黒膜部は口歯部 に間に隙間がある。
218 88 1区	SX0101	新生十跡	要	27.00	(10.60)	-	-	黒膜部の外側、口歯部は平滑で、黒膜部の外側、口歯部は外側に 隙間がある。黒膜部は口歯部に間に隙間がある。黒膜部は口歯部に間に隙間がある。	黒膜部の外側、口歯部は平滑で、黒膜部の外側、口歯部は外側に 隙間がある。黒膜部は口歯部に間に隙間がある。黒膜部は口歯部に間に隙間がある。

属編	番号	前半地区	出土地標	層位	種別	鉢形	器皿	口径(cm)	縦高	横高	文種・調査法の特徴	参考
278	89	1区	SX0101		弥生土器	無柄		(14.0) (5.0)	—	口縁部ヨコナラ、体部内外側にヘリミダガを施す。		
278	90	1区	SX0101		弥生土器	縦台	縦台	(12.00) (4.70)	—	透かしのある脚部付込み、内管気体にも立ち上がり体部内外側にヘリミダガを施す。		
278	91	1区	SX0101		弥生土器	縦台	縦台	(4.45)	(9.80)	やるく膨らむ腹部で、脚部を上方に厚さ3条1本のハラ指込文を2年ほどさせ、縦部はヨコナラ、内面はヘリミダガを施す。		
278	92	1区	SX0101		弥生土器	縦台	縦台	(5.10) (16.20)	—	透かしの厚く膨らむ腹部で、脚部を上方に厚さ3条1本のハラ指込文を2年ほどさせ、縦部はヨコナラ、内面はヘリミダガを施す。		
278	93	1区	SX0102	中・下層	弥生土器	広口縦	広口縦	16.00	(35.50)	平底で、口縁部の頭など全体を突つ、脚部は斜めに仰けた。外縁部ヨコナラ、外面は焰から体部下方にヘリミダガを施す。		
278	94	1区	SX0102	中・下層	弥生土器	広口縦	広口縦	(15.60) (32.60)	(7.80)	底部が平底で、腹の張った体部を持つ、裏立し、脚部は斜めから体部からへり立ち、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	95	1区(167)	SX0102		弥生土器	縦	縦	(4.70)	—	底部が平底で、透かしの体部を持つ、脚部は大きくて脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	96	1区	SX0102		弥生土器	縦	縦	(20.40) (35.00)	7.80	底部が平底で、脚部は直角に脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	97	1区	SX0102		弥生土器	脇杯	脇杯	12.00	(6.00)	底部が平底で、脚部は直角に脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	98	1区	SX0102		弥生土器	脇杯	脇杯	(16.40)	14.70	直角的脚と下する脚部から脚部は大きく脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	99	1区	SX0102		弥生土器	脇杯	脇杯	(9.70)	12.35	大きくて脚部を高くして、外縁部を上方に膨らませて、脚部を下方に脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	100	1区	SX0102		弥生土器	縦	縦	—	7.80	底部が平底で、脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	101	1区	SX0102	中・下層	弥生土器	縦	縦	(1.00)	12.00	大きくて脚部を高くして、外縁部を下方に脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	102	1区	SX0102	中・下層	弥生土器	縦	縦	(2.70)	—	体部がある。		
279	103	1区	SX0102	中・下層	縄文土器	縦	縦	(3.80)	—	口縁部ヨコナラ、体部内外側にヘリミダガを施す。		
279	104	1区	SX0103		土器縫	縦	縦	(28.00) (6.50)	—	直立した脚部から脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	105	1区	SX0103		外生土器	広口縦	広口縦	(19.70) (2.35)	—	大きくて脚部を高くして、外縁部を下方に脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	106	1区	SX0103		弥生土器	広口縦	広口縦	21.60	9.40	脚部が立ち上がり脚部から脚部を高くして、外縁部にヘリミダガを施す。		
279	107	1区	SX0103		弥生土器	広口縦	広口縦	(15.60)	25.80	平底で脚部の先に体部を持つ、脚部から口縁部は大きく開き、外縁部にヘリミダガを施す。		

回数 番号	番号	発地 出土地区	出土遺物	部位	施列	器種	口径 寸法 (cm)	底高 寸法 (cm)	底径 寸法 (cm)	底形	施列、底形法の特徴		備考	
											施列	底形		
279	108	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	広口壺	(17.70) (13.40)	-	直曲して底が圓く頸部を持ち、口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に2条の切筋を施し、2側に1側の切筋を施す。口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
280	109	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	23.50	(33.50)	9.10	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部は大きく開く。下部に施列する。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
289	110	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	(20.40)	(27.70)	-	側面は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部は大きく開く。底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
289	111	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	(13.80)	(5.75)	-	側面は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部は大きく開く。底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
289	112	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	10.10	32.50	8.30	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部は大きく開く。底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
289	113	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	7.00	11.80	4.00	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部は大きく開く。底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
289	114	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	5.00	8.80	-	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部は大きく開く。底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	口縁部に施列され、底部には内側を施す。口縁部はコナデ、底部はコナデ。	
289	115	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	-	(3.10)	(7.20)	平底。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。
289	116	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	(21.85)	(8.70)	-	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	
289	117	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	(18.15)	(9.20)	-	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部と側部の施列にナデによる微少な凹があり、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	
281	118	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	-	(7.30)	9.85	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。
281	119	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	-	(6.10)	8.20	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。
281	120	1区	SK0103	灰土層	灰生土器	灰土壺	-	(10.20)	(14.30)	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。
281	121	1区	SK0103	灰土器	灰生土器	高杯	-	(8.80)	(10.50)	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。	底部がなく、内側と外側に施す。
281	122	1区	SK0104	灰土層	灰生土器	灰土壺	(16.80)	(26.20)	6.10	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	底部は平底で、側面の底筋はよく開き、口縁部が斜めに伸びる。口縁部はコナデ。	
281	123	1区	SK0104	灰土層	灰生土器	灰土壺	20.40	9.40	-	始めに立ち上がる腰部分から大きく開く。底部はコナデ。	始めに立ち上がる腰部分から大きく開く。底部はコナデ。	始めに立ち上がる腰部分から大きく開く。底部はコナデ。	始めに立ち上がる腰部分から大きく開く。底部はコナデ。	
281	124	1区	SK0104	灰土層	灰生土器	無底壺	(7.80)	(10.30)	(9.35)	腰部分に施列された腰筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	腰部分に施列された腰筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	腰部分に施列された腰筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	腰部分に施列された腰筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	
281	125	1区	SK0104	灰土層	灰生土器	無底壺	13.30	17.30	6.50	腰部分は平底で、腰筋と側部の底筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	腰部分は平底で、腰筋と側部の底筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	腰部分は平底で、腰筋と側部の底筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	腰部分は平底で、腰筋と側部の底筋を有する。腰筋は斜めに伸びる。腰筋はコナデ。	

閑版	番号	出土地名	出土期間	層位	標記	埋深	L.H.E.	器高	法蓋(cm)	基座	文様・調査法の特徴	備考
281	126	1区	SX0104	弘生土器	青山窯	15.10	40.20	7.50	「除却前後」と「除却後」に2つの測定値を有し、体部と蓋部とに差別化する。口縁部はヨコナダで、基部には焼成後母子を強調する。口縁部には内面裏側に「ヒナゲシ」。体部には「ハラガ」を施す。			
281	127	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	12.60	(27.50)	-	「除却前後」と「除却後」に2つの測定値を有し、口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			
282	128	1区	SX0104	弘生土器	青山窯	13.20	37.00	6.40	「除却前」に「ハラガ」とあるが、測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。口縁部には「ヒナゲシ」。体部には「ハラガ」を施す。			
282	129	1区	SX0104	弘生土器	水窓	10.00	(23.30)	(16.30)	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			
282	130	1区	SX0104	弘生土器	窓	11.00	(21.30)	5.50	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			
282	131	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	裏	(24.30)	41.00	8.70	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
282	132	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	裏	-	(6.30)	(5.30)	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
282	133	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	体	(17.60)	(16.80)	7.50	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
282	134	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	窓	(26.50)	(5.80)	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
282	135	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	無縫隙	(11.40)	(15.80)	(6.80)	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
283	136	1区	SX0104	新竹灰陶瓦シート	弘生土器	窓	-	(7.60)	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
283	137	1区	SX0104	培養土壤シート	弘生土器	窓	-	(8.60)	(12.00)	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。	
283	138	1区	SX0104	培養土壤シート	弘文土器	体	-	(3.70)	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
283	139	1区	SX0106	培養土壤シート	弘生土器	正口窓	(16.50)	29.40	7.40	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
283	140	1区	SX0106	弘生土器	無縫隙	9.30	(16.00)	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			
283	141	1区	SX0106	弘生土器	裏	(25.70)	(13.00)	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			
283	142	1区	SX0105	弘生土器	裏	14.10	25.30	6.00	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			
283	143	1区	SX0105	弘生土器	窓	-	(9.90)	8.90	-	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。		
283	144	1区	SX0106	弘生土器	裏	(13.20)	(23.80)	5.50	「除却前」に「ヒナゲシ」を施す。測定部には「除却後」で「除却前」の測定値を記載する。口縁部はヨコナダで、基部には「ハラガ」を施す。			

頭顱 番号	筋肉	筋肉部位	被検部位	被検部位部位	筋膜・皮筋筋膜の特徴			参考
					種別	穿刺	剥離	
284	145 1 区	SX0107	先生十唇	広口唇	一 口唇	筋膜	筋膜	参考文書による外傷による3条の凹縫を認し、3条の筋膜の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
284	146 1 区	SX0107	先生十唇	広口唇	一 口唇	筋膜	筋膜	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
284	147 1 区	SX0108	先生十唇	廣口唇	一 口唇	筋膜	筋膜	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
284	148 1 区	SX0109	先生十唇	廣口唇	一 口唇	筋膜	筋膜	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
284	149 1 区	SX0109	先生土唇	水立唇	一 口唇	筋膜	筋膜	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	150 1 区	SD0101	上唇	先生土唇	広口唇	(14. 20) (6. 30)	一	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	151 1 区	SD0101	下唇	先生十唇	一	(7. 50)	一	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	152 1 区	SD0101	下唇	先生土唇	一	(11. 50) (8. 80)	一	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	153 1 区	SD0101	下唇	十唇器	一	32. 30 (37. 50)	一	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	154 1 区	SD0101	上唇	氣管器	合併症	—	(5. 10) (14. 60)	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	155 1 区	SD0102	先生土唇	広口唇	一	(9. 80) (12. 20)	5. 80	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	156 1 区	SD0102	先生土唇	水立	一	(8. 05) (20. 20)	(6. 60)	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
285	157 1 区	SD0102	先生土唇	水立	一	8. 00	21. 30	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
286	158 2 区	SK0201 P007	先生土唇	水立	一	8. 00	21. 30	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
286	159 2 区	SK0201 P007	氣管器	水立	一	(13. 10) 4. 60	—	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。
286	160 2 区	SK0203	氣管器	水立	一	(14. 50) 5. 40	5. 40	参考文書による外傷による3条の凹縫を認める。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。口唇部下に筋膜を剥離する。

國族 種子 番号	被土地区	出土遺物	部位	種別	器種	法度(cm)		測定者	測定方法の特徴	考察
						口径	底径			
288	187	138.	SD1203	井生土器	広口壺	19.20	(36.70)	8.90	實驗工場に關する點を特徴とする。器形は圓錐形で、底部は圓錐形である。底面には三面三角形の凹部がある。底部下方にはへりと側面中央に火焚を有す。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはハテミガキが全く無く、面部内側はその一部に刷毛で付する。器形は圓錐形である。底部には三面三角形の凹部がある。底部下方にはへりと側面中央に火焚を有す。
288	188	138.	SD1203	井生土器	広口壺	24.80	37.40	9.80	蓋心の下方に倒つた形跡から外反して立ち上がり大きく開く圓錐形で、底部は下に弧を有する。器形は圓錐形である。底部にはハテミガキとハメ。底部上方にはヨコナナメ。底面はヨコナナメで、大きめの凹部を有する。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。底面にはヨコナナメで、大きめの凹部を有する。底部は下に弧を有する。
288	189	138.	SD1203	井生土器	広口壺	(18.10)	(34.20)	8.40	真無玉形に關する点を特徴とする。器形は圓錐形である。底部は下に弧を有する。器形は圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	190	138.	SD1203	井生土器	真口壺	9.80	(21.00)	-	底部の体筋から前後に立ち上がり、お手かに於て横にして倒り直す。器形は圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	191	138.	SD1203	井生土器	肩附壺	-	(14.90)	-	底部の体筋から前後に立ち上がり、お手かに於て横にして倒り直す。器形は圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	192	138.	SD1203	井生土器	真口壺	(11.00)	(9.00)	-	底部の体筋から前後に立ち上がり、お手かに於て横にして倒り直す。器形は圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	193	138.	SD1203	井生土器	蓋	(7.00)	(5.10)	-	底部の体筋から前後に立ち上がり、お手かに於て横にして倒り直す。器形は圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	194	138.	SD1203	井生土器	広口壺	(39.20)	(66.90)	11.60	倒伏状で長い体筋から大きく外反して開く圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	195	138.	SD1203	井生土器	無柄壺	(5.20)	(24.90)	11.90	倒伏状で長い体筋から大きく外反して開く圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	196	138.	SD1203	井生土器	蓋	(16.80)	(3.90)	-	倒伏状からくのアサヒに沿って倒して開く圓錐形である。底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。面部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
289	197	138.	SD1203	井生土器	(底屈)	-	(3.90)	-	上げ底。	外縁ハタケ、外縁板ナギ、底部ナギ。
289	198	138.	SD1203	井生土器	(底屈)	-	5.00	(4.00)	底深。	底部ナギ。
289	199	138.	SD1203	井生土器	蓋	-	(22.40)	(6.60)	倒伏形の後の後始。	外縁ハタケ後リヨウガキ、外縁ハタケ。
290	200	138.	SD1203	井生土器	肩附壺	12.20	32.50	9.30	倒伏形の後から長い體筋に立ち上がり、底部は下に弧を有する。	口縁ヨコナナメ。底部外側にはヨコナナメで、底部内側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。
290	201	138.	SD1203	土鍋類	イマイダコ壺	6.45	8.10	(0.15)	コップ形の後。	口縁ヨコナナメ。底部内側にはヨコナナメで、底部外側にはヨコナナメで、底部は下に弧を有する。

回数	番号	地名	出土地点	層位	地質	剖面	口徑	底径	断面・測量結果の実測		文書・調査記述の特徴	備考
									法長	高さ		
294	246	16区	SX1603 北半			地盤	円筒	—	(21.00)	—	砂質泥層に開く、タガシ等で觸て底面がくちびり白形。	範囲内のハナケ型からナゲ、に古い質感→浅質感。
294	247	16区	SX1603 北半			地盤	円筒	—	(7.50)	(12.00)	砂質泥層部分に開厚し地盤厚くなる。海藻や、ユリ根等。	範囲内のハナケ型からナゲ、に古い質感。
294	248	16区	SX1603 北半			地盤	円筒	—	(24.80)	(14.40)	砂質泥層部分に開厚し地盤厚くなる。海藻や、ユリ根等。	範囲内のハナケ型からナゲ、に古い質感。
295	249	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(4.80)	—	開厚する柱状分離の黄土で骨を支撑してい	4方に骨を築き、3本の脚で支持する。ユリ根等。
295	250	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(4.80)	—	開厚する柱状分離の黄土で骨を支撑してい	4方に骨を築き、3本の脚で支持する。ユリ根等。
295	251	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(4.80)	—	開厚する柱状分離の黄土で骨を支撑してい	4方に骨を築き、3本の脚で支持する。ユリ根等。
295	252	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(6.80)	—	開厚する柱状分離の黄土で骨を支撑してい	4方に骨を築き、3本の脚で支持する。ユリ根等。
295	253	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(5.80)	—	開厚する柱状分離の黄土で骨を支撑してい	4方に骨を築き、3本の脚で支持する。ユリ根等。
295	254	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	(±1.00)	—	開厚する柱状分離の黄土で骨を支撑してい	4方に骨を築き、3本の脚で支持する。ユリ根等。	
295	255	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(7.40)	—	ユリ根等、事実上強度を失する。底面は、薄	底面は、ナゲ、ナダ、に古い質感→浅質感。
295	256	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(4.50)	—	ユリ根等、事実上強度を失する。底面は、薄	底面は、ナゲ、ナダ、に古い質感→浅質感。
295	257	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(4.80)	—	ユリ根等、事実上強度を失する。底面は、薄	底面は、ナゲ、ナダ、に古い質感→浅質感。
295	258	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(5.80)	—	ユリ根等、事実上強度を失する。底面は、薄	底面は、ナゲ、ナダ、に古い質感→浅質感。
295	259	16区	SX1603 北半			地盤	形象(人形)	—	(4.10)	—	ユリ根等の複数箇所外観に泥厚である。ユリ根	ユリ根等の複数箇所外観に泥厚である。ユリ根
296	260	17区	SX1702 W005			地盤	粘土質	—	(20.40)	(5.75)	地盤解説で「泥質外見する」、隙間丸い、体積タ	自然物付箇所。
296	261	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	白付土	14.10	2.20	(7.40)	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。
296	262	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	粘土質	16.00	(2.30)	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ヘア切りナギナギ上野、灰白。	
296	263	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	粘土質	杆叢	14.50	4.40	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、大井高瀬鑿、灰白。	
296	264	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	14.05	4.30	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
296	265	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	14.60	4.00	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
296	266	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	14.40	4.60	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
296	267	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	14.50	4.60	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
296	268	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	12.80	4.30	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
296	269	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	13.50	4.30	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
296	270	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	13.05	4.10	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
296	271	17区	SX1704	上面樹木付埋土山	原生層	杆叢	12.90	4.40	—	泥質外見する。内側丸み、外側丸みの球形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	

國名	縣名	市名	生息地	幅員	層位	種別	岩相	測量 (cm)	「T」各 器高	器高	形態・成形技術の特徴	形態・調査方法の特徴	備考
香川	香川	土庄	松島海岸	272	SX1704	須磨	須磨	13.00	4.20	-	内層する部分から外層する部分へと互いに飛び扇形丸ロクロナヂ、ロクロケツリ、灰白。	自然施用。	
296	272	17区		須磨	須磨	須磨	須磨	(15.40)	24.50	-	立ち出る外層から、斜面を下る。斜面なし。		
296	273	17区	SX1704	須磨	須磨	須磨	須磨	-	-	内層は斜く、外層は直線的で扇形丸ロクロナヂ、色調は灰。	ロクロナヂ、色調は灰。		
296	274	17区	SX1704	須磨	須磨	須磨	須磨	(26.00)	7.70	-	内層する体から外反する口縁部に、側部内弯、ハサ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」(注)。	ハサ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」(注)。	
296	275	17区	SX1704	須磨	須磨	須磨	須磨	18.30	17.60	-	立ち出る外層はロクロナヂ、外端は立柱とも灰となる。	ロクロナヂ、外端は立柱とも灰となる。	
296	276	17区	SX1704	須磨	須磨	須磨	須磨	4.30	12.85	-	内層する体から外反する口縁部に、側部内弯、ハサ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」(注)。	ハサ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」(注)。	
297	277	17区	SX1706	須磨	須磨	須磨	須磨	(14.40)	3.45	-	側部内弯で扇形の形をなす。斜面が直線的で扇形丸ロクロナヂ、底部は灰。	ロクロナヂ、底部は灰。	
297	278	17区	SX1706	須磨	須磨	須磨	須磨	-	(3.90)	-	立ち出る外層は扇形丸ロクロナヂ、底部は灰。	ロクロナヂ、底部は灰。	
297	279	17区	SX1706	須磨	須磨	須磨	須磨	(27.00)	(9.80)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。扇形部は灰く、外側は灰となる。	ロクロナヂ、下方は灰。	
297	280	17区	SX1706	須磨	須磨	須磨	須磨	1.80	(4.50)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。扇形部は灰く、外側は灰となる。	ロクロナヂ、下方は灰。	
297	281	17区	SX1711	須磨	須磨	須磨	須磨	(26.20)	(4.00)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。扇形部は灰く、外側は灰となる。	ロクロナヂ、下方は灰。	
297	282	17区	SX1711	須磨	須磨	須磨	須磨	(27.00)	(4.90)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。扇形部は灰く、外側は灰となる。	ロクロナヂ、下方は灰。	
297	283	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(15.60)	(2.90)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。	ロクロナヂ、下方は灰。	
297	284	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(16.00)	(2.10)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。	ロクロナヂ、下方は灰。	
297	285	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(17.50)	(4.10)	-	内層する部分から外反する口縁部に、側部内弯、ハサ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」。	ロクロナヂ、ハサ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」。	
297	286	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(17.00)	4.50	(6.10)	平坦な底部から斜傾する部分の底部が灰く、斜面が灰。	ロクロナヂ、ヘア切り鑿痕ナヂ、灰。	
297	287	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	12.20	4.40	9.20	平平坦な底部にのみの扇形部が灰く、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰、灰尻。	
297	288	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(12.70)	(5.20)	-	扇形の形を立てる。下方はタスキキで扇形する。	ナテ鑿痕、「須磨ヨコナヂ、灰」。	
297	289	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(12.00)	4.50	(6.10)	平平坦な底部から斜傾する部分の底部が灰く、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
297	290	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(11.40)	(13.00)	-	内層する部分から外反する口縁部に、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
297	291	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(26.70)	(6.90)	15.30	内層する部分から外反する口縁部に、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
298	292	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(16.60)	(7.65)	-	内層する部分から外反する口縁部に、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
298	293	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(27.30)	(5.65)	-	内層する部分から外反する口縁部に、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
298	294	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(16.60)	(3.25)	-	内層する部分から外反する口縁部に、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
298	295	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(13.80)	3.75	(6.80)	内層する部分から外反する口縁部に、斜面が灰。	ロクロナヂ、灰。	
298	296	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	-	(3.20)	(14.80)	外側から内側へ向ける。底部が灰。	ロクロナヂ、灰。	
298	297	17区 (22区)	SX1701	須磨	須磨	須磨	須磨	(7.90)	2.10	(12.30)	裏い平底から外側への口縁部に、底部が灰。	ロクロナヂ、底部は上半ナヂ、灰、灰尻。	

頭頂 骨部 脊柱	出上運動 骨部	出上運動 骨部	屈曲 骨部	屈曲 骨部	屈曲 骨部	屈曲 骨部	運動・姿勢測定の特徴		文書・運動状況の特徴	備考
							筋肉	筋肉		
298	259	17区(22区) SK2201	II腰	頸部	背筋	(15, 60) (4, 85)	外側上斜筋を主とする。 平臥位で腹筋も、腰筋も、筋肉も含む。	ロクロナデ、尻臼一筋白。		
298	259	17区(22区) SK2201	II腰	頸部	背筋	(13, 60) 2.95 (16, 60) 1.00	外側上斜筋を主とする。 平臥位で腹筋も、腰筋も、筋肉も含む。	ロクロナデ、尻臼一筋白。		
298	300	17区(22区) SK2201	I腰	頸部	背筋	(14, 60) (7, 56)	外側上斜筋を主とする。 立ち上がり運動で腰筋も含む。	ロクロナデ、尻臼一筋白。		
298	301	17区(22区) SK2201	II腰	頸部	背筋	- (7, 70) (12, 60)	立ち上がり運動で腰筋も含む。	ロクロナデ、尻臼一筋白。		
298	302	17区(22区) SK2201	II腰	頸部	背筋	- (14, 20)	頸部筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、尻臼一筋白。		
298	303	17区(22区) SK2201	III腰	頸部	背筋	- (9, 20)	外側上斜筋下方に張りげる。筋肉質アダム。	ロクロナデ、尻臼一筋白。		
298	304	18区 SK1802	III腰	頸部	背筋	(13, 20) (2, 90)	内凹する体態で腰筋と腰椎部に張り付く。	ロクロナデ、尻臼白。		
298	305	18区 SK1801	III腰	頸部	背筋	(11, 60) (4, 10)	内凹する体態で腰筋と腰椎部に張り付く。	ロクロナデ、尻臼白。		
298	306	18区 SD1801	III腰	頸部	背筋	- (5, 00)	内凹する体態で腰筋と腰椎部に張り付く。	ロクロナデ、糸束、尻臼白。		
298	307	18区 SD1806	III腰	上腰	背筋	(7, 50) (9, 00)	筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	308	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	14.10 - 14.10 - 14.10 -	内凹する体態で腰筋も含む。 筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	309	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	(15, 40) 5.10 - - - - -	半仰卧下肢屈かた腰筋群に当たる。筋膜は外側に付く。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	310	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	(15, 00) 4.50 - - - - -	立上がり運動から内凹する体態になり、腰筋が外側に立ち上る。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	311	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	13.00 4.20 - - - - -	内凹する体態で腰筋や玉筋に張り付く。立ち上り筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	312	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	(15, 40) 4.95 - - - - -	半仰卧下肢屈かた腰筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	313	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	(13, 30) 5.10 - - - - -	半仰卧下肢屈かた腰筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	314	18区 SK1906	III腰	頸部	背筋	13.00 5.10 - - - - -	内凹する体態や玉筋に張り付く。立ち上り筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	315	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	12.40 4.50 - - - - -	内凹する体態で腰筋も含む。筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	316	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	(12, 90) (4, 63) - - - - -	内凹する体態で腰筋は低い水平。立ち上がり時は内凹する外側筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	317	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	12.60 8.50 - - - - -	外側上斜筋として腰筋に張り付く。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	318	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	12.85 8.95 - - - - -	半凹する外筋群から外側筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	319	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	12.70 8.50 - - - - -	半凹する外筋群から外側筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	320	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	12.90 7.70 - - - - -	半凹する外筋群から外側筋膜筋群玉筋と腰筋が主とする。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	321	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	8.70 8.90 - - - - -	半凹する外筋群から内凹する。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	322	18区 SK1905	III腰	頸部	背筋	- (23, 00) -	半凹する外筋群から内凹する。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	
298	323	18区 SK1901	III腰	頸部	背筋	(23, 70) (3, 10) - -	外筋群に張り付いて腰筋となる。	ロクロナデ、糸束。	糸束55.7g	

図版 番号	報告 書番号	出土地点	出土遺物	層位	種別	断面	法長(cm)	直径 等径 径	考察、底形複数の特徴	
									横径	縦径
259	324	19区	SX1904 (SH1905)	先住土器	広口壺	(15.30)(32.50)	8.30	(15.30)	小口・直頸の底から外反して開くは輪郭半円形。底部下に直底を有す。	「横断ヨコナギ」。内面にはヨコハラミダキを施す。断面外面上に輪郭に底部下に直底を有す。
259	325	19区	SX1904 (SH1905)	先住土器	壺	(5.40)(11.80)	5.50	(22.00)	小口・直頸の底から外反して開くは輪郭半円形。底部下に直底を有す。	「横断ヨコナギ」。内面にはヨコハラミダキを施す。断面外面上に輪郭に底部下に直底を有す。
300	326	19区	SR1901	上層	土器	(13.60)	2.30	—	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。
300	327	19区	SK1901	上層	土器	(13.60)	2.90	—	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。
300	328	19区	SK1901	上層	土器	(2.60)	1.40	—	内側する全体。高さは直面・直角軸。	内側する全体。高さは直面・直角軸。
300	329	19区	SK1901	上層	土器	(19.30)	1.90	(15.30)	横断から外反する輪郭部に、縫合部に、縫合部で彎曲ある。	横断から外反する輪郭部に、縫合部に、縫合部で彎曲ある。
300	330	19区	SR1901	中層	土器	(13.60)	3.20	(8.50)	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。
300	331	19区	SR1901	中層	土器	(14.70)	1.25	(11.80)	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。	丸底きつい天部・口縁部で彎曲がある。
300	332	19区	SK1901	中層	土器	(13.60)	4.50	—	縫合部のくちばし部・縫合部を有する口縁部となる。円柱あり(縫合部)。	縫合部のくちばし部・縫合部を有する口縁部となる。円柱あり(縫合部)。
300	333	19区	SK1901	上層	土器	(9.30)	—	(1.25)	横断する筋部・縫合部に、縫合部に、縫合部で彎曲ある。	横断する筋部・縫合部に、縫合部に、縫合部で彎曲ある。
300	334	19区	SR1901	上層	土器	(16.20)	3.30	(8.80)	口唇のくちばし部が内側へ彎曲する。	口唇のくちばし部が内側へ彎曲する。
300	335	19区	SR1901	上層	土器	(17.60)	3.10	—	口唇のくちばし部から内側する口縁部となる。縫合部あり(縫合部)。	口唇のくちばし部から内側する口縁部となる。縫合部あり(縫合部)。
300	336	19区	SR1901	上層	土器	(12.80)	2.90	(10.10)	縫合部から外傾する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。	縫合部から外傾する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。
300	337	19区	SR1901	中層	土器	(13.40)	2.60	(9.80)	縫合部から外傾する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。	縫合部から外傾する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。
300	338	19区	SR1901	上層	土器	(14.20)	2.60	(16.60)	縫合部から外傾する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。	縫合部から外傾する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。
300	339	19区	SR1901	中層	土器	(4.90)	—	(30.20)	平底から内側する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。	平底から内側する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。
300	340	19区	SR1901	上層	土器	(16.30)	2.70	13.30	平底から内側する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。	平底から内側する外縁部・縫合部から内側する内縁部となる。
300	341	19区	SR1901	中層	土器	(24.30)	2.10	—	丸底・ヘア切付。	丸底・ヘア切付。
300	342	19区	SR1901	中層	土器	(21.20)	5.10	9.30	縫合部大きな凹部。	縫合部大きな凹部。
300	343	19区	SR1901	下層	黑陶シルト	—	—	—	腹部外傾する縫合部となる。	腹部外傾する縫合部となる。
300	344	19区	SR1901	上層	土器	(18.30)	7.30	—	3.30 方形で縫合部から外傾する。	3.30 方形で縫合部から外傾する。
300	345	19区	SR1901	中層上半	土器	(20.50)	6.90	—	縫合部は平に凹む。	縫合部は平に凹む。
300	346	19区	SR1901	中層	土器	(6.40)	—	—	内側する底部から外傾する。	内側する底部から外傾する。
300	347	19区	SR1901	中層	土器	(52.30)	1.00	(51.30)	縫合部大きな凹部。	縫合部大きな凹部。
300	348	20区	SK3005	—	—	(56.40)	—	—	に高い突起部がある。	に高い突起部がある。

図版 番号	報告 番号	出水市役所	川十郷場	層位	種別	剖面	口径	器高	法縫(cm)		文様・調査状況の特徴	備考
									直徑	底径		
303	349	21K	SK20065		灰褐色	杯型	(11.70)	3.40	-	-	丸い出筋で口部外側に、腹部丸い。ヘラ型	クロロナデ、灰白。
											り枝状出筋。茎があり。	
303	350	20K	SK20068		灰褐色	杯型	-	(1.95)	-	-	内側すく入角筋に中央の管門びつがある筋が付く	クロロナデ、ナデ、灰白~青灰。
303	351	20K	SK20092		灰褐色	杯	(10.80)	3.10	(7.00)	-	内寄する体部が腰から外れる。口唇部に、通	クロロナデ、灰白。
303	352	21K	SK2101 北半		土手型	直	(22.50)	2.80	(18.20)	-	筋が内寄する。筋は足台形のもの。ヘラ切	ミガキ、ヨナダ、ヒガヒセ。
											立する。体部から外れる。口唇部に、通	
303	353	21K	SK2101 東半		土手型	直	(25.40)	6.70	-	-	す。平たい矢印形。、端座上にまみ出	ハケ型、口縫ヨコナデ、に高い実腹。
											自然剥付有。	
303	354	21K	SK2101 西半		灰褐色	杯型	(18.60)	(1.80)	-	-	す。平たい矢印形。、端座下方にまみ出	クロロナデ、ナデ、灰白~黄灰。
											自然剥付有。	
303	355	21K	SK2101 東半		灰褐色	杯型	(13.70)	3.20	(11.10)	0.90	平底から外傾するに徐々に腰部で、輪廓丸い。	クロロナデ、ナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	356	21K	SK2101 北半		無地器	直	(14.70)	2.10	(11.20)	-	平底から外傾するに腰部で、輪廓丸い。	クロロナデ、浅黄~橙。
											自然剥付有。	
303	357	21K	SK2101 南半		灰褐色	直	(17.00)	2.10	(15.40)	-	やや平底から外傾する口唇部。輪廓丸い。	クロロナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	358	21K	SK2101 北半		灰褐色	壺	-	(10.70)	(12.80)	(8.00)	平底から外傾するに腰部で、輪廓丸い。	クロロナデ、ロクロケズリ、灰~灰白。
											自然剥付有。	
303	359	21K	SK2101		灰褐色	直	-	(10.60)	(12.40)	(8.40)	平底から外傾するに腰部で、輪廓丸い。	クロロナデ、灰白~褐色。
											自然剥付有。	
303	360	21K	SK2101 錦半		灰褐色	直	(15.80)	(6.40)	-	-	平底から外傾するに腰部で、輪廓丸い。	クロロナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	361	21K	SK2101 北半		灰褐色	直	(28.00)	(8.30)	-	-	平底から外傾する腰から外なる頂部。輪廓丸い。	クロロナデ、灰。
											自然剥付有。	
303	362	21K	SK2101		学生十器	直+直	10.80	27.80	5.60	-	やや外傾する体部から、輪廓からに外傾軸に立ち	クロロナデ、ロクロケズリ、灰~灰白。
											自然剥付有。	
303	363	21K	SK2101		土手型	杯	(12.80)	(3.40)	(7.40)	1.00	内傾する体部から外傾する体部だ。	クロロナデ、灰。
											自然剥付有。	
303	364	21K	SK2101		土手型	直	(15.90)	3.00	(8.60)	-	平底から外傾するに腰から外なる頂部。輪廓丸い。	クロロナデ、灰。
											自然剥付有。	
303	365	21K	SK2101		土手型	直	(13.60)	2.50	-	-	平底から外傾するに腰から外なる。輪廓丸い。	クロロナデ、灰。
											自然剥付有。	
303	366	21K	SK2101		灰褐色	直+直	(19.80)	(1.85)	-	-	内寄する大井井から出筋して下に見くびげる。	クロロナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	367	21K	SK2101		灰褐色	直	(18.80)	2.50	(17.20)	1.00	丸いある底面部の口縫部が傾斜する。	クロロナデ、ロクロケズリ、灰白。
											自然剥付有。	
303	368	22K	SK2201		上肩型	直	(13.70)	(5.70)	-	-	底の体部から、くの字状に腰曲して断面く口縫部を上方向に引き上げる。	ハケ型後段ナデ、盤台
											自然剥付有。	
303	369	22K	SK2201		灰褐色	直	(14.70)	2.40	(7.40)	0.90	平底からS字型に腰を深部へ。底台	クロロナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	370	22K	SK2201		灰褐色	直	(12.20)	(2.40)	-	-	内寄するS字型部を深めする。底部で、輪廓やや	クロロナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	371	22K	SK2201		土手型	杯	(15.40)	5.85	8.10	1.00	平底から外傾する体部で、輪廓やや反り。外側	クロロナデ、高見取り付けナデ。
											自然剥付有。	
303	372	22K	SK2202		圓底型	輪	(18.00)	(4.45)	-	-	腰から内傾する外傾で端部反る。	クロロナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	373	22K	SK2204		灰褐色	輪	(14.60)	5.90	6.70	1.00	ベタ底でヘーネ型。内側する体部で輪廓丸	クロロナデ、に高い実腹。
											自然剥付有。	
303	374	22K	SK2204		上肩型	直	(26.00)	(1.80)	-	-	外傾する口縫部と輪廓部が接張る。底部に断面長	ハケ型ヨコナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	375	23K	SK2302		灰褐色	直	(14.80)	(6.50)	-	-	外側で窓く口縫部で、輪廓を上部に肥厚す	ヨコナデ、灰白。
											自然剥付有。	
303	376	23K	SK2303		輪胎	円筒形(頭)	(42.50)	(11.30)	-	-	外側に輪廊を匂かせ、外側に何かに肥厚する。船	横型、斜行合。
											自然剥付有。	

回数	種名 番号	標本 出土地点	目次	層位	種別	留置	法規(cm)	口器	文庫・調査技術の特徴		
									規格	英語	
302	377	21区	SX2302		葉食性	杯	[12, 40]	3.5	(10, 60) い。へ平底から直ぐ外傾する口漏部、漏部部。ロクロナデ、斜基～灰白。		
302	378	21区	SX2302		葉食性	円筒	—	(18, 70)	23, 10 外傾し漏部を含む。外傾の度合いが漸減し、低いM。留置のタガ付。字形のタガ付。	見見出箇の場合は。	
302	379	21区	SU2301		先生十勝	壳	—	(4, 60)	(6, 60) やや上方に張り出せる。内面は、内面、瓶に、1.灰黑。	外側ミミガキ、内面、瓶に。	
302	380	21区	SU2301		先生十勝	壳	—	—	強かに外反子。參考。内面は、内面、瓶に。	外側ミミガキ、灰白～黒。	
302	381	24区	SU2404		葉食性	杯	—	(8, 60)	外傾し漏部を含む。内面は、内面、瓶に。	ロクロナデ、底状文第2巻、灰～灰白。	
302	382	25区	SBS302 PW99		先生十勝	壳	[19, 20]	(3, 75)	— 向へ大傾きを出す。漏部はわざわざして漏部を含む。	漏部を含む。	
302	383	25区	SBS302 PW97		先生十勝	壳	—	(4, 65)	やや小安達を含むが入りく間にく。 安達した平底。	外側ミミガキ、内面、灰。	
302	384	25区	SU2502		先生十勝	壳	—	(3, 60)	やや小安達を含むが入りく間にく。 安達した平底。	漏部を含む。	
302	385	25区	SU2502		先生十勝	壳	—	(4, 60)	やや小安達を含むが入りく間にく。 安達した平底。	漏部を含む。	
302	386	25区	SU2502		先生十勝	壳	—	10, 30	41, 60 やや小安達を含むが入りく間にく。 安達した平底。	漏部を含む。	
302	387	25区	SU2502		先生十勝	壳	—	(2, 80)	やすかに引けでて開口漏部。	漏部を含む。	
303	388	25区	SBS303 PW98		葉食性	杯	(13, 60)	3, 30	(10, 60) ハラ切り。 漏部が鋸歯に尖る。	ロクロナデ、灰。	
303	389	26区	SBS309 PW19		葉食性	杯	(14, 60)	3, 30	(10, 60) 半底から外側にまみの山底部で、漏部とく肥厚す。	ロクロナデ、内面ミミガキ、粗。	
303	390	26区	SBS315 PW69		葉食性	杯	(12, 70)	4, 10	9, 70 半底から外側にまみの山底部で、漏部とく肥厚す。	ロクロナデ、仕上げテグ、灰白。	
303	391	26区	SBS315 PW64		葉食性	杯	(14, 60)	3, 85	(10, 60) やや半底から外側にまみの山底部で、漏部とく肥厚す。	ロクロナデ、テグ、灰白～灰。	
303	392	26区	SBS315 PW63		葉食性	杯	(11, 60)	(2, 80)	— 細かい外反がく口漏部尖る。板根や木手。	ロクロナデ、漏部～灰、前部赤緋。	
303	393	26区	SBS315 PW71		葉食性	杯	—	(3, 60)	(10, 60) 内面する漏部から体部、漏部は方型。	ロクロナデ、テグ、灰～灰白。	
303	394	26区	SBS317 PW105		葉食性	杯	(18, 60)	— 外傾する漏部下にまみ。	ロクロナデ、自然地、灰～灰白。		
303	395	26区	SBS317 PW105		葉食性	杯	—	(3, 60)	— 漏部する漏部から外傾する漏部。	ロクロナデ、自然地、灰～灰白。	
303	396	26区	SBS317 PW106		葉食性	イチコ他	—	(7, 20)	— 漏部の把手は方型、内面する漏部。ユビ	ロクロナデ、自然地、灰～灰白。	
303	397	26区	SBS319 PW191		葉食性	杯	(14, 60)	(4, 40)	(11, 30) 部分に外反する漏部がく形態。	ロクロナデ、ロクロテグ、灰白～灰。	
303	398	26区	PW12		葉食性	杯	—	13, 65	2, 35 漏部にある天井部分から外傾して内面する。	外側に有刺骨付。	
303	399	26区	PW12		上部管	杯	—	(15, 60)	(6, 25) 内面する漏部から外傾する漏部。	ロクロナデ、内面仕上げテグ。	
303	400	26区	PW12		上部管	壳	—	(26, 60)	(14, 50) 漏部多くの含む。	ハサツ形、ロクロナデ、灰～灰白。	
303	401	26区	PW14		上部管	イチコ他	—	(6, 20)	— スピ裏形。	ナデ、ヨコナ。	
303	402	26区	PW12		上部管	壳	—	(21, 60)	(3, 70) 内部に裏し厚厚く、口漏部外反する。	漏部内 ハサツ形、ロクロナデ、灰～灰白。	
303	403	26区	PW14		土壌管	壳	(17, 60)	4, 75	(7, 60) 内面する体部で漏部部反つていい。	ロクロナデ、漏部、粗、灰白。	
303	404	26区	PW16		頸管	杯	(11, 60)	3, 10	(5, 50) 半底から内面する体部で漏部部反つていい。	ロクロナデ、灰～灰白。	
304	405	26区	SU2601		葉食性	維持器	維持器	—	(18, 30)	15, 10 漏部から内面する体部で漏部部反つていい。	ロクロナデ、漏部、灰～灰白。
304	406	26区	SU2603		上部管	壳	(13, 60)	4, 60	— 漏部する漏部から外反する漏部。	ロクロナデ、内面ミミガキ、粗。	
304	407	26区	SU2607		土壌管	壳	(25, 60)	— 内面する体部から外反する漏部。	ロクロナデ、口漏部ヨコナデ、灰～灰白。		

部類 番号	報告 番号	出土地点	出土遺物	部位	種別	器形	状況	状況(註)	無蓋		文様・漆塗装状況の特徴		備考	
									口径	高さ	横径	縦径		
304	408	26区	SK2603	手井	須恵器	壺	直	-	8.50	4.60	扁平な底形で直口が有る。『丸あわ』。	ロクロナヂ、灰白。	自然釉付。	
304	409	26区	SK2613 手井	須恵器	壺	手井	(12.89)	2.75	(6.40)	5.00	直口で外側に直口が有る。『丸あわ』。	ロクロナヂ、灰白。	自然釉付。	
304	410	26区	SK2613 手井	須恵器	壺	高杯	-	(3.85)	(10.50)	外側に直口が有る。『丸あわ』。	ロクロナヂ、灰白。	自然釉付。		
305	411	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(11.50)	(4.50)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	ロクロナヂ、外側に3箇所の直角突起を有する。	自然釉付。	
305	412	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(15.10)	7.45	-	11.50	口部に大きめの横くび跡がある。	ロクロナヂ、頭部外面がメタリックな黒い風景を有する。	自然釉付。	
305	413	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	-	(10.50)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	ロクロナヂ、頭部外面がメタリックな黒い風景を有する。	自然釉付。	
305	414	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(19.80)	(3.25)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	ロクロナヂ、頭部外面がメタリックな黒い風景を有する。	自然釉付。	
305	415	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(14.40)	(9.80)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	ロクロナヂ、外側に3箇所の直角突起を有する。	自然釉付。	
305	416	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(31.70)	(8.25)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	ロクロナヂ、頭部外面がメタリックな黒い風景を有する。	自然釉付。	
305	417	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(12.00)	大底付半底	-	(6.85)	大底付半底。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
305	418	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(24.60)	(7.00)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、外側ヘタナヂ、内面ナヂ。	自然釉付。	
305	419	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	-	(22.60)	13.70	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、外側ヘタナヂ、内面擦痕ヨコナヂ。	自然釉付。		
305	420	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	-	(4.80)	(1.80)	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕ヨコナヂ。	自然釉付。	
305	421	26区	SK3604	須恵器	束口壺	壺	(15.40)	13.00	7.60	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕ヨコナヂ。	自然釉付。	
305	422	26区	SK3605	須恵器	束口壺	壺	-	(5.50)	4.20	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面エビナヂ。	自然釉付。	
305	423	26区	SK3608	須恵器	束口壺	壺	-	(6.85)	(8.00)	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面エビナヂ。	自然釉付。	
306	424	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	(35.00)	(4.90)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	頭部外側にハチマキ模様、背頭压着文等を有する。	自然釉付。	
306	425	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	-	(6.90)	(11.00)	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	頭部外側にハチマキ模様、ミミナギ、櫻。	自然釉付。	
306	426	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	(11.00)	(3.70)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
306	427	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	(18.00)	(3.30)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
306	428	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	-	(4.50)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
306	429	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	(10.70)	(4.60)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
306	430	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	(31.60)	(7.50)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
306	431	26区	SK2601 北	須恵器	束口壺	壺	(9.20)	(0.60)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
306	432	26区	SK2601	須恵器	束口壺	壺	(13.70)	(3.80)	(11.50)	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	自然釉付。	
306	433	26区	SK2601 売	須恵器	壺	直口壺	直	(13.90)	(7.00)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。
306	434	26区	SK2601 売	須恵器	壺	直口壺	直	(11.40)	(4.30)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。
306	435	26区	SK2601 売	須恵器	壺	直口壺	直	-	-	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。
306	436	26区	SK2601 売	須恵器	壺	直口壺	直	(29.60)	(7.30)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。
307	437	27区	SK2701	須恵器	小輪壺	壺	-	-	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	
307	438	27区	SK2701	須恵器	小輪壺	壺	(35.40)	(8.10)	-	11.50	直立して立ち上がる口部形。嘴を押すと倒れる。	外側ナヂ、内面擦痕不規。	自然釉付。	

属種 番号	出土地名	層位	標印	種別	習慣	口径	断面	法尺(cm)	文様・隠微法の特徴	備考
形態・実物状況の特徴										
307 439	下層土坑 SR2701	—	土器器 高杯	(15.60)	内溝する杯形器 内側に尖らる。	(5.60)	—	ヨコナヂ、ヘリガキ、浅葉。		
307 440	下層 SR2701	—	土器器 高杯	(15.60)	外反する杯形器 内側に尖らる。	(11.60)	—	ナヂ、浅葉。		
307 441	下層 SR2701	—	土器器 杯	9.60	内溝する杯形器 内側に尖らる。	3.30	—	ロロナヂ、クロケズリ、底白。	底部外面にヘラ記 等?	
307 442	下層 SR2701	—	土器器 杯	(10.60)	内溝する杯形器 内側に尖らる。	3.30	—	ロロナヂ、底白。		
307 443	下層 SR2701	—	土器器 高杯	(10.60)	外反する杯形器 内側に尖らる。	(11.40)	—	ロロナヂ、底白。		
307 444	下層 SR2701	—	土器器 高杯	(7.70)	外側を口縁部で彫り落すする。 内側の全体から外側する口縁部、彫り落す。	(7.70)	—	ロロナヂ、底白。	自然胎对照。	
307 445	下層 SR2701	—	土器器 高杯	(23.60)	内溝する杯形器 内側に尖らる。	(15.60)	—	ロロナヂ、底白。		
307 446	下層 SR2702	—	土器器 杯	(8.70)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	3.30	(7.40)	ロロナヂ、クロケズリ、底白。 底白一端アーブル。		
308 447	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(13.60)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(0.80)	—	ロロナヂ、底白。		
308 448	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(13.60)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(0.80)	—	ロロナヂ、底白。		
308 449	下層土坑 下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(18.40)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(7.60)	—	ロロナヂ、底白。		
308 450	下層土坑 下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(30.60)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(15.30)	—	ロロナヂ、底白。		
308 451	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(9.30)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(12.20)	—	ロロナヂ、底白。		
308 452	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(18.00)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(14.70)	—	ロロナヂ、底白。		
308 453	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(16.30)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(25.40)	—	ロロナヂ、底白。		
308 454	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(22.00)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(3.10)	—	ロロナヂ、底白。		
308 455	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(21.80)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(9.70)	—	ロロナヂ、底白。		
308 456	下層土坑 SR12801	—	土器器 高杯	(2.80)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	—	(2.80)	ロロナヂ、底白。		
308 457	下層 SR2901-P008	—	土器器 高杯	(8.85)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(10.30)	—	ロロナヂ、底白。		
308 458	下層 SR2902-P007	—	土器器 高杯	(16.60)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(4.10)	—	ロロナヂ、底白。		
308 459	下層 SR2903-P037	—	土器器 高杯	(1.55)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(10.60)	—	ロロナヂ、底白。		
308 460	下層 SR2904-P060	—	土器器 高杯	(3.30)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	—	ロロナヂ、底白。			
308 461	下層 SR2905-P082	—	土器器 高杯	(10.80)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	3.40	—	ロロナヂ、底白。		
308 462	下層 SR2906-P082	—	土器器 高杯	(44.00)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(6.25)	—	ロロナヂ、底白。		
308 463	下層 SR2906-P082	—	土器器 高杯	(7.70)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(2.65)	—	ロロナヂ、底白。	重さ37.0g	
309 464	下層 SR2902-P002	—	土器器 高杯	(11.80)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(6.60)	—	ロロナヂ、クロケズリ、底白。		
309 465	下層 SR2902-P004	—	土器器 高杯	(11.70)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(3.75)	—	ロロナヂ、底白。		
309 466	下層 SR2902-P007	—	土器器 高杯	(3.00)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(4.70)	—	ロロナヂ、底白。		
309 467	下層 P001	—	土器器 高杯	(15.40)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	(5.80)	—	ロロナヂ、底白。		
309 468	下層 SR2902-P008	—	土器器 高杯	(8.30)	内底から外側する「丁」字部、彫り落す。	2.95	—	ロロナヂ、底白。	内底胎付箇。	

形態 番号	品名	出工場號	部位	部位	種別	詮釋	法書(cm)	板幅	文書・調査表記の特徴	参考
309 469	28K	P054	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(16.00) (11.50)	外皮に下側に筋肉十箇を示す。	外脛ヨコダギ、内腹ナギ。	
309 470	28K	T063	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(20.50) (11.50)	この字は下側に筋肉十箇を示す。	外脣ヨコダギ、内腹ナギ、内腹筋不明。	
309 471	28K	P068	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(20.50) (11.50)	大きな外皮してほほ水平に陽く口縫部。縫部を示す。	「縫」ヨコダギ、外脣ヨコダギ。	
309 472	28K	P080	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(5.00) 9.00	この字は下側に筋肉十箇を示す。	筋肉十箇。筋肉十箇。	
309 473	28K	SK2807 2805	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(26.60) (10.75)	ほほの外皮から、この字状に筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、外脣ヨコダギ。	
309 474	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(21.16) (8.55)	ほほの外皮から、ほほに外反する口縫部。内側に筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 475	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(13.06) (3.70)	内側の外皮から筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 476	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(19.80) (3.90)	ほほの外皮から筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 477	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(13.00) (3.90)	外反する筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 478	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(12.70) 4.15	外反する筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 479	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(11.65) 7.45 (9.60)	外反する筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 480	28K	P065	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(13.80) (2.30)	外側の外皮で筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
309 481	28K	P103	外骨頭	外骨頭	筋肉十箇	筋肉十箇	(10.85) 3.65	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 482	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(15.40) (8.60)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 483	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(7.55) 7.60	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 484	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(4.70) 7.80	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 485	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(9.30) 7.80	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 486	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(27.20) (37.00) 8.40	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	「縫」ヨコダギ。
310 487	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(9.30) 7.75	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。
310 488	28K	SK2801	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(6.80) 9.85	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。
310 489	28K	SK2802	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(10.80) (2.30)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 490	28K	SK2804	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(2.60) (2.60)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 491	28K	SK2804	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(2.70) (2.60)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 492	28K	SK2805	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(3.80) (2.40)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 493	28K	SD2805	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(1.80) (3.75) (5.50)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 494	28K	SD2805	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(3.80) (3.70) (9.60)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 495	28K	SD2805	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(10.20) 3.00	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 496	28K	SD2805	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(11.00) 4.00	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	
310 497	28K	SD2805	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(29.60) (8.70)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。
310 498	28K	SD2807	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(11.80) (5.50)	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。
310 499	28K	SD2810	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(9.60) 7.00	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。
310 500	28K	SD2810	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(7.00) 7.00	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。
310 501	28K	SD2810	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	筋肉十箇	(8.75) (8.80) 7.40	内側の外皮筋肉十箇を示す。	「縫」ヨコダギ、内腹筋不明。	自然動作付。

試験 番号	採取 場所	出土遺物	層位	種別	特徴	法筋(cm)	形態・変形法などの特徴	文書・調査法などの特徴	備考	
310	502 28区 SX28012	生糸十筋	高砂	土器	一	(12.10)	外縁ハミガキ、内面磨削不明。			
311	503 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(12.10) 4.40	-	外縁ハミガキ、内面磨削平ら。	ロカロナダ、底C。		
311	504 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	11.30	3.60	外縁する部分を包帯風に外側する。立ち上がり	ロカロナダ、底C。	自然焼付。	
311	505 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	11.50	4.40	内側する部分から外側へと突起が現し、受部部が膨らむ丸	ロカロナダ、底C。		
311	506 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(10.90) 4.00	(5.40)	外縁から内側へと突起があり、内側へと見渡りの受部部が現す。立ち上がり	ロカロナダ、底C。		
311	507 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	12.20	6.20	内側する部分から外側へと突起がある。立ち上がり	ロカロナダ、底C。		
311	508 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(10.70) 5.20	-	内側する部分から立上がりに見渡り端部外側に尖る。ヘラ切口。	ロカロナダ、底C。		
311	509 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(20.90) (3.70)	-	内側から端部外側に尖る。内側へと見渡り端部外側に尖る。	ロカロナダ、底C。	生け付。	
311	510 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	-	(5.30) (13.20)	外縁から内側へと見渡り端部外側に尖る。	ロカロナダ、底C。	自然焼付。	
311	511 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	-	(3.80) 11.20	外縁する部が現す。内側へと見渡り。	ロカロナダ、底C。		
311	512 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(5.30) 21.50	-	内側へと見渡し、外側に立上がり。エラ底形。	ロカロナダ、底C。		
311	513 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	-	(23.20)	-	内側する部分から立上がりに見渡る。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。	
311	514 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(10.70) 4.25	(5.20)	内側する部分から立上がりに見渡る。端部丸く外れる。	ロカロナダ、底C。		
311	515 28区 SX28014	糸巻器	高砂	土器	(16.40) 4.20	(11.70)	内側から外側へと見渡る。口縁が、端部尖る。外縁に開けた所がある。	ロカロナダ、底C。		
312	516 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	-	(4.35) 5.80	内側から外側へと見渡る。外縁へと立上がり。	ロカロナダ、底C。		
312	517 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	13.80	(4.60)	内側の部が現す。内側へと見渡す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	518 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(15.30) (8.60)	-	内側する部分から立上がりに見渡る。外縁から外反する部がある。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	519 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(12.00) (16.00)	-	外反する部がある。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	520 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(5.70)	-	内側から外側へと見渡す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	521 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(15.40) (9.30)	-	内側へと見渡す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	522 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(22.60) (8.50)	-	内側する部分から立上がりに見渡る。端部丸く外れる。	ロカロナダ、底C。		
312	523 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(21.60) (6.90)	-	内側する部分から立上がりに見渡る。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	524 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(23.40) (12.95)	-	内側へと見渡す。わずかに外反する。口縁が、端部丸く外れる。	ロカロナダ、底C。		
312	525 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	33.90	30.90	内側の部から外側へと見渡す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
312	526 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	-	(12.10) (5.20)	内側より端部を現す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
313	527 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	-	(15.70) (5.00)	内側より端部を現す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。	外面に有機質付。	
313	528 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	-	(11.40) (4.40)	内側より端部を現す。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。	外縁に有機質付。	
313	529 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	9.00	(3.50)	内側する部から外側する。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。		
313	530 28区 SE2801	糸巻器	高砂	土器	(10.70) (4.60)	-	内側する部から内側する。内側へと見渡す。	ロカロナダ、底C。	自然焼付。	

園区 番号	都行 番号	出十地区	断山湖畔	樹位	種別	計数	計量(cm)	葉形・葉質の特徴		文様・開閉法の特徴	備考
								上枝	基質	上枝	基質
313	531	284K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(14.00) (2.70)	内側する門型葉で葉裏厚い、 外側する葉形から口跡部で葉裏は薄くやや硬。 6.6cm	ロクロナデ、葉。	12.9cm	根付。
313	532	285K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(12.30) 3.70	内側する葉形から口跡部で葉裏は薄くやや硬。 6.6cm	ロクロナデ、葉。	12.9cm	根付。
313	533	285K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(17.60) (1.80)	内側する葉形から口跡部で葉裏は薄くやや硬。 6.6cm	ロクロナデ、ロクロタズリ、ナデ、葉～暗紅。	12.9cm	根付。
313	533	285K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(12.30) 3.70	内側する葉形から口跡部で葉裏は薄くやや硬。 6.6cm	ロクロナデ、葉。	12.9cm	根付。
313	534	285K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(10.10) 2.90	平窓から外側へ上向きの一部で丸く輪める、 立ち上がりを反する、ヘラ切り。	ロクロナデ、葉。	10.1cm	
313	535	285K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(10.60) 4.00	内側する葉形とよく似る、立ち上がり 立ち直し尖る葉。	ロクロナデ、葉。	10.6cm	
313	536	285K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(12.20) 3.80	平窓から内側する葉形とよく似る、ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、葉～灰白。	12.2cm	根付。
313	537	286K	SH2801	黒網	須葉	茎	(11.60) 4.00	平窓から内側する葉形、「棒形」で、輪葉輪よく 側葉がある。	ロクロナデ、ナデ、葉、灰白。	11.6cm	
313	538	288K	SH2801	黒網	須葉	茎	(15.20) 4.25	平窓の基部から外側するT型葉で、輪葉輪 側葉がある。	ロクロナデ、葉～灰白。	15.2cm	
313	539	288K	SH2801	上層 各種	須葉	茎	(16.00) 3.75	平窓から外側する口跡部で、葉裏長い。	ロクロナデ、ナデ、葉～灰白。	16.0cm	
313	540	288K	谷筋	SH2801	上層 各種	須葉	(11.80) 8.40	内側する葉形から外側する葉形で、内側する葉 側葉がある。	ロクロナデ、葉。	11.8cm	根付。
313	541	289K	SH2801	黒網	須葉	茎	(8.10) (2.80)	平窓から内側する葉形、「棒形」で、輪葉輪よく 側葉がある。	ロクロナデ、ナデ、葉、灰白。	8.1cm	
313	542	289K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(6.50) (0.20)	内側する葉形と外側「輪葉輪」がよく現れる。	ロクロナデ、ナデ、葉。	6.5cm	
313	543	289K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(7.80)	葉形の全体形で上向きさぎ。体形は輪葉輪な迷走 花弁形の平野で、輪葉輪は丸く、 外側する葉形と外側「輪葉輪」がよく現れる。	ロクロナデ、ナデ、葉。	7.8cm	
313	544	288K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(5.50) 17.60	内側する葉形で、輪葉輪は外側する。輪葉輪は丸く、 輪葉輪は外側する。	ロクロナデ、ナデ、葉。	5.5cm	
314	545	288K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(22.60) (34.50)	輪葉輪な迷走形で輪葉輪外側付根する。カクキ、輪 葉の把手。	ロクロナデ、ナデ、葉。	22.6cm	
314	546	288K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(42.80) (6.30)	輪葉輪に丸くが、外側する葉形と輪葉輪で輪葉輪大きくて 輪葉輪が大きい。	ロクロナデ、沈み、灰白、葉。	42.8cm	
314	547	288K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(15.80) (5.80)	外側する葉形から外側「輪葉輪」がする。タキ。	ロクロナデ、灰白。	15.8cm	
314	548	288K	SH2801	黒シルト	須葉	茎	(2.75)	外側する葉形に丸い葉形で、輪葉輪は半円形で端 が外側する。	ロクロナデ、葉。	2.75cm	
314	549	288K	SH2802	上層 各種	須葉	茎	(15.70) 2.10	輪葉輪な葉形がよく現れる。葉形は丸く、 輪葉輪下につまびしあり。	ロクロナデ、ナデ、葉。	15.7cm	
314	550	288K	SH2802	上層 各種	須葉	茎	(8.30)	内側する葉形で輪葉輪がする。	ロクロナデ、葉。	8.3cm	
315	551	288K	SH2803	上層 各種	土壌器	根	(11.40) 4.30	内側する葉形で輪葉輪内側し、輪葉輪外側に尖ら ナデ、ロクロナデコナデ、外輪葉輪ナラ開葉、淡黄。	11.4cm		
315	552	288K	SH2803	上層 各種	土壌器	根	(14.80) (5.25)	内側する葉形から輪葉輪で、輪葉輪外側反す る。	ロクロナデ、ナデ、葉。	14.8cm	
315	553	288K	SH2803	上層 各種	土壌器	根	(16.00) (5.65)	内側する葉形から輪葉輪で、輪葉輪外側 輪葉輪がする。	ロクロナデ、ヨコナデ後退、灰白。	16.0cm	
315	554	288K	SH2803	上層 各種	土壌器	根	(11.80) (5.00)	内側する葉形で輪葉輪がする。輪葉輪は丸く、 輪葉輪下に輪葉輪がする。	ロクロナデ、葉。	11.8cm	
315	555	288K	SH2803	上層 各種	土壌器	根	(21.20) (5.90)	内側する葉形で輪葉輪で輪葉輪内側に輪葉輪 輪葉輪がする。	ロクロナデ、ヨコナデ、淡黄。	21.2cm	
315	556	288K	SH2803	下層 各種	土壌器	根	(8.60) (5.36)	内側する葉形で輪葉輪で輪葉輪内側に輪葉輪 輪葉輪がする。	ロクロナデ、ヨコナデ、葉。	8.6cm	
315	557	288K	SH2803	上層 各種	土壌器	根	(3.65)	中葉の脚から外側に輪葉輪下方に張る。	ハナツボ、ナデ、葉。	3.65cm	
315	558	288K	SH2803	下層 各種	土壌器	根	(10.25)	内側する葉形で輪葉輪下方に張る。	ハナツボ、ナデ、葉。	10.25cm	

箇所	番号	出力場区	出力場種	電位	極性	極性	設置(cm)	上端	底端	差極	底端	底端-底形極性の折取	文種	摘要	備考
315	559	28S	下層 滴液	須忠器	杯型	(11.20) (3.70)	-	内蔵する本部から強度不足になり外傾する上端 端へ切り。	ロクロナデ、灰白~灰。						
315	560	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	16.60	5.60	-	内蔵する本部から強度不足になり外傾する上端 に沿う。ヘタ切付 D ₁ 。	ロクロナデ、ナデ、灰灰。				自然地付着。	
315	561	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	12.00	4.20	-	内蔵する本部から強度不足になり外傾する上端 に沿う。ヘタ切付 D ₁ 。	ロクロナデ、ロクロタケリ後1万回の仕上げナダ、黒板。					
315	562	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	11.80	4.10	-	内蔵強度の弱さから本部が底面溝する上端 に沿う。ヘタ切付 D ₁ 。	ロクロナデ、脚灰~灰。					
315	563	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	12.00	4.25	-	内蔵する本部から強度不足になり外傾する上端 に沿う。ヘタ切付 D ₁ 。	ロクロナデ、花瓶、灰。				自然地付着。	
315	564	28S	下層 滴液	須忠器	杯型	13.00	4.30	-	内蔵する本部から強度不足になり外傾する上端 に沿う。本部からやや本部手すみに留く間を受 い。	ロクロナデ、ロクロタケリ、不定方向のナデ、灰~黒板。					
315	565	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	(10.10) (3.30)	-	内蔵する本部からやや本部手すみに留く間を受 い。底灰から内蔵する本部から強度不足。ヘタラギ。	ロクロナデ、灰白~灰。						
315	566	28S	下層 滴液	須忠器	杯型	11.90	4.00	-	内蔵灰から内蔵する本部から強度不足。ヘタラギ。	ロクロナデ、ナデ、灰灰。					
315	567	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	(12.15) 4.55	-	内蔵する本部から強度不足により強度丸 に沿う。ヘタ切付 D ₁ 。	ロクロナデ、灰灰~灰。						
315	568	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	(12.40) (4.15)	10.00	内蔵する本部から強度不足により強度丸。ヘタ 切り。	ロクロナデ、奥灰~灰。						
315	569	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	(11.40) 4.80	(6.05)	内蔵する本部から強度不足により強度丸。	ロクロナデ、ロクロタケリ、黒板。						
315	570	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	12.80	4.30	-	内蔵する本部から強度不足により強度丸。	ロクロナデ、ロクロタケリ、ナデ、灰灰。					
315	571	28S	上層 滴液	須忠器	杯型	12.40	4.30	-	内蔵する本部から強度不足により強度丸。	ロクロナデ、ナデ、灰灰~黒板。				自然地付着。	
315	572	28S	上層 滴液	須忠器	皿	(18.00) 2.30	(15.80)	平底から外傾する本部より強度不足。頭部丸を 内蔵する本部から強度不足により強度丸。	ロクロナデ、ナデ、灰灰~黒板。						
315	573	28S	下層 滴液	須忠器	皿	7.75	5.15	-	外傾し頭部丸を内蔵する強度不足。	ロクロナデ、灰~灰白。					
315	574	28S	上層 滴液	須忠器	皿	(11.85) (1.30)	外灰及び強度不足により強度丸。	ロクロナデ、灰白~灰。							
315	575	28S	上層 滴液	須忠器	皿	(4.20) (1.80)	外灰及び強度不足により強度丸。	ロクロナデ、灰白~灰。							
315	576	28S	上層 滴液	須忠器	皿	(1.75) (0.60)	外灰及び強度不足により強度丸。	ロクロナデ、灰白~灰。							
315	577	28S	上層 滴液	須忠器	皿	(1.45) 12.10	外反する脚部から強度不足により強度丸。	ロクロナデ、灰白~灰。							
316	578	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	(17.60) (2.50)	-	平底から外傾する本部より強度不足。	ロクロナデ、ロクロタケリ、灰~灰白。						
316	579	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	-	丸いつまみは下皿灰。	ロクロナデ、ナデ、灰白~灰。							
316	580	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	15.00	3.40	11.80	平底で強度不足する本部より強度丸。	ロクロナデ、ナデ、灰白~灰。				自然地付着。	
316	581	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	12.00	3.55	8.20	内蔵する本部から内側すり頭部より強度不足。	ロクロナデ、花瓶、灰~灰白。					
316	582	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	(12.00) 3.80	-	ヘタ切付。	ロクロナデ、ナデ、灰白。						
316	583	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	(11.80) 3.70	(7.10)	平底から外傾する本部より強度不足。	ロクロナデ、灰~灰白。						
316	584	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	(18.60) 5.00	9.80	平底から外傾する本部より強度不足。	ロクロナデ、灰~灰白。					自然地付着。	
316	585	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	(18.60) 7.80	-	内蔵する本部から内側すり頭部より強度不足。	ロクロナデ、花瓶。						
316	586	28S	下層 滴液	ビート管とその下皿	須忠器	-	-	-	平底から外傾する本部より強度不足。	ロクロナデ、灰~灰白。					
									底部外面に書記号。						

相手	出土地区 番号	出土遺物	場所	種別	形状	寸法(cm)	形態・変形特徴の特徴	文様・個性注釈の特徴
							径	高さ
595 内須地	316	ビード管とその下部 青色ガラス管	土壌層	イコダ波 波状	5.55 (9.50)	—	機能的で堅牢。	ナデ、高年数一貫。
598 西須地	316	ビード管とその下部 青色ガラス管	土壌層	イコダ波 波状	— (7.40)	—	封緘形で芯部欠損。ユビ彫刻。 不完全な芯部。外側が削り取られた。体内部 消すする。ヘタ切り。	ナデ、灰質一貫。
599 内須地	316	ビード管とその下部 青色ガラス管	土壌層	波状	— (28.40)	—	封緘形で芯部欠損。ユビ彫刻。 高年数。	ロクロナギ、ナデ、灰質一貫。
599 西須地	316	ビード管とその下部 青色ガラス管	土壌層	波状	7.50 9.40	—	封緘形で芯部欠損。芯部は外観。 波状。	ナデ、灰質一貫。
591 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	高杯	(15.70)	—	内溝する形態で管脚を強化する。中実の脚部。	ナミガサ、ヨコナギ。浅黄。
592 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	(20.10)	(4.85)	内溝する形態で管脚を強化する。中実の脚部。	ナミガサ、ヨコナギ。浅黄。
593 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	楕	17.20	5.90	6.0 小安定な芯部から外側に尖る形態。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
594 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	10.70	3.85	内溝する形態で芯部は丸く柔軟丸み。至 り尖り。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
595 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	13.40	—	内溝する形態で芯部は丸く柔軟丸み。至 り尖り。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
596 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	(12.80)	3.75	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
597 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	(6.80)	(5.40)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
598 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	(12.50)	(6.40)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
599 谷底	317	青色ガラス管 (黒シルト層)	土壌層	要	(25.50)	(8.50)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
600 谷底	317	黒シルト	土壌層	要	(26.20)	(6.40)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
601 谷底	317	黒シルト	土壌層	要	(5.30)	1.40	内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、灰一貫。
602 谷底	317	青色ガラス	生土層 (脚部)	要	(15.80)	—	今以前の時代の器体から見立てる形態。 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
603 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	16.40	(6.30)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
604 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	16.40	(6.30)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
605 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	16.00	(10.80)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
606 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	6.30	8.40	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
607 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	12.20	4.90	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
608 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	10.70	4.70	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
609 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	(11.20)	3.80	5.6 半円形で内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
610 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	(11.40)	4.70	5.10 半円形で内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
611 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	12.40	(6.30)	— 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。
612 谷底	317	青色ガラス	土壌層	要	13.40	8.55	9.0 内対きみの芯部が強度不足。	ロクロナギ、ナミガサ、ヨコナギ。灰一貫。

頭類 骨部	部位 番号	出土地区	遺物名	層位	発見 場所	種別	器種	法量(cm)	高さ 口径	器高	底径	備考	
頭部 骨部	6173	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	(13.60) 13.10	12.30	外反する頭部が濃色部である。内側は黄褐色である。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰。	又傳・調査法の特徴	
317	614	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	(12.60) (3.80)	-	この手で留め難い。頭部外側は黄褐色である。タケキ。	ロクロナデ、灰。	ロクロナデ、灰。	
317	615	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	9.30	(6.65)	この。タケキ。	ロクロナデ、灰。	ロクロナデ、灰。	
317	616	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	-	(12.30)	外反する体部から直角に内側に延びる筋節部に尖る。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。	
317	617	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	(22.00) (7.70)	-	外反する体部から直角に内側に延びる筋節部。エビ甌。	ロクロナデ、灰。	ロクロナデ、灰。	
318	618	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	22.70	(53.00)	10.20	外反する体部から直角に内側に延びる筋節部。薄い。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。
318	619	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	(3.60) (12.00)	-	この形状は頭部を上に開く形である。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。	
318	620	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	(5.50) (4.00)	10.10	手づくね。断面約1.10mm。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。	
318	621	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	-	(4.50)	手づくね。断面約1.10mm。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。	
318	622	28区 谷部 田河原	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	-	(11.20)	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。	
319	623	30区 P060	青灰砂	青灰砂	須磨層	須磨層	高杯	(17.40)	4.60	ノブ切りの形から輪郭部が尖る。	ロクロナデ、灰。	ロクロナデ、灰。	
319	624	30区 S13901	青灰砂質骨シート	青灰砂質骨シート	須磨層	須磨層	高杯	(20.50)	1.30	ノブ切りの形から輪郭部が尖る。	ロクロナデ、ロクロケツ、灰。	ロクロナデ、灰。	
319	625	30区 S13902	青灰砂質骨分	青灰砂質骨分	須磨層	須磨層	高杯	13.70	3.50	手づくね。断面約1.10mm。	ロクロナデ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	626	30区 青葉 S13901 西側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(25.80)	(3.20)	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	627	30区 S13901 东側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(15.70)	3.00	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	628	30区 S13901 东側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(16.20)	3.50	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	629	30区 S13901 北側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	-	-	手づくね。内側に凹溝がある。	ナデ、竹筒文、灰。	ナデ、竹筒文、灰。	
319	630	30区 S13901	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	-	-	手づくね。内側に凹溝がある。	ナデ、竹筒文、灰。	ナデ、竹筒文、灰。	
319	631	30区 S13901 东側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	17.80	3.10	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	632	30区 S13901 东側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(14.60)	1.85	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	633	29区 S12301 东側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(17.00)	4.00	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	634	29区 S12301 東側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(11.80)	4.35	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	635	29区 S12301 東側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(16.30)	4.80	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	636	29区 S12301 北側	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	-	(1.20)	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	
319	637	29区 S12301	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(11.80)	4.90	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	638	29区 S12301 中央	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	13.15	3.45	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	639	29区 S12301 水田土壠	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	-	-	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	640	29区 水田土壠	青葉	青葉	須磨層	須磨層	高杯	(14.30)	2.10	(8.80)	手づくね。内側に凹溝がある。	ロクロナデ、ロクロケツ、ナデ、灰。	ロクロナデ、ナデ、灰。

区域	管轄 管轄	所十地区	所十敷地	層位	構造	床面	床高(cm)	口徑	筋高	蓋高	文種・調整方法の特徴
西區 管轄	641	30区 段丘下	水田土塗	薪炭土塗中	土筋路	田	(19.90)	2.20	-	-	形態・底座法の特徴。
319	641	30区 段丘下	水田土塗	黑泥黒泥シルト	土筋路	桿	(11.80)	3.35	6.20	-	平底で内溝底板、面積多い、外側へテグス。 不完全な底から外傾し、底筋多く見る。ヘラ切付。
319	642	30区 段丘下等地	水田土塗	黒泥黒泥シルト	土筋路	桿	(12.30)	4.00	-	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多くやや反り、ヘラ切付。
319	643	30区 段丘下	水田土塗	黒泥黒泥シルト	須恵路	桿	(14.30)	2.85	9.50	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多くやや反り、ヘラ切付。
319	644	30区 段丘下	水田土塗	黒泥黒泥シルト	須恵路	桿	(14.20)	4.10	11.60	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多くやや反り、ヘラ切付。
319	645	30区 段丘下	水田土塗	黒泥黒泥シルト	須恵路	桿	(12.00)	3.80	6.30	-	内傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
319	646	30区 段丘下	水田土塗	黒泥黒泥シルト	須恵路	桿	(12.50)	3.50	9.20	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	647	30区 段丘下等地	水田土塗	黒泥黒泥シルト	須恵路	桿	(13.00)	3.35	8.00	-	底筋から外傾する底筋、底筋多く、ヘラ切付。
320	648	30区 段丘下	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(13.00)	3.90	7.60	-	ロクロナデ、ナダ、灰質。
320	649	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(13.00)	3.60	7.40	-	底筋から外傾し、上端底筋で底筋多く、ヘラ切付。
320	650	30区 段丘下	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(13.00)	3.60	7.75	-	底筋から外傾し、上端底筋で底筋多く、ヘラ切付。
320	651	30区 段丘下	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(12.80)	4.90	8.30	-	底筋から外傾し、自筋の輪高合せ行く。
320	652	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(14.20)	5.50	7.00	-	底筋から外傾し、自筋の輪高合せ行く。
320	653	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(8.30)	(3.10)	-	-	内傾する底筋で上端底筋で底筋多く、ヘラ切付。
320	654	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(2.80)	-	-	-	内傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	655	30区 段丘下	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(16.10)	2.00	-	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	656	30区 段丘下	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(17.70)	3.10	-	-	内傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	657	30区 段丘下	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(21.80)	3.30	-	-	内傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	658	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(25.80)	(3.40)	-	-	内傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	659	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	-	-	-	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	660	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	-	-	-	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	661	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	-	-	-	-	底筋から外傾する底筋で、底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	662	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	17.70	3.20	-	-	底筋から外傾する底筋で底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	663	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	15.80	3.00	-	-	底筋から外傾する底筋で底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	664	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	(14.80)	(3.00)	-	-	底筋から外傾する底筋で底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	665	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	15.30	3.75	12.20	-	底筋から外傾する底筋で底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。
320	666	30区 段丘下等地	水田土塗	下平砂質面込上	土筋路	桿	13.00	3.30	7.85	-	底筋から外傾する底筋で底筋多く底筋が斜めに傾き、底筋を下に傾かせる。

固版 番号	固版 番号	出土地地区	出土遺物	層位	層別	剖面	口径	口径	法面	形態・変遷法の特徴		文様・圖案法の特徴	備考	
										底	高さ	器形		
320	678	30区 東岸	青手色 漆器	ビト型+青手色 漆器	無	杯	(14, 40)	3, 70	(10, 30)	無	無	無	無	無
320	668	30区 西岸	漆器	漆器	無	杯	(16, 40)	3, 00	(10, 30)	無	無	無	無	無
320	669	30区 北側河内	漆器	漆器	無	杯	(13, 20)	4, 20	(10, 30)	平底から外傾、底に凹み。	外傾するが、底に凹みがある。へたり切り。	外傾するが、底に凹みがある。へたり切り。	外傾するが、底に凹みがある。へたり切り。	外傾するが、底に凹みがある。へたり切り。
320	670	30区 中央	漆器	漆器	無	杯	16, 40	3, 65	(12, 20)	無	無	無	無	無
320	670	30区 西岸	漆器	漆器	無	杯	(17, 40)	4, 10	(12, 50)	無	無	無	無	無
320	671	30区 南岸	漆器	漆器	無	杯	(19, 20)	7, 40	—	無	無	無	無	無
320	672	30区 下	漆器	漆器	無	杯	(18, 20)	7, 40	—	無	無	無	無	無
320	673	30区 下	漆器	漆器	無	杯	(18, 20)	13, 00	—	無	無	無	無	無
320	674	30区 東岸	漆器	漆器	無	杯	17, 30	5, 30	—	無	無	無	無	無
320	675	30区 西岸	漆器	漆器	無	杯	(18, 30)	5, 00	—	無	無	無	無	無
321	676	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(14, 40)	6, 10	—	無	無	無	無	無
321	677	31区 中央	漆器	漆器	無	杯	(20, 40)	7, 00	—	無	無	無	無	無
321	678	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(20, 40)	7, 00	—	無	無	無	無	無
321	679	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(21, 40)	15, 00	—	無	無	無	無	無
321	680	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(20, 30)	7, 15	—	無	無	無	無	無
321	681	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(25, 40)	14, 10	—	無	無	無	無	無
321	682	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(12, 40)	15, 00	—	無	無	無	無	無
321	683	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(9, 50)	—	無	無	無	無	無	無
321	684	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(27, 40)	12, 25	—	無	無	無	無	無
322	685	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(4, 40)	31, 10	—	無	無	無	無	無
322	686	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(27, 40)	11, 45	—	無	無	無	無	無
322	687	31区 東岸	漆器	漆器	無	杯	(3, 30)	34, 50	—	無	無	無	無	無
322	688	31区 東岸	漆器	漆器	底	底	(16, 50)	11, 30	—	無	無	無	無	無
322	689	31区 東岸	漆器	漆器	底	底	(15, 40)	10, 80	—	無	無	無	無	無
322	690	31区 東岸	漆器	漆器	底	底	(15, 50)	11, 30	—	無	無	無	無	無
322	691	31区 東岸	漆器	漆器	底	底	(18, 10)	9, 55	—	無	無	無	無	無

圖版 番号	場所	出土地名	施位	施位	種別	器種	法面 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	文書・調査記述の特徴	備考
322	692	31 - 東区	SX3.106		土器	須	14.00	7.65	-	形態・実物は次の如き。 不安定な平底から内側に盛器をくく内張する。ユハテ裏形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。	
323	693	31 - 東区	SX3.116		須	須	(29.80)	(15.10)	-	無い腹部から外反して脚口横張形。縁部を記 する。縁部から内側に盛器をくく内張する。ユハテ裏形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。	
323	694	31 - 東区	SX3.116		弦纹土器	須	-	(13.45)	7.00	お手から口付形状を示す。	外壁表面近くへテラミガサ。
323	695	31 - 東区	SX3.117		土器	須	12.40	11.75	-	下部の淤泥形が深く、内張する。口縁部が付さず、脚 部より淤泥形を示す。	二次焼成。
323	696	31 - 東区	SX3.117		須	須	(31.60)	(18.03)	-	内張する体部が深く、外壁表面附近へテラミガサ。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
323	697	31 - 東区	SX3.117		須	須	(27.60)	30.95	11.10	腰に内折れした体部で底張り。大口外反す。	ロクナヂ、淡色。
323	698	31 - 東区	SX3.122		弦纹土器	底	(12.40)	(3.20)	-	大口外反と脚口横張形。縁部を記す。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
323	699	31 - 東区	SX3.122		弦纹土器	底	(26.75)	(10.60)	-	縁部の所から底張してほぼ平底にはく内張する。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
323	700	31 - 東区	SX3.122		弦纹土器	底	(26.40)	(11.40)	-	この字形に似て窓口付形。底張を記す。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	701	31 - 東区	SX3.101		須	杯	(18.60)	(2.50)	-	手球天井部から脚部へ脚部下方に引張る。	ロクナヂ、外折ハタモチ。
325	702	31 - 東区	SX3.101		土器	杯	(14.10)	4.75	(16.30)	内張する底部から杯形。底張く丸い。断面方 形表記のため切口(ミカキ)、骨、bc。	化粧土巣形。
324	703	31 - 東区	SX3.102		土器	杯	(15.60)	6.29	-	丸底から内側の「脚部」で底張す。	黒底あり。
325	704	31 - 東区	SX3.102	ト	土器	杯	(15.80)	4.70	(8.90)	手球天井から内側の「脚部」で底張す。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	705	31 - 東区	SX3.102		土器	杯	(3.50)	2.89	-	手球天井から内側の「脚部」で底張す。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	706	31 - 東区	SX3.102		須	杯	9.25	2.05	7.10	手球天井から内側の「脚部」で底張す。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	707	31 - 東区	SX3.102		須	杯	(3.50)	3.40	5.35	手球天井から外側に、縁部厚くくびれ する。脚部へ手球天井へ少切り。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
321	708	31 - 東区	SX3.102		土器	舟	10.60	5.35	-	手球天井から外側に、縁部厚くくびれ する。脚部へ手球天井へ少切り。	ロクナヂ、ナマ、阮。
324	709	31 - 東区	SX3.104		須	蓋	16.40	3.35	-	内張する底部から口縁部になり、底張部に張 り出する底部天井部つまり、縫合部が付く。	ロクナヂ、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	710	31 - 東区	SX3.104		土器	杯	(43.20)	(10.35)	-	丸底から内側の「脚部」で底張す。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	711	31 - 東区	SX3.105		須	杯	9.40	3.70	-	丸底から内側の「脚部」で底張す。	ロクナヂ、ナマ、bc-1'。
324	712	31 - 東区	SX3.105		須	蓋	-	(11.10)	-	縁部厚くくびれする体部品と脚部に凹屈、外反する脚 部から内側の「脚部」で底張す。	ロクナヂ、吳口にぶら型。
324	713	31 - 東区	SX3.106		土器	舟	(13.70)	(5.30)	-	内張する体部品から内側する「脚部」、縁部 厚くくびれする。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	714	31 - 東区	SX3.106		弦纹土器	舟	(3.45)	5.30	-	手球天井から外側する事多、湯沸形。	ユビヌイ形。
324	715	31 - 東区	SX3.107		弦纹土器	底	(12.90)	(4.65)	-	縁部の脚部から外反して脚口横張形。縁部を記 する。	ロクナヂ、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	716	31 - 東区	SX3.107		弦纹土器	底	(6.50)	(5.80)	-	お手から上部へ手球天井部から内側する事多、 湯沸形。	内外面共にハタモチ。
324	717	31 - 東区	SX3.108		土器	舟	22.70	(13.30)	-	縁部に内側する体部品から内側する「脚部」、縁部 厚くくびれする。	ロクナヂ、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
321	718	31 - 東区	SX3.108		須	杯	(11.70)	3.50	-	手球天井から外側する事多、湯沸形。	ロクナヂ、脚。
324	719	31 - 東区	SX3.108		須	蓋	(13.10)	(1.60)	-	底張部低く内側する大舟形、仄り外反する。	ロクナヂ、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
321	720	31 - 東区	SX3.108		須	杯	16.80	4.55	13.40	手球天井から内側する体部品と脚部近でやや反 り曲りする。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
324	721	31 - 東区	SX3.114		土器	舟	(23.40)	(3.35)	-	内張する体部品から内側する事多、湯沸形。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
325	722	31 - 東区	SX3.119		土器	舟	13.00	(4.70)	-	内側する体部品から内側する事多、湯沸形。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。
325	723	31 - 東区	SX3.119		土器	舟	(19.00)	(8.30)	-	内側する体部品から内側する事多、湯沸形。	ハタモチ形、ヨコナヂ、吳口にぶら型。

頭頂	額台	出土場所	出土遺物	部位	種別	筋群	位置	状況 (cm)	文様・調査方法の特徴	参考
325	724 31 - 西区	SD33119		上顎骨	差	土加筋	上顎骨	(6.70) (5.70)	内凹する筋跡がある。前部外側に浅い溝筋、筋跡。	
325	725 31 - 西区	SD33119		下顎骨	差	土加筋	下顎骨	(11.00) (3.40)	筋から内側へ向かう筋跡で筋膜内筋痕。	ロクロナデ、原。
325	726 31 - 西区	SD33101	下顎 黒シルト	土加筋	横	土加筋	下顎骨	(10.00) 3.40	内側する筋から口唇筋で筋膜内筋痕。	ナデ、灰白・浅黄色。
325	727 31 - 西区	SD33101		上顎 骨髄腔	横	土加筋	上顎骨	11.80 3.90	内側する筋から口唇筋で筋膜内筋痕。	ナデ、灰白・灰白。
325	728 31 - 西区	SD33101		土加筋	横	土加筋	上顎骨	(6.40)	ビ承形、灰白。	ナデ、灰白・明瞭。
325	729 31 - 西区	SD33101	黒シルト上面	土加筋	鉤	土加筋	上顎骨	(7.60) 6.55	内側する筋から口唇筋、筋膜内筋。	ハケ彫形、ナデ、原コナデ、黒灰~銀。
325	730 31 - 西区	SD33101	黒シルト	土加筋	鉤	土加筋	上顎骨	(10.10) 7.10 3.80	内側する筋から口唇筋、筋膜内筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
325	731 31 - 西区	SD33101	上顎 骨髄腔	土加筋	片口鉤	土加筋	上顎骨	(21.60) (10.80)	内側する筋から口唇筋で、筋膜は僅かに外側につまみ筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~浅黄色。
325	732 31 - 西区	SD33101		土加筋	要	土加筋	上顎骨	18.40 (4.70)	内側する筋から口唇筋で、筋膜は僅かに外側する筋膜、筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
325	733 31 - 西区	SD33101	眉堤	土加筋	要	土加筋	上顎骨	(15.80) (8.65)	内側する筋から口唇筋、筋膜内筋。	ハケ彫形、ナデ、ヨコナデ、黒灰~赤。
325	734 31 - 西区	SD33101	黒シルト下面	土加筋	要	土加筋	上顎骨	(17.40) (21.90)	内側する筋から口唇筋で筋膜は丸く、口唇筋外側は筋膜内筋。	ナデ、ハケ彫形、ナデ、ヨコナデ、口輪筋ヨコナデ、黒~銀灰。
325	735 31 - 西区	SD33101	上顎	土加筋	要	土加筋	上顎骨	(18.50) 32.80	左側から右側する筋の筋膜で筋膜外側に筋膜内筋。	ナデ、ヨコナデ、浅黄色。
325	736 31 - 西区	SD33101	下顎 黒シルト	土加筋	要	土加筋	上顎骨	22.95 32.65	内側する筋筋で筋膜外側に筋膜内筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~浅黄色。
325	737 31 - 西区	SD33101	下顎 黒シルト	土加筋	鉤	土加筋	上顎骨	(17.60) 18.80	内側から外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、浅黄色~銀。
325	738 31 - 西区	SD33101	上顎	土加筋	手手筋	手手筋	上顎骨	24.00 26.10	内側する筋筋から外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、浅黄色~銀。
326	739 31 - 西区	SD33101	上顎	土加筋	手手筋	手手筋	上顎骨	(25.80) (27.40)	内側する筋筋と口唇筋との筋膜で筋膜内筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
326	740 31 - 西区	SD33101	上顎	土加筋	手手筋	手手筋	上顎骨	(26.80) (29.50)	内側する筋筋と口唇筋との筋膜で筋膜内筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
326	741 31 - 西区	SD33101	下顎 黒シルト	土加筋	手手筋	手手筋	上顎骨	(12.60) (7.80)	内側する筋筋と口唇筋との筋膜で筋膜内筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
326	742 31 - 西区	SD33101		土加筋	筋	土加筋	上顎骨	長(2.65) 幅(3.20) 厚(1.30)	左側は筋膜は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
326	743 31 - 西区	SD33101	上顎	土加筋	筋	土加筋	上顎骨	(14.60)	右側は筋膜は僅かに外側する筋筋。	ナデ、浅黄色~灰白。
327	744 31 - 西区	SD33101	黒シルト	上加筋	筋	上加筋	上顎骨	(29.40) 31.70 (4.60)	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
327	745 31 - 西区	SD33101	場泥砂	土加筋	筋	土加筋	上顎骨	— (25.60)	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
327	746 31 - 西区	SD33101	黒シルト上面	土加筋	土加筋	土加筋	上顎骨上部	— (17.70) (12.60)	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
327	747 31 - 西区	SD33101	下顎 黒シルト	土加筋	イイダコ骨	イイダコ骨	上顎骨上部	(5.30) 13.55	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
327	748 31 - 西区	SD33101	上顎 斷面砂	土加筋	イイダコ骨	イイダコ骨	上顎骨	(5.80) 11.10	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
327	749 31 - 西区	SD33101	下顎 黒シルト	土加筋	土加筋	土加筋	上顎骨	長(8.90) 幅(2.20) 厚(1.20)	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。
327	750 31 - 西区	SD33101	上顎 土加筋	土加筋	土加筋	土加筋	上顎骨	長(7.60) 幅(2.25) 厚(1.70)	内側する筋筋は僅かに外側する筋筋。	ナデ、ヨコナデ、灰白~銀。

測定 箇所 番号	測定 箇所 番号	出土施設	出土遺物	層位	地引	剖面	口径	壁厚	測定・調査状況の特徴		
									測定 位置	測定 範囲(cm)	
327	751	31 - 西区	SR3101	上層 墓壙跡	土製品	土壌	底面	3.35	壁厚 2.30	周囲の隙間があり、なじみのよい、薄い土。断面は円形。断面は灰白色。	墨書き。
328	752	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(29.70) (8.90)	-	内側より外側する部分に凹凸がある。断面は灰白色。	墨書き。	
328	753	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(37.30) (9.65)	-	内側より外側する部分から外側する部分に凹凸がある。断面は灰白色。	墨書き。	
328	754	31 - 西区	SR3101	上層 附壙跡	土壙	土壙	(35.50) (16.40)	-	内側より外側する部分から外側する部分に凹凸がある。断面は灰白色。	墨書き。	
328	755	31 - 西区	SR3101	上層	土壙	土壙	(31.30) 25.00	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	756	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(9.50) 4.55	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	757	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(9.40) 5.25	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	758	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(11.15) 4.75	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	759	31 - 西区	SR3101	撫骨器	土壙	土壙	(11.80) 3.80	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	760	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(12.00) 4.40	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	761	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(10.50) 3.80	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	762	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	11.20 4.60	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	763	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(10.30) 3.70	-	内側より外側する部分から外側する部分で、端部が厚くなっている。断面は灰白色。	墨書き。	
328	764	31 - 西区	SR3101	上層	附壙跡	土壙	=	(3.30) (6.10)	平底で内側から外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	765	31 - 西区	SR3101	下層 黒シート	附壙跡	土壙	12.05 4.40	-	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	766	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	12.05	4.20	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	767	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	12.40	4.10	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	768	31 - 西区	SR3101	上層 附壙跡	土壙	土壙	11.80	4.20	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	769	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	10.55	3.80	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	770	31 - 西区	SR3101	黒シート	土壙	土壙	11.05	3.40	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	771	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	11.75	3.20	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
328	772	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	8.85	3.35	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
329	773	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	14.05	2.85	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
329	774	31 - 西区	SR3101	上層 附壙跡	土壙	土壙	(9.40)	2.35	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
329	775	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(10.60)	3.90	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
329	776	31 - 西区	SR3101	上層	附壙跡	土壙	(15.65)	3.40	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
329	777	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(12.90)	4.30	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	
329	778	31 - 西区	SR3101	附壙跡	土壙	土壙	(13.80)	4.30	内側より外側へ向かって傾斜する形で、受部は平底で、外側は斜面で傾斜する形である。反対側は直線的である。	墨書き。	

園原 番号	報告 番号	出土地名	出土状況	層位	種別	器種	法曲(cm)	上層 断面	下層 断面	参考
329	779	31 - 駅区	SZ2101	黒シルト	細繊維	窓井	(16.80) 14.40	14.40	14.40	文部・調査班の特徴 板橋・北形跡の特徴
329	780	31 - 駅区	SZ2101	黒粘土	細繊維	窓井	(14.30) 12.15	(12.10) 12.15	12.15	板橋は外反し層 黒井は内側に窓井底面(「手標」)。隣井は外 部は内側に窓井底面(「手標」)。隣井は外 部は内側に窓井底面(「手標」)。隣井は外 部は内側に窓井底面(「手標」)。隣井は外 部は内側に窓井底面(「手標」)。隣井は外 部は内側に窓井底面(「手標」)。隣井は外 部は内側に窓井底面(「手標」)。
329	781	31 - 駅区	SZ2101	黒シルト	細繊維	窓井	14.10 (9.70)	-	-	ロクロナデ、クロケズリ、花瓶、灰白。
329	782	31 - 駅区	SZ2101	昭和砂	粗繊維	台付窓	(12.00) (7.90)	-	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	783	31 - 駅区	SZ2101	黒粘土	粗繊維	台付窓	(12.35) 11.10	(10.60)	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	784	31 - 駅区	SZ2101	下層 黒シルト	無機器	台付窓	9.90	(5.40)	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	785	31 - 駅区	SZ2101	無機器	無機器	台付窓	(11.85) (8.90)	-	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	786	31 - 駅区	SZ2101	下層 黒シルト	無機器	窓井	-	(11.05)	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	787	31 - 駅区	SZ2101	黒シルト	無機器	窓井	-	(5.30)	(8.10)	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	788	31 - 駅区	SZ2101	昭和砂	無機器	ミニチュア窓	3.60	6.05	-	ロクロナデ、花瓶。
329	789	31 - 駅区	SZ2101	トレイ 黒シルト	無機器	体	-	(5.85)	9.70	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	790	31 - 駅区	SZ2101	上層	無機器	大柱脚	(25.60) (7.20)	-	-	ロクロナデ、花瓶。
329	791	31 - 駅区	SZ2101	無機器	無機器	体	25.60	11.20	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
329	792	31 - 駅区	SZ2101	無機器	無機器	体	(34.00) 26.75	(9.40)	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
330	793	31 - 駅区	SZ2101	黒シルト	無機器	窓	(19.30) (6.35)	-	-	ロクロナデ、花瓶。
330	794	31 - 駅区	SZ2101	無機器	無機器	窓	(21.60) (15.20)	-	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
330	795	31 - 駅区	SZ2101	下層 黒シルト	無機器	保坂	(11.70) 26.75	-	-	外壁に内寄する手標部で、突出は無い。
331	796	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	(35.20) (17.00)	-	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
331	797	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	-	(28.00)	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
331	798	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	(21.20) (27.00)	-	-	外壁に内寄する手標部で、突出は無い。
331	799	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	-	(6.70)	-	ロクロナデ、花瓶、灰白。
332	800	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	-	(8.20)	-	ハサマテ、ナガ、花瓶、灰白。
332	801	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	(35.40) 31.90	(46.30)	-	ハサマテ、ナガ、ヨコナダ、灰白。
333	802	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	(17.45) 5.35	-	-	ハサマテ、ナガ、ヨコナダ、灰白。
334	802	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	-	(7.15)	-	ハサマテ、ナガ、灰白。
334	803	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	(9.40) (8.10)	-	-	ハサマテ、ナガ、灰白。
334	804	31 - 駅区	SZ2102	土塗地	土塗地	窓	(21.70) (8.90)	-	-	ハサマテ、ナガ、ヨコナダ、灰白。

測定 部位 番号	部位 番号	測定地区	山土測地	部位	極点	部側	部側	測定・算出方法の特徴		文書・圖表註記の特徴	備考	
								口径	器械	法規(cm)		
334	865	31-東区	SR3102	上唇部	縫	33.10	(12.70)	-	内折する体部から外側し、縫部外側につまみ出 内側へタカズリ。	ハタツメ形、ナデ、ヨコナデ、に長い指先一握団。		
334	867	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(11.40)	3.65	-	内折する体部から外側し、縫部外側は直角とする。 縫部長い。ヘタリなし。	ロクロナデ、灰白。		
334	868	31-東区	SR3102	腋毛部	縫	(12.30)	4.55	-	内折する体部から外側し、縫部外側が直角する。 内側は直角。外側は外側へ切りする。ヘタリなし。	ロクロナデ、生ぬり、灰白一握団。		
334	869	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(11.50)	3.59	-	内折する体部から外側し、縫部外側が直角する。 内側は直角。外側は外側へ切りする。縫部 内側は直角から外側へ切り、受部は直角へ外側す る。内側は直角から外側へ切る。ヘタリなし。	ロクロナデ、ナデ、灰白。		
334	870	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(9.90)	(2.86)	-	内折する体部から外側し、縫部外側が直角する。 内側は直角から外側へ切る。縫部端部で、端部丸 い。ヘタリなし。	ロクロナデ、ナデ、灰白。		
334	871	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	11.69	3.55	6.10	不安定平底、から外側へするは縫端で、端部丸 い。ヘタリなし。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白一握丸。	自然側付着。	
334	872	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(5.80)	(6.40)	-	算出値の体部を延び直さずするは縫端で、端部 丸い。	ロクロナデ、灰白。		
334	873	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(7.00)	(4.36)	-	扁平な体部で内側へ切る。縫部後端不規則で丁跡 半円状で、端部丸い。	ロクロナデ、灰白一握丸。		
334	874	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	-	(6.10)	-	半円状の体部が内側へ切るに端部がある。内側は 内折する体部から外側するは縫端で、内側は直角。 ヘタリなし。	ロクロナデ、沈黙、灰白。		
334	875	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(21.10)	7.15	-	内折する体部から外側するは縫端で、内側は直角。 内側は直角から外側へ切る。ヘタリなし。	ロクロナデ、灰白一握丸。		
334	876	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(23.30)	8.25	-	内折する体部から外側するは縫端で、内側は直角。 内側は直角から外側へ切る。ヘタリなし。	ロクロナデ、自然側、灰白一握丸。		
334	877	31-東区	SR3102	脇毛部	縫	(28.00)	(28.80)	-	内折する体部から外側へ切るは縫端で、内側は直角。 内側は直角から外側へ切る。ヘタリなし。	ロクロナデ、口端部、灰白、灰白一握丸。		
335	878	32区	SR3201	黒髪シルト	腋毛部	縫	-	(4.60)	-	内側はよく長い腰合尾。縫部は全くくねめ 筋膜内側テグス、外側アカメ、脚骨部はユビ痕部の後テグスで 蓋もなる。	ロクロナデ、自然側付着。	
335	879	32区	SR3201	上臂	脇毛部	縫	11.80	(5.00)	-	天井部丸く、口端部は直立するは縫部で、端部丸 い。ヘタリなし。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
335	880	32区	SR3201	腋毛シルト	脇毛部	縫	(10.10)	3.60	-	内側はよく長い腰合尾。縫部は全くくねめ筋 膜内側テグス、外側アカメ、脚骨部はユビ痕部の後テグスで 蓋もなる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然側付着。
335	881	32区	SR3201	脇毛部	縫	8.50	(2.50)	-	平たんの底部から外側へ、空腹部端部を丸い。反り 平たん平底から外側へ伸張するが受部が受持、及び 不完全平底。反り外側へ伸張する。	ロクロナデ、灰白一握丸。	自然側付着。	
335	882	32区	SR3201	黒髪シルト	脇毛部	縫	(11.40)	4.35	-	不完全平底から外側へ伸張する。	ロクロナデ、灰白一握丸。	自然側付着。
335	883	32区	SR3201	黒髪シルト	脇毛部	縫	-	(3.70)	-	平たんから内側へ伸張するは縫部で、受部は短く外側へ 伸張する。ヘタリなし。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	自然側付着。
335	884	32区	SR3201	蒸灰頭筋	脇毛部	縫	9.05	3.30	7.35	丸から外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	自然側付着。
335	885	32区	SR3201	灰褐色筋	脇毛部	縫	(10.60)	3.55	(8.70)	丸から外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。反り 平たんから外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	自然側付着。
335	886	32区	SR3201	洪水影響	脇毛部	縫	10.10	3.60	5.20	平たんから外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	自然側付着。
335	887	32区	SR3201	黒髪シルト	脇毛部	縫	(10.80)	4.25	(5.30)	切り出するは縫部から外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	自然側付着。
335	888	32区	SR3201	黒髪シルト	脇毛部	縫	10.15	3.40	6.30	切り出するは縫部から外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
335	889	32区	SR3201	蒸灰頭筋	脇毛部	縫	9.60	3.00	5.40	平たんの底部から外側へ、ヘタリなし。	ロクロナデ、灰白。	
335	890	32区	SR3201	灰褐色筋	脇毛部	縫	10.55	4.10	5.65	平たんから外側へ伸張するは縫部で、ヘタリなし。	ロクロナデ、灰白。	
335	891	32区	SR3201	黑シルト	脇毛部	縫	10.95	4.10	-	平たんから外側へ伸張するは縫部で、端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
335	892	32区	SR3201	灰褐色筋	脇毛部	縫	(23.00)	(8.90)	-	内側はよく長い腰合尾。端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
335	893	32区	SR3201	上臂筋	イイダニ	縫	5.50	12.10	-	内側はよく長い腰合尾。端部丸い。	ナデ、ヨコナデ、灰白。	

出版 番号	考古 学名	出土実機 番号	出土実機 番号	部位	種別	各種 寸法(cm)	口径 直径	法規(cm)	軸類・機械部材の特徴	文機・調査柱材の特徴	備考	
335	834	SZ3201	SZ3201	土壠部	イタコ型	(5.50)	(11.50)	-	頭蓋いわば手形で内面はるぶる。ヨピ端丸ら。ナダ、灰白にふい葉。	-		
335	835	SZ3206	SZ3201	蒸灰運搬車-車輪	土壠部	イタコ型	(4.80)	11.80	内面はるぶる頭蓋で頭蓋が外側もナダ。ヨコナダ、灰白一輪。	頭蓋あり。		
335	836	SZ3203	SZ3202	蒸灰運搬車-車輪	土壠部	イタコ型	車輪	10.00	3.00	天井部平たく、輪幅部に内面はるぶる頭蓋がみに。ロコナダ、ロコケズリ、ヨコナダ。	自然船材。	
335	837	SZ3208	SZ3207	蒸灰運搬車-車輪	頭蓋部	頭蓋部	頭蓋	11.00	3.00	天井部平たく三脚、車輪を斜めに据え。ロコナダ、灰白-灰オーブ。	ロコナダ、灰白-灰オーブ。	
335	838	SZ3205	SZ3222	頭蓋部	頭蓋部	頭蓋	頭蓋	11.00	3.00	天井部平たく頭蓋部に外側を付する。頭蓋丸い。	ロコナダ、灰白-灰丸。	
335	839	SZ3208	SZ3206	頭蓋部	頭蓋部	頭蓋	頭蓋	11.00	3.00	天井部平たく頭蓋部に外側を付する。頭蓋丸い。	ロコナダ、灰白-灰丸。	自然船材。
335	840	SZ3205	SZ3202	頭蓋部	頭蓋部	頭蓋	頭蓋	15.70	4.90	天井部平たく車輪を斜めに据え。ロコナダ、灰白-灰丸。	ロコナダ、灰白-灰丸。	藍ねぬの特徴。
335	841	SZ3205	落ち込み	頭蓋部	頭蓋	頭蓋	頭蓋	14.00	4.90	天井部平たく頭蓋部を斜めに据え。ロコナダ。	ロコナダ。	藍ねぬの特徴。
335	842	SZ3205	落ち込み	頭蓋部	頭蓋	頭蓋	頭蓋	16.70	4.90	天井部平たく頭蓋部を斜めに据え。ロコナダ。カキメ。	ロコナダ。	
335	843	SZ3205	P520	土壠部	ニチヨウアゲ	5.00	4.20	-	天井部はラウンドで、内面は頭蓋が強しく不明。	-		
335	844	8414	SZ4102 P512	生虫土器	土壠部	土壠部	土壠部	12.00	4.20	天井部はラウンドで、内面は頭蓋ナダ。底部は頭蓋ナダ。底部内面はせんじやく外側を削る。	ロコナダ。	
336	845	SZ3203	SZ4701	土壠	須蓋部	正	20.10	2.50	天井部はラウンドで頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	846	SZ3203	SZ4702	土壠部	須蓋部	光	12.00	11.50	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	847	SZ3204	SZ4702	土壠部	須蓋部	直	19.00	7.30	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	848	SZ3205	SZ4703	土壠部	須蓋部	直	19.00	7.30	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	849	SZ3203	SZ4703	土壠部	須蓋部	直	19.00	7.30	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	850	SZ3203	SZ4704	土壠部	須蓋部	直	19.00	7.30	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	851	SZ3205	P504	土壠部	須蓋部	直	16.00	2.90	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	852	SZ3205	SZ3209 P503	土壠部	須蓋部	直	15.00	-	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	853	SZ3205	SZ3209 P503	土壠部	須蓋部	直	14.50	-	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	854	SZ3205	SZ3211 P548	土壠部	須蓋部	直	13.00	-	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	855	SZ3205	SZ3212 P503	土壠部	須蓋部	直	14.20	-	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	856	SZ3205	P514	土壠部	須蓋部	高杯	-	(9.50)	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	857	SZ3205	P504	土壠部	須蓋部	要	12.80	(8.50)	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	858	SZ3205	P504	土壠部	須蓋部	黒	-	(7.60)	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	859	SZ3205	SZ3201 P506	土壠部	イタコ型	3.90	11.50	-	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	860	SZ3205	SZ3201 P515	土壠部	イタコ型	3.90	11.50	-	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	861	SZ3205	P515	生虫土器	土壠部	イタコ型	頭蓋	(6.00)	(9.80)	天井部はラウンドで、頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。	
336	862	SZ3205	P515	須蓋部	須蓋	須	(11.20)	4.40	天井部はラウンドで頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
336	863	SZ3205	P561	十輪部	須蓋	須	(18.30)	(8.00)	天井部はラウンドで頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。		
337	864	SZ3205	SZ3209	頭蓋部	頭蓋	頭蓋	頭蓋	13.50	11.45	天井部はラウンドで頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。	
337	865	SZ3205	SZ3211	土壠部	頭蓋	頭蓋	頭蓋	13.00	11.40	天井部はラウンドで頭蓋部は直ぐ立ち上がる。	ロコナダ。	

回数	操作番号	出力端子	出力端子	部位	操作	操作	法線(cm)	法線	文様・調整方法の特徴	備考
337	866	37区	SKS3711	上部芯	モード	モード	(22, 40)	(2, 20)	外反して広がる形で、腰筋を肥厚させる。	ヨコナナを施す。
337	867	37区	SK3719	側面筋	斜め	斜め	14, 30	3, 70	天井はえみをもとへ、その上口接続部をもつて、内裏には仕上げテープを施す。	天井はヘタケリの重つまみをモードで付ける。内裏には仕上げテープを施す。
337	868	37区	SK3719	側面筋	斜め	斜め	-(5, 10)	8, 00	腰筋が付いた天井から天井筋が丸み立つ上がる。 腰筋が付いた天井から天井筋が丸み立つ上がる。 腰筋が付いた天井から天井筋が丸み立つ上がる。 腰筋が付いた天井から天井筋が丸み立つ上がる。	大井部はナナ、体部は直角ナナ、底部外延はヘタ切り後ナナ
337	869	37区	SK3719	下面	斜め	斜め	16, 60	(3, 90)	伸び、張り、腰筋がある。	伸び、張り、腰筋がある。
337	870	37区	SK3719	側面筋	斜め	斜め	-(12, 00)	9, 80	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。 天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。
337	871	37区	SK3719	側面筋	斜め	斜め	-(15, 80)	-	伸び、張り、腰筋がある。	伸び、張り、腰筋がある。
338	872	37区	SK3725	側面筋	斜め	斜め	10, 80	6, 30	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。
338	873	37区	SK3725	側面筋	斜め	斜め	-(11, 00)	6, 20	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。
338	874	37区	SK3720	側面筋	斜め	斜め	(23, 80)	(14, 60)	伸び、張り、腰筋がある。	伸び、張り、腰筋がある。
338	875	37区	SK3720	側面筋	斜め	斜め	-(5, 50)	-(10, 30)	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	876	37区	SK3720	側面筋	斜め	斜め	-(6, 80)	8, 60	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。
338	877	37区	SK3720	側面筋	斜め	斜め	(21, 60)	(5, 50)	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	878	37区	SK3720	側面筋	斜め	斜め	(19, 40)	(12, 70)	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	879	37区	SK3720	側面筋	斜め	斜め	-(10, 20)	9, 30	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	880	37区	SK3721	側面筋	斜め	斜め	(21, 00)	(9, 30)	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	881	37区	SK3723	側面筋	斜め	斜め	12, 10	7, 20	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	882	37区	SK3726	側面筋	斜め	斜め	6, 60	(4, 60)	腰筋が斜板である。	腰筋が斜板である。
338	883	37区	SK3726	上部筋	直	直	(22, 60)	3, 30	(14, 00) 引こむ。	引こむ。
338	884	37区	SK3742	上部筋	直	直	(21, 60)	2, 70	腰筋から体部筋へ斜めに立ち上がる。	ヨコナナ。
338	885	37区	SK3702	側面筋	斜め	斜め	9, 50	3, 50	天井はえみをもとへ、天井筋が丸み立つ上がる。	「横筋」に天井筋の波の特徴。
338	886	37区	SK3702	側面筋	斜め	斜め	10, 20	3, 30	腰筋が斜めに立ち上がる。	腰筋が斜めに立ち上がる。
338	887	37区	SK3702	側面筋	斜め	斜め	-(12, 60)	(5, 10)	腰筋が斜めに立ち上がる。	ヨコナナ。
338	888	37区	SK3707	側面筋	斜め	斜め	(27, 80)	(13, 60)	腰筋から体部筋を寄り立ち上がり、口輪筋部外延はヘタ切り後ナナ。	腰筋から体部筋を寄り立ち上がり、口輪筋部外延はヘタ切り後ナナ。
339	889	37区	SD3710	側面筋	斜め	斜め	(11, 30)	3, 50	腰筋が斜めに立ち上がる。	腰筋が斜めに立ち上がる。
339	890	37区	SD3710	側面筋	斜め	斜め	(9, 60)	3, 30	腰筋が斜めに立ち上がる。	腰筋が斜めに立ち上がる。

図版 番号	面別 面番号	出土地区	出土遺物	部位	種別	器種	位置 (cm)		形態・測定法の特徴	備考	
							前縁	後縁	上縁	下縁	
339	891	37区	SD3711	土器底	直筒	杯	(17.80)	4.50	-	-	平底から口部は斜めに伸びる。体部中位から口部斜面はヨコナデ、底部外周はナダを施す。
339	892	37区	SD3711	土器底	十字型	甕	16.00	(11.00)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は擦痕を有し、口縁部を削り取った跡である。
339	893	37区	SD3711	土器底	把手付甕	甕	16.70	8.60	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面はヨコナデ、底部外周はハケ。内面はユビヨリエの形を有する。
339	894	37区	SD3711	土器底	修理甕	杯	11.2	4.05	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	895	37区	SD3711	土器底	修理甕	甕	-	(9.20)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	896	37区	SD3711	修理甕	長筒甕	甕	-	(10.00)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	897	37区	SD3715	修理甕	杯身	(13.00)	5.80	(15.30)	5.80	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	898	37区	SD3716	土器底	杯身	(11.90)	3.10	(17.80)	3.10	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	899	37区	SD3716	修理甕	杯	(14.80)	5.30	(8.80)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	900	37区	SD3716	修理甕	杯	(16.30)	5.80	7.80	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	901	37区	SD3716	修理甕	(底部)	-	(2.75)	(12.40)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	902	37区	SD3719	碗	修理甕	杯身	9.50	3.50	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
339	903	37区	SD3724	修理甕	杯身	(15.30)	5.00	(6.00)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	904	37区	SE3701	盤	上端	杯	(12.20)	3.45	(4.20)	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	905	37区	SE3701	盤	上端	杯	13.30	3.80	10.40	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	906	37区	SE3701	盤	上端	杯	(17.20)	4.00	(12.40)	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	907	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	(15.00)	2.50	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	908	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	(23.20)	(4.00)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	909	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	23.40	(20.10)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	910	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	(17.60)	19.20	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	911	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	-	(6.50)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	912	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	-	(7.30)	-	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	913	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	9.80	3.70	8.10	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	914	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	(15.60)	3.50	12.30	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	915	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	(16.80)	2.95	(12.50)	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。
340	916	37区	SE3704	土器底	直筒	甕	(16.80)	2.90	(12.50)	-	直筒部はヨコナデ、底部外周はハケ。内面は把手を削り立てるが如き。底部外周には把手部分を施す。

回数	報告番号	出典機器	部位	解説	種別	器構	法量(cm)	基準	文様・調査技術の特徴	備考
340	917	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	(12.50) 4.20	(9.20)	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	此部分は斜面から骨部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	
340	918	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	(12.80) 3.90	9.30	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲ、見込み窓高(付いたい)から体部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	
340	919	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	(13.00) 4.10	9.20	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	
340	920	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	12.55 4.05	9.00	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	輪窓の外側に斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	
340	921	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	13.80 2.60	-	方に伸びて斜め上方に伸びて折り返すナゲ、体部は斜めナゲを施す。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	二
340	922	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	(19.60) 2.00	-	口輪部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	二
340	923	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	(19.40) 2.00	-	水斗部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	二
340	924	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	杯	(17.00) 2.30	-	水斗部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	二
340	925	37区 SE3701	上廻	須志筋	杯	18.10 6.30	13.30	筋高が平行ぐすりから、体部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	926	37区 SE3701	上廻	須志筋	杯	5.80 (7.60)	-	筋高が平行ぐすりから、体部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	927	37区 SE3701	上廻	須志筋	杯	4.80 (7.60)	-	筋高が平行ぐすりから、体部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	928	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	蓋	(7.10) 15.30	7.40	圓形の輪窓合せがち、体部は堅平な蝶形で、圓孔部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	929	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	蓋	-	(14.30) 11.90	圓形の輪窓合せがち、体部は堅平な蝶形で、圓孔部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	930	37区 SE3701	上廻	須志筋	蓋	(8.40) 6.70	-	圓形の輪窓合せがち、体部は堅平な蝶形で、圓孔部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	931	37区 SE3701	上廻	須志筋	蓋	9.80 (5.50)	-	圓形の輪窓合せがち、体部は堅平な蝶形で、圓孔部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
340	932	37区 SE3701	井戸廻内下廻火シルト	須志筋	蓋	-	(16.80) 11.40	圓形の輪窓合せがち、体部は堅平な蝶形で、圓孔部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	井戸廻部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	933	38区 FN06	上廻	須志筋	杯	(15.00) 2.30	-	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	934	38区 FN06	上廻	須志筋	杯	(14.80) 4.30	(9.40)	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	935	38区 FN06	上廻	須志筋	杯	(18.05) (8.40)	-	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	936	38区 FN06	上廻	須志筋	杯	(12.80) 4.10	(9.20)	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	937	38区 FN06	上廻	須志筋	杯	(37.30) (7.10)	-	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	938	38区 SK3806	上廻	須志筋	蓋	(31.20) (13.20)	-	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	939	38区 SK3801	上廻	須志筋	蓋	(20.90) (4.30)	-	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	940	38区 SK3801	上廻	須志筋	蓋	(15.65) 3.15	(6.60)	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	941	38区 SK3801	上廻	須志筋	蓋	(27.29) (7.45)	(9.55)	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	
341	942	38区 SK3809	上廻	須志筋	蓋	(27.30) (10.60)	-	天井部は斜め上方に伸びて折り返すナゲ。	天井部は斜めナゲで、口輪部は直板ナゲで、内面はアーチ形外面に墨付。	

国名	都道府県	出土場所	出土遺物	層位	種別	古墳	法長(cent)	法幅(cent)	法深(cent)	形態・式式特徴の状況	文様・調査方法の特徴	備考
341	943	38区	SK3059	先生土器	先	(22.00) (13.00)	-	大きな屈曲的な腹部、口輪部は反り、口輪部は直角である。体部は上に急なナード、体部外縁は下に緩やかなナードである。下盤部は上に急なナード、下盤部が腰高部のへりミガキを有する。内面には直角形状がある。体部に「手」型の痕跡があり、所々に磨痕がある。	口輪部は上に急なナード、体部外縁は下に緩やかなナードである。内面には直角形状がある。下盤部は上に急なナード、下盤部が腰高部のへりミガキを有する。内面には直角形状がある。体部に「手」型の痕跡があり、所々に磨痕がある。	口輪部は上に急なナード、体部外縁は下に緩やかなナードである。内面には直角形状がある。下盤部は上に急なナード、下盤部が腰高部のへりミガキを有する。内面には直角形状がある。体部に「手」型の痕跡があり、所々に磨痕がある。		
342	944	38区	SK3059	先生土器	先	(48.00) (14.00)	-	屈曲はややて、腹の張った体部は腹人が伸びにくくなる。	屈曲はややて、腹の張った体部は腹人が伸びにくくなる。	屈曲はややて、腹の張った体部は腹人が伸びにくくなる。	「手」型による洗練度、「脚」による洗練度、骨格アーチ、「門」形が付く。	
342	945	38区	SK3801	須弥輪	先	(22.00) (5.00)	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	「門」形による洗練度。	
342	946	38区	SK3802	須弥輪	後輪	(15.00) (9.00)	-	圓盤を背負つ形か、屈曲して殆どに伸びる。	圓盤を背負つ形か、屈曲して殆どに伸びる。	圓盤を背負つ形か、屈曲して殆どに伸びる。	「門」形による洗練度。	
342	947	38区	SK3804	須弥輪	前輪	(16.70) 3.85	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	「門」形による洗練度。	
342	948	38区	SK3801	須弥輪	中蓋	(36.40) (3.10)	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	「門」形による洗練度。	
342	949	38区	SK3801	須弥輪	蓋	(8.45) (10.00)	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	「門」形による洗練度。	
342	950	38区	SK3801	土師器	蓋	(16.00) (7.00) (14.00)	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	「門」形による洗練度。	
342	951	38区	SK3801	土師器	側	(4.38) (7.30)	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	圓盤は極く薄いし、「門」形は斜め上に伸びた。	「門」形による洗練度。	
343	952	38区	SK3804	先生土器	先	(21.70) (10.60)	-	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	「門」形による洗練度。	
343	953	38区	SK3804	先生土器	先	(29.50) (5.10)	-	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	「門」形による洗練度。	
343	954	38区	SK3804	先生土器	先	(30.00) (21.70)	-	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	「門」形による洗練度。	
243	955	38区	SK3804	先生土器	先	(29.30) (27.40)	-	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	「門」形による洗練度。	
244	956	38区	SK3804	先生土器	先	(43.40) (32.10)	-	圓盤は極く薄いし、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	圓盤は極く薄いし、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	圓盤は極く薄いし、「門」形は腰高部のへりミガキを有する。	「門」形による洗練度。	
344	957	38区	SD3804	先生土器	先	(25.80) (7.50)	-	輪郭の体部から輪郭して正面に腹部を作り、輪郭部は直角である。	輪郭の体部から輪郭して正面に腹部を作り、輪郭部は直角である。	輪郭の体部から輪郭して正面に腹部を作り、輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	
344	958	38区	SD3804	先生土器	先	(8.70) (22.40)	15.8	輪郭の体部から輪郭して正面に腹部を作り、輪郭部は直角である。	輪郭の体部から輪郭して正面に腹部を作り、輪郭部は直角である。	輪郭の体部から輪郭して正面に腹部を作り、輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	
344	959	38区	SD3804	先生土器	先	(15.20) (12.40)	-	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	
344	960	38区	SD3804	先生土器	先	(8.50) (14.35)	5.10	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	
344	961	38区	SD3804	先生土器	先	(6.00) (15.00)	-	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	輪郭部は直角である。	
345	962	38区	SD3804	先生土器	先	(26.80) (6.50)	-	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形が有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形が有する。	大きな屈曲的な腹部を作り、「門」形が有する。	「門」形による洗練度。	

底版	頭号	川土柄名	出上端脚	定位	體位	體向	足端	口唇	脣端	法量(cm)	形態、測定部位の特徴	備考
345	963	385区	SU3864	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	964	388区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	965	385区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	966	388区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	967	385区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	968	385区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	969	385区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	970	388区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	971	388区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
346	972	385区	SU3894	先生土器	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	973	10区	SU4091	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	974	10区	SU4091	先生土器	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	975	10区	SU4091	先生土器	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	976	10区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	977	10区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	978	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	979	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	980	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	981	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	982	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	983	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	上唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	
347	984	40区	SU4091	蜜桶	坐	前屈	脚屈	下唇	唇端	30, 30, 30, 30, 30, 30	形態、量測部位の特徴	

園區 番号	組合 出土地點	面積	層位	種別	標高	口径	底径	底盤(底板)	文書・調査方法の特徴	備考
347	585 4E区 SK4001	40.0	土壌層	須恵器	III	(15.50)	3.50	(11.80)	平坦な底盤から外傾する口縁部、蓋部丸い、縫隙部多く、ナデ、灰~灰白。	
347	586 4E区 SK4001	40.0	土壌層	土器	III	長8.55	幅2.00	厚1.65	前面内円形周囲、底盤が圓かに近くなる。手、ナデ、灰~灰白。	蓋さ31.4%
347	587 4E区 SK4001	40.0	土壌層	土器	III	長9.65	幅5.15	厚4.25	底盤小口切妻で、蓋は片側に引抜き削りし直邊と。ナデ、灰~灰白。	
347	588 4E区 SK4006	40.0	須恵器	須恵器	III	(18.20)	4.10	(13.80)	手、ナデ、灰~灰白。	自然剥むき。
347	589 4E区 SK4029	40.0	須恵器	須恵器	III	(15.80)	4.05	(11.80)	丸い縁部、縫合部に突出する。手、ナデ、灰~灰白。	
347	590 4E区 SK4016	40.0	須恵器	杯	II	14.0	2.25	3.15	(7.20) 不安定な底盤から内側に口縁部を削る。縫隙なし。ナデ、灰~灰白。	
347	591 4E区 SK4019	40.0	須恵器	杯	II	14.0	1.40	—	外傾する底盤で、蓋は丸くやや厚唇、カヌイ削り。ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	自然剥むき。
347	592 4E区 SK4021	40.0	土壌層	高杯	—	(6.00)	1.30	—	脇二角形を留め、縁部外傾する。ナデ、ロコナデ、灰~灰白。	
347	593 4E区 SK4014	40.0	須恵器	須恵器	III	—	(1.55)	(0.70)	底盤から外傾する部分と、而して方形容れ。ロクロナデ、ナデ、灰~灰白。	蓋は底の底盤。
348	594 4E区 SD4031	40.0	須恵器	杯	II	(13.40)	3.35	(10.60)	平底へ外側する。口縁部で底盤付近やや斜めし。ロクロナデ、灰~灰白。	蓋ねじの底盤。自然剥むき。
348	595 4E区 SD4032 東半	40.0	須恵器	高杯	—	(25.25)	7.45	—	内側の底盤から外側する口縁部、縫隙部を削る。ロコナデ、ナデ、灰~灰白。	
348	596 4E区 SD4032 東半	40.0	土壌層	要	—	(24.80)	6.20	—	内側する部分に外傾する口縁部、縫隙部を削る。ロコナデ、ナデ、灰~灰白。	
348	597 4E区 SD4032	40.0	土壌層	小丼	—	(14.00)	(11.45)	—	直立する底盤で、縫合部で底盤付近やや斜めし。ロクロナデ、ナデ、灰~灰白。	
348	598 4E区 SD4032	40.0	須恵器	杯	II	(16.20)	3.25	(4.50)	丁度小さく外傾する底盤。受部部は、底部へ突き出る。ナデ、灰~灰白。	
348	599 4E区 SD4032	40.0	須恵器	高杯	—	(6.60)	8.55	—	所詮底盤で内側へ外傾する。縫隙部を削る。ロクロナデ、ロコナデ、ナデ、灰~灰白。	
348	600 4E区 SD4015	40.0	土壌層	丸	III	(23.40)	(18.00)	—	内側する部分から外側に外傾する口縁部、縫隙部を削る。ロクロナデ、ロコナデ、ナデ、灰~灰白。	黒斑あり。
348	601 4E区 SD4015	40.0	土壌層	碗	III	(37.40)	(13.60)	—	内側する部分で、「縫合部から外傾する」縫隙部を削る。ロクロナデ、ロコナデ、ナデ、ヨコナデ。	
348	602 4E区 SD4015	40.0	土壌層	甕	—	(13.50)	(9.10)	—	内側する部分で、縫隙部を削る。ロクロナデ、ロコナデ、ナデ、灰~灰白。	
348	603 4E区 SD4015	40.0	土壌層	高杯	—	(6.00)	—	—	内側する部分で、縫隙部を削る。ナデ、灰~灰白。	
348	604 4E区 SD4015	40.0	土壌層	高杯	—	(7.40)	4.40	—	内側する部分で、縫隙部を削る。ナデ、灰~灰白。	
348	605 4E区 SD4015	40.0	須恵器	ミニミニア 鉢	II	(6.10)	4.40	—	手づくね、内側へ外傾する口縁部、縫隙部を削る。ナデ、灰~灰白。	黒斑あり。
348	606 4E区 SD4015	40.0	須恵器	杯	II	11.20	2.95	—	内側する天井部から外傾する縫隙部、底盤が圓かに外反する。ナデ、灰~灰白。	自然剥むき。
348	607 4E区 SD4015	40.0	須恵器	杯	II	(12.50)	3.00	—	内側へ外傾する口縁部で縫隙部を削る。ナデ、灰~灰白。	
348	608 4E区 SD4015	40.0	須恵器	杯	II	(9.20)	3.60	(5.80)	内側へ外傾する口縁部で縫隙部を削る。ナデ、灰~灰白。	自然剥むき。
348	609 4E区 SD4015	40.0	須恵器	杯	II	(16.80)	3.30	3.00	平底から外傾する口縁部、縫隙部を削る。ロクロナデ、灰~灰白。	
348	610 4E区 SD4015	40.0	須恵器	杯	II	(11.90)	(11.15)	—	内側する底盤から外傾する口縁部、縫隙部を削る。ナデ、灰~灰白。	
348	611 4E区 SD4015	40.0	須恵器	甕	—	(6.25)	3.05	—	圓字な底盤で、縫隙部を削る。底盤外に窓。ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰~灰白。	
349	612 4E区 SD4027	40.0	須恵器	杯	II	(14.20)	4.30	(10.80)	平底な底盤から外傾する口縁部、底盤外側にやや窓をもつ。ロクロナデ、ナデ、灰~灰白。	

医師 番号	部署 番号	所生地区	五十音	部位	部位	種別	器機	口径	法長(cm)	文部、衛生技術の特徴	備考
340 1013 40K	SD4032 上半	にふる医療施設	土井義	十指	指套	直	6.60	62.30	前輪に円孔があり、中央が幅広に小さな直角面凹	デ、床台へに長い直角。	直さない。
349 1014 40K	SD4047	土井義	土井義	手	指套	直	(12.60) (2.20)	一	天井部はくぐり切る「丁」字形、彫刻切り込み。エリヤー留め。	ロクロナデ、ロクロケズリ、デ。	ロクロナデ、ロクロケズリ。
349 1015 40K	SD4047	土井義	土井義	手	指套	直	(9.80) 3.20	6.40	丸丸から外側する「丁」字形。彫刻切り込み。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、デ。	ロクロナデ、ナデ、デ。
349 1016 40K	SD4047	土井義	土井義	手	指套	直	(11.20) 3.80	6.20	丸丸から外側する「丁」字形。彫刻切り込み。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、デ。	ロクロナデ、ナデ、デ。
349 1017 40K	SD4056	土井義	土井義	手	指套	直	(15.20)	-	手づくね、上方に伸びる直角。山型。	ナデ、添擦→男根。	自然動作。
349 1018 40K	SD4056	土井義	土井義	手	指套	直	(4.10)	9.80	大丸、外反する直角。彫刻切り、彫刻角溝。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	直な他の恋路。
349 1019 40K	SR4001	水木義理上面まで	水木義理	手	指套	直	(13.40) (2.35)	-	丸丸から外側する直角。彫刻切り込み。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。
349 1020 40K 東洋	SR4001	水木義理上面まで	水木義理	手	指套	直	(1.53)	0.50	円柱の丸みを直角でこまみ込み。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	外側に轟鳴あり。
349 1021 40K 東洋	SR4001	水木義理上面まで	水木義理	手	指套	直	(2.10)	-	円柱の丸みを直角でこまみ込み。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1022 40K 東洋	SR4001	水木義理上面まで	水木義理	手	指套	直	7.90	(2.10)	圓の丸みを直角で彫刻が彫りたった部分。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、ロクロケズリ、デ、床白。	直な他の恋路。
349 1023 40K 東洋	SR4001	水木義理上面まで	水木義理	手	指套	直	(1.40)	-	丸丸から外側する直角。彫刻切り込み部。付属。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	直な他の恋路。
349 1024 40K 中央	SR4001	水木義理中	水木義理	手	指套	直	(18.00) (0.80)	8.00	丸丸から外側する直角。彫刻下方に彫りする。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	直な他の恋路。
349 1025 40K 本田 5	SR4001	水木義理	水木義理	手	指套	直	(0.80)	0.80	平底。ヘリヤー留め。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	外側に轟鳴あり。
349 1026 40K 本川 9	SR4001	水木義理	水木義理	手	指套	直	(14.00) (2.15)	-	内側も丸天井部から外側部が直角にする。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1027 40K	SR4001	3層 黒シルト	土井義	十指	指套	杯	(15.75) 3.60	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1028 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	十指	指套	杯	(15.60) (5.60)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ミコナデ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1029 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	十指	指套	杯	-	(6.60)	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ミコナデ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1030 40K 中央	SR4001	3層 黑シルト	土井義	十指	指套	杯	(13.90) (9.10)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1031 40K	SR4001	2層 黒シルト	土井義	十指	指套	杯	(17.00) (8.40)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1032 40K	SR4001	2層 黒シルト	土井義	十指	指套	杯	(22.20) (17.20)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、ヨコナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1033 40K	SR4001	4層 黒シルト	土井義	十指	指套	杯	-	(14.20)	少付。ヒビ彫り。	ロクロナデ、ナデ、ヨコナデ、床白→尾。	自然動作。
349 1034 40K	SR4001	2層 黒シルト	土井義	十指	指套	杯	(33.00) (7.30)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、ヨコナデ、床白→尾。	自然動作。
350 1035 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	十指	指套	杯	(33.80) (10.70)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、ヨコナデ、床白→尾。	自然動作。
350 1036 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	十指	指套	杯	(21.80) (12.80)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、ヨコナデ、床白→尾。	自然動作。
350 1037 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	十指	指套	杯	(32.70) (11.6)	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、ヨコナデ、床白→尾。	自然動作。
350 1038 40K	SR4001	2層 黒シルト	土井義	十指	指套	杯	(22.70)	-	ト脚の長い斜面裏面で、各筋肉付する。ユード	ナデ、ヒゲ彫り、ナデ、床白→尾。	自然動作。
350 1039 40K	SR4001	1層 水山陽海	水山陽海	イダ	指套	杯	(4.80) 9.00	-	小さな直角から外側する部と口唇部で、滑	ナデ、ヨコナデ、オリーブ、ナデ、床白→尾。	内側強く振れ、外側
350 1040 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	七脚	指套	杯	(5.10) 5.10	-	内側も丸天井部から直角にする。	ロクロナデ、ナデ、床白→尾。	ガラス等付着。
350 1041 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	七脚	指套	杯	(6.80)	(5.40)	突出する直角で、体外部する。ヘリヤー留め。	ヨコナデ、ナデ、床白→尾。	無要あり。
350 1042 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	七脚	指套	杯	-	5.60	小さな直角裏面、直角。ヨビ窓。ヨビ窓、ヘリヤー留め。	ナデ、ヒゲ彫り、ナデ、床白→尾。	無要あり。
350 1043 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	七脚	指套	杯	(7.90)	5.70	平底。	内側ヒゲ彫り、外側は直角。	ナデ、床白→尾。
350 1044 40K	SR4001	3層 黑シルト	土井義	七脚	指套	杯	(6.95)	11.00	外側に縫隙がない。棘り日、ヨビ窓形。	ナデ、床白→尾。	無要あり。

園区 番号	番号 名	出土場所	部位	種別	筋量	口径	筋数	筋幅(cm)		筋幅、或は筋底の特徴		文様、調査結果の特徴
								筋高	筋底	口厚	筋高	
350	1045.4区 SR4001	3層灰シルト	土壠壁	高杯	-	(7.25)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、灰白。	ロクロナヂ、灰白。	自然断面。	
350	1046.4区 SR4001	4層 5層土壠	休息器	杯	(1.10)	3.40	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、灰白。	ロクロナヂ、灰白。	自然断面。	
350	1047.4区 SR4001	2層灰シルト	頭蓋器	杯	(1.10)	3.70	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、灰白。	ロクロナヂ、灰白。	自然断面。	
350	1048.4区 SR4001	2層灰シルト	頭蓋器	杯	-	4.40	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、灰白。	ロクロナヂ、灰白。	自然断面。	
350	1049.4区 SR4001	2、3層	休息器	杯	(12.30)	3.60	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白。	自然断面。	
350	1050.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	杯	(11.35)	4.30	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
350	1051.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	杯	(12.10)	3.10	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
350	1052.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	杯	(6.90)	3.40	(6.70)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
350	1053.4区 SR4001	3層灰シルト	原座器	杯	(11.30)	3.80	(6.20)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白。	自然断面。	
350	1054.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	杯	(8.00)	3.90	(5.60)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白～帶灰。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白～帶灰。	自然断面。	
350	1055.4区 SR4001	3層灰シルト	氣管器	變	(7.30)	-	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白～帶灰。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白～帶灰。	自然断面。	
351	1056.4区 SR4001	3層灰シルト	氣管器	台付鉢	-	(6.75)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白～帶灰。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白～帶灰。	自然断面。	
351	1057.4区 SR4001	4層灰シルト	休息器	台付鉢	-	(6.60)	13.75	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、ナヂ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、ナヂ、灰白～灰。	自然断面。	
351	1058.4区 SR4001 西側	1層土壠上層砂透灰	休息器	鍋	-	(8.30)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
351	1059.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	鍋	(6.65)	11.60	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
351	1060.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	鍋	-	10.60	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
351	1061.4区 SR4001 西端	2層灰シルト	休息器	長颈瓶	-	(7.70)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	ロクロナヂ、ロクロタグリ、灰白～灰。	自然断面。	
351	1062.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	長颈瓶	(7.50)	-	(6.65)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白。	ロクロナヂ、ナヂ、灰白。	自然断面。	
351	1063.4区 SR4001	3層灰シルト	休息器	變	(5.40)	-	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	ナヂ。	ナヂ。	自然断面。	
352	1064.4区 SR4002	1065.4区 SR4002	休息器	鍋	(11.90)	13.10	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。	
352	1065.4区 SR4002	休息器	鍋	(14.80)	5.20	(6.95)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。	
352	1066.4区 SR4002	休息器	鍋	(25.40)	4.40	-	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。	
352	1067.4区 SR4001 P003	休息器	鍋	(16.60)	6.35	(6.35)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1068.4区 SR4001	休息器	鍋	(13.70)	7.50	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1069.4区 SR4006	休息器	燒	(16.40)	15.15	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1070.4区 SR4006	休息器	燒	(15.50)	6.50	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1071.4区 SR4006	休息器	燒	(6.50)	4.70	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1072.4区 SR4006	休息器	燒	(5.70)	4.55	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1073.4区 SR4006	休息器	燒	(12.30)	3.75	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1074.4区 P021	休息器	燒	(20.30)	(11.15)	(12.15)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
352	1075.4区 SR4002 P001	休息器	燒	(14.30)	(12.10)	(6.60)	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
353	1076.4区 SR5001	鍋文器	圓鉢	(27.60)	(6.60)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
353	1077.4区 SR5001	鍋文器	燒	(5.85)	5.25	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
353	1078.4区 SR5001	鍋文器	燒	(7.45)	(10.10)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		
353	1079.4区 SR5001	鍋文器	圓鉢	(12.30)	(10.60)	-	中空の腰壁で外壁する。底部は水平。取り口、ツギ、ミガキ、骨部に黒ヶ、浅黄帯～灰白。	鍋形ナヂ。	鍋形ナヂ。	自然断面。		

器種	種類	出土場所	出土断面	層位	種類	特徴	法縫(cm)	口径	器高	文部・調査技術の特徴		備考
										内縫	外縫	
圓盤 輪形 蓋	蓋	出土場所	出土断面	層位	種類	特徴	(26.70)	(8.20)	11.60	平底から外周に海継近く外反する。底部は凹、内面は小尖端の仕上げナダ。板口一定。	ロクロナダ、内面は凹	
353 1080 S3区	P1001			東北房	鉢		(25.70)	(4.00)	11.60	平底から外周に海継近く外反する。底部は凹、内面はナダで仕上げする。底部には縫、外縫は	ロクロナダ、内面は凹	
353 1081 S3区	P1003			上部器	要		(17.70)	(4.80)	-	く、内面は直角的、斜面や腹面等で仕上げする。内側はまっすぐ、内面は直角的。	ロクロナダ、内面は凹	
353 1082 S3区	P1004			上部器	要		(19.40)	(3.70)	-	く、内面は直角的、斜面や腹面等で仕上げする。内側はまっすぐ、内面は直角的。	ロクロナダ、内面は凹	
353 1083 S3区	SX5302			土瓶	要		(21.70)	(3.30)	-	外縫もく、内縫もく、腹面	ロクロナダ、内面は凹	
353 1084 S3区	SX5302			土瓶	要		(17.70)	(6.60)	-	外縫もく、内縫もく、腹面	ロクロナダ、内面は凹	
353 1085 S3区	SX5302			土瓶	要		(25.30)	(4.15)	-	外縫もく、内縫もく、腹面	ロクロナダ、内面は凹	
353 1086 S3区	SX5305			土瓶	要		(17.70)	(4.15)	-	外縫もく、内縫もく、腹面	ロクロナダ、内面は凹	
263 1087 S3区	SX5305			土瓶	要		(3.50)	-	-	外縫もく、内縫もく、腹面	ロクロナダ、内面は凹	
353 1088 S3区	SX5310			土瓶	要		(25.70)	(12.40)	-	内側する体部から外反する口縫部。	ロクロケビ、にふい窓	
354 1089 S3区	SX5328			須恵器	杯		14.45	5.15	-	内側する天井から体部、口縫部が異なる。	ロクロケビ、ロクロナダ、区	
354 1090 S3区	SX5328			須恵器	杯		15.00	5.10	-	内側する天井から体部、口縫部が異なる。	ロクロケビ、ロクロナダ、区	
354 1091 S3区	SX5328			須恵器	杯		12.30	5.25	-	内側する体部から外反する上上がり、含み小	ロクロケビ、ロクロナダ、区	
354 1092 S3区	SX5328			須恵器	杯		13.20	4.95	-	内側する体部受取部は直し平手に、立ち上がり	ロクロケビ、ロクロナダ、区	
354 1093 S3区	SX5328			須恵器	定形器		8.60	6.60	-	扁平な蝶形の底部で口縫部は内側する。砂金合	ロクロケビ、ロクロナダ、区	
354 1094 S3区	SX5328			須恵器	盃		10.45	15.30	-	逆の底部から外反する口縫部で、底部配置厚	ロクロケビ、ロクロナダ、区	
354 1095 S3区	SX5301			生土器	灰口壺		(19.40)	(5.75)	-	内側する口縫部で海継三内角に肥厚、砂金合	ハケ壁厚、地面前板模様み見、頭部付突部に直江底。	
354 1096 S3区	SX5301			生土器	灰口壺		(13.70)	(6.40)	-	外反し、腹部膨らみ頭部直江底に肥厚。	ハケ壁厚、地面前板模様み見、頭部付突部に直江底。	
354 1097 S3区	SX5301			生土器	要		(12.40)	(3.30)	-	内側する体部受取部は口縫部、端部角	ハケ壁厚、地面前板模様み見、頭部付突部に直江底。	
354 1098 S3区	SX5301			生土器	要		(2.35)	-	-	逆の底部から外反する。砂金合多く含む。	物置底、外縫直、にふい窓、内面直背直。	
354 1099 S3区	SX5301			生土器	要		(3.15)	-	-	逆の底部から外反する。砂金合多く含む。	物置底、外縫直、にふい窓、内面直背直。	
354 1100 S3区	SX5301			生土器	要		(3.95)	-	-	逆の底部から外反する。砂金合多く含む。	物置底、外縫直、にふい窓、内面直背直。	
354 1101 S3区	SX5301			生土器	要		(3.80)	-	-	逆の底部から外反する。砂金合多く含む。	物置底、外縫直、にふい窓、内面直背直。	
354 1102 S3区	SX5301			生土器	要		(4.25)	-	-	逆の底部から外反する。砂金合多く含む。	物置底、外縫直、にふい窓、内面直背直。	
354 1103 S3区	SX5301			生土器	要		(6.70)	-	-	逆の底部から外反する。砂金合多く含む。	物置底、外縫直、にふい窓、内面直背直。	
354 1104 S3区	SX5301			生土器	要		(7.05)	-	-	逆の底部から直立のみに外反し、チャート多く含む。	表面直背直、外縫直、内面直背直。	
354 1105 S3区	SX5301			生土器	要		(22.00)	(7.30)	-	逆の底部から直立のみに外反し、砂金合多く含む。	ロクロナダ、外縫直、内面直背直。	
354 1106 S3区	SX5301			生土器	要		(23.80)	(6.60)	-	外反し、腹部膨らみ頭部直江底に肥厚。	ロクロナダ、にふい窓。	
354 1107 S3区	SX5301			生土器	要		(21.10)	(9.10)	-	内側する体部から直立のみ、砂金合多く含む。	ロクロナダ、カサメ、底辺にふい窓。	
354 1108 S3区	SX5301			生土器	要		(31.00)	(10.85)	-	内側する直立のみに外反し、砂金合多く含む。	ロクロナダ、ナダ。	
354 1109 S3区	SX5301			生土器	要		(28.50)	(5.15)	-	内側する直立のみに外反し、砂金合多く含む。	ロクロナダ、外縫直、内面直背直。	
354 1110 S3区	SX5301			生土器	冠高竈		(6.70)	8.70	-	扁平な蝶形の体部で直立する。砂金合多く含む。	ロクロケビ、ロクロナダ、底辺にふい窓。	
354 1111 S3区	SX5301			生土器	下巻		(8.80)	(2.50)	7.65	ユリモ影後ナダ。	円柱孔周囲ナダ、底辺にふい窓。	
355 1112 S3区	SX5301	赤土		生土器	要		(21.85)	(12.50)	8.65	半球から内窓とする体部。	ケ麿からナダ、マダ。	底辺にふい窓。

国名	県名	市町	土地区	標高	部位	種別	器皿	口徑	深度(cm)	測量・撮影方法・分類	文書・調査法の特徴	備考
福島	磐亭	磐亭	下原(赤土坑)	355	SX5302 耳牛	弥生土器	平底	(16.50)	23.95	手掘り、内側に湯舟があり器底は粗く外縁。ハラ型からミガキ、口縁部ヨコナデ、にない。質感。		
	1113	5305	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	弥生土器	平底	(3.30)	6.50	手掘りから丸い内側。腹身多く含む。ナメ仕上げ。透視図。	黒斑あり。	
	1114	5306	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	12.35	4.10	ロクロナデ、内側仕上げナデ、Kc。		
	1115	5307	SX5302 肩牛	265	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	5.50	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1116	5308	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(15.50)	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1117	5308	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(25.50)	(10.80)	内側する体から腹へ外傾し、腹身多く含む。ナメ仕上げ。透視図。		
	1118	5308	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(15.50)	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1119	5308	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(16.30)	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1120	5308	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(14.80)	-	ハラ型となるコリニア型。円孔入り。内側は平底で、外側は斜面。ナメ仕上げ。透視図。		
	1121	5308	SX5302 肩牛	355	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(10.80)	-	ハラ型となるコリニア型。円孔入り。内側は平底で、外側は斜面。ナメ仕上げ。透視図。		
	1122	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(15.30)	-	ハラ型となるコリニア型。円孔入り。内側は平底で、外側は斜面。透視図。		
	1123	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(17.65)	-	ハラ型となるコリニア型。円孔入り。内側は平底で、外側は斜面。透視図。		
	1124	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(5.20)	(33.30)	円孔2。ナメ仕上げ。透視図。		
	1125	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(11.30)	-	ハラ型となるコリニア型。円孔入り。透視図。		
	1126	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(25.40)	(9.60)	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1127	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(5.70)	(6.80)	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1128	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(7.40)	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1129	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	土器類	平底	(5.85)	-	内側丸目。ハラ型からミガキ、透視図。		
	1130	5308	SX5302 肩牛	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	-	(5.20)	円孔2。ナメ仕上げ。透視図。		
	1126	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(11.30)	-	ハラ型となるコリニア型。円孔入り。透視図。		
	1127	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(5.70)	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1128	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	彌生土器	平底	(6.85)	-	ハラ型からミガキ、透視図。		
	1129	5308	SX5302 肩牛	356	SX5302 肩牛	土器類	平底	(5.85)	-	内側丸目。ハラ型からミガキ、透視図。		
	1130	5308	SX5302 肩牛	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	(16.60)	30.50	平底から丸い腹へ斜面。腹部外縁に「口縁部」がある。透視図。		
	1131	5308	SX5302 肩牛	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	14.00	27.60	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1132	5308	SX5302 肩牛	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	10.90	32.15	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1133	5308	SX5304 陶器	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	(18.00)	(15.90)	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1134	5308	SX5304 陶器	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	-	(6.35)	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1135	5308	SX5304 陶器	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	-	(6.70)	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1136	5308	SX5304 陶器	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	-	(17.50)	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1137	5308	SX5304 陶器	357	SX5304 陶器	弘土器	形象	-	(6.55)	平底から丸い腹へ斜面。透視図。		
	1138	5308	SX5304 陶器	358	SX5305 油桶	油桶	石見型	-	(18.80)	手掘り。ナメ仕上げ。透視図。		
	1139	5308	SX5304 陶器	358	SX5305 油桶	油桶	石見型	-	(21.20)	手掘り。透視図。		
	1140	5308	SX5304 陶器	358	SX5305 油桶	油桶	石見型	-	(16.95)	手掘り。透視図。		
	1141	5308	SX5304 陶器	358	SX5305 油桶	油桶	石見型	-	(29.45)	手掘り。透視図。		

園数	園名	園主地区	生土濃度	園位	樹種	樹形	株径 cm	高さ m	特徴	文様・調査方法の特徴
358	番号	番号	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(15.70)	茎に出版する。底へ向かう。葉が多く含む。	地ナガナダ、葉～灰白。
359	1142	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(15.60)	外側に不定形の底ナダ、「U」凹あり。	強ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1143	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(9.30)	(22.00) 外側に葉部を含む。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1144	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(23.40)	外側しており、表面少し剥き面になる。砂粒含む。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1145	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(17.00)	外側しており、表面少し剥き面になる。低い羽状葉。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1146	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(18.15)	外側しており、表面少し剥き面になる。低い羽状葉。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1147	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(8.40)	内側に「U」凹定形、チャートなどの複合化O。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1148	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(18.10)	葉を伸ばすのが弱い。葉、葉脈、網状葉を含む。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1149	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(14.80)	葉を伸ばすのが弱い。M字のチャート。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1150	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(17.25)	葉を伸ばすのが弱い。M字のチャート。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
359	1151	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒	—	(23.25)	葉を伸ばすのが弱い。M字のチャート。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
360	1152	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	質(7.90)	幅(4.90)	中空で葉が細くなくない。葉脈、網状葉を含む。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
360	1153	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(9.65)	幅(2.15)	葉(19.45) 斜面内形で3つに分かれ、先を尖す。	ユビヒジ筋、ナダ、灰葉～灰白。
360	1154	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(7.75)	幅(4.60)	葉(0.90) 中の穴に折り重ね、先は曲がって広がる。先を尖す。	内曲りH、葉裏ヘタ切り、灰。
360	1155	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(5.95)	幅(17.10)	葉(2.45) 網状葉、葉脈、葉裏葉文が多いため、葉裏葉文が含む。	内曲りH、葉裏ヘタ切り、灰葉～灰白。
360	1156	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(27.35)	幅(8.95)	葉(7.45) 色に内側から白くなる。チャートを含む。	地ナダナデ、灰葉～灰白。
360	1157	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(11.55)	幅(8.00)	葉(19.25) 色に内側から白くなる。葉脈、葉裏葉文が含む。	タタキ、ナダ、灰葉～灰白。
360	1158	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	—	(22.00)	葉は半円で葉裏が突出する。全体外反する。	タタキ後ナダ、灰。
360	1159	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	—	(3.80)	円形で中空。葉脉多く含む。	タタキ、ナダ、灰葉～灰白。
360	1160	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(6.00)	幅(1.90)	葉(5.55) 意識的で、葉脉多く含む。	ハケ玉形、ナダ、灰。
360	1161	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(5.80)	幅(0.90)	葉(1.95) 合成。	地ナダナデ、白筋形。
360	1162	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	円筒(人形)	長(12.30)	幅(24.00)	葉(1.55) 丸に膨らむ。	丸に膨らむ。
361	1163	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	石見型	—	(8.30)	地輪に2つの葉軸、平里、小丸2。ヘテラ族。	ナダ、葉面はヘタ切り、灰葉～灰白。
361	1164	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	石見型	—	(16.20)	平里、小丸1。ヘテラ族、チャートなどを含む。	ナダ、葉面はヘタ切り、灰葉～灰白。
361	1165	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	石見型	—	(19.20)	平里、小丸1。ヘテラ族。	ナダ、葉面はヘタ切り、灰葉～灰白。
362	1166	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	石見型	—	(16.50)	葉が反る葉脈、チャートなどを含む。	葉面はヘタを出すが水綿。
363	1167	5区	SX5305 葉体木面	地輪	楕輪	石見型	—	(17.30)	葉の突起2。丸孔3。葉裏は円筒の後端部。	ナダ、剪出形、灰葉。
363	1168	5区	SX5305 葉体木面	地輪	石見型	石見型	—	(25.9)	円筒部は平面形で直角底。椭形部は半球形、小丸1。ナダ、葉面は丸頭形。	2.ヘラ型、灰葉。

高級 種子 番号	圃場 番号	出上場種	等化	種別	寄種	口徑	各所 在地	油量(cm ³)	毛管・直形枝の特徴	文性・側枝法の特徴	備考	
363	1169 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	毛管	(15.10)	-	平丸、円丸、ヘラによる尖角、細節少。	葉はビックリ葉ナデ、表面はナデで平滑に仕上げる。明 合葉にぶら垂れ。			
363	1170 53区	SX5305 伝原	黒シルト	毛管	毛管	(23.40)	-	円筒形分布が鋸歯状で、内側になり込み。 外側に細かい凹みで溝がある。ナデ、明条葉、灰幹葉。	葉はナデ、ナダ、優先。			
364	1171 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	毛管	(25.20)	(22.30)	圓錐少量。	根ナデ・ナダ、優先。			
364	1172 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(17.50)	-	円筒形、根少量。	ビックリ葉、根ナデ、ナダ、灰管・灰白。			
364	1173 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(5.00)	-	外側に細かいV字、斜面、開き多含む。	ビックリ葉、根ナデ・ナダ、灰管。			
364	1174 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(11.00)	(11.00)	圓錐少量。	ユビ葉、根ナデ・灰管。			
364	1175 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(12.40)	(11.00)	圓錐少量。	側面ケアリ・ハケ巻筋、ナデ、灰管葉・灰葉。			
364	1176 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(11.40)	(11.80)	圓錐少量。	ビックリ葉、根ナデ・灰管。			
364	1177 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(16.80)	-	半円形で直角的、灰管葉に突出する。直角多量。	ビックリ葉、ナダ、灰管・灰葉。			
364	1178 53区	SX5305 伝原	毛管	毛管	円筒	(17.00)	(18.80)	圓錐少量。	ハケ巻筋、ナダ、灰管・灰葉。			
365	1179 53区	SRS501	発芽	発芽	発芽	-	(1.85)	-	側面ケアリ・ハケ巻筋。	ロクロケアリ・ロクロナデ、灰。		
365	1180 53区	SRS502	土管管	土管	土管	(35.20)	(35.40)	(45.70)	外側する部分で側面が厚膜してある。根手短。	ロクロケアリ・ロクロナデ、優・灰葉。		
366	1181 53区	SRS501	共生土管	発芽	発芽	(17.80)	(4.70)	-	側面から外側する口輪部で、海部葉。	ロクロケアリ・灰葉。		
366	1182 53区	SRS501	黒粉	共生土管	発芽	(23.05)	25	5.10	土丸から薄く残す形態で、口輪部外側する。根 茎。	ビックリ葉、ナデ、外側ヘリミダキ、灰葉・灰葉にぶら垂 れ。		
366	1183 53区	SRS501	黒粉	共生土管	発芽	(11.10)	(16.45)	-	圓錐形の底部から外側する口輪部で、海部葉。	ハケ巻筋からナデ・ミサキ、口輪部ヨコナデ、休葉に判美 葉。		
366	1184 53区	SRS501	黒粉	共生土管	発芽	(9.95)	(5.40)	-	半円形から残す形態で、裏面含む。	ハケ巻筋からナデ・ヘリミダキ、休葉。		
366	1185 53区	SRS501	無管	無管	無管	(12.40)	3.95	-	外側する部分で、側面が厚膜してある。	ロクロナデ、灰。		
366	1186 53区	SRS501	無管	無管	無管	(2.90)	(1.90)	-	圓錐形の頂部から外側する形態、休葉含む。	ロクロナデ・灰、ビックリ葉、ロクロケアリ、灰。		
366	1187 53区	SRS501	無管	無管	無管	-	(1.95)	(1.95)	側面から外側する口輪部で、海部葉。	ロクロケアリ・ロクロナデ、内側ヨコナデ、休葉。		
366	1188 53区	SRS501	無管	無管	無管	(16.00)	(11.10)	-	内側から外側する口輪部で、海部葉。	内側ヨコナデ・ミサキ、ロクロナデ、灰。		
367	1189 53区	水田上・前	瓦砂	十輪管	伴	(26.20)	18.05	5.60	平底から尖形の休葉、幅く外側する口輪部、根 茎多く含む。	ビックリ葉からナデ・ナダ、ロクロケアリ・灰。		
367	1190 53区	水田上・前	黒シルト	七輪管	泥棒	-	(9.50)	(11.45)	外側する部分から外側する形態、休葉含む。	内輪松日・エビ葉、泥棒からナデ、灰白にぶら垂 れ。		
367	1191 53区	水田上・前	黒シルト	土管管	苔管	-	(6.80)	(5.55)	外側する部分から内側する形態。	ビックリ葉からナデ・ヨコナデ、休葉。		
367	1192 53区	水田上・前	黒シルト	土管管	泥棒	-	(5.05)	-	直線的に交叉する形態で、チートなどの歩動筋。	ビックリ葉からナデ・内側ヨコナデ、休葉。		
367	1193 53区	水田上・前	黒シルト	土管管	泥棒	(10.40)	4.05	-	直線的な口輪から裏面に内側する口輪部。後 走行。	ロクロナデ・ロクロケアリ、門闇、灰・灰白。		
367	1194 53区	水田上・前	黒シルト	角管	角管	10.90	5.10	-	直線的な口輪から内側する。	ロクロナデ・ロクロケアリ、内側上ナデ・灰、灰白。		
367	1195 53区	水田上・前	黒シルト	角管	角管	(11.80)	3.70	-	半円形の底部から内側する口輪部で、斜筋合 成。	ロクロナデ・ロクロズリ、内側上ナデ・灰、灰白。		
367	1196 53区	水田上・前	黒シルト	角管	角管	(11.60)	4.30	-	内側する天井部から外側する口輪部で、直筋少量。	ロクロナデ・ヘリ切羽、灰白。		
367	1197 53区	水田上・前	黒シルト	角管	角管	(11.20)	4.90	-	大井品形で、休葉の少し前面外付す。	ロクロナデ・ヘリ切羽、灰白。		
367	1198 53区	水田上・前	黒シルト	角管	角管	(11.85)	3.70	-	内側し端が大きい。	ロクロナデ・内側上ナデ・灰。		

開拓 番号	種類 番号	出水地図	出水標識	標高 m	標高 m	標高 m	標高 m	法面 (cm)	表面 状態	備考	
魚類・昆蟲類はの特徴 魚類・調査技術の特徴											
267	1199	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(10.90)	3.00	一 内側を土器から剥がす。外側を土器から剥がす。	ロクロテナ、ロクタケツ、内面仕上げナゲヂ、 <i>Hec.</i>	
267	1200	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	10.05	4.05	一 内側を土器から剥がす。外側を土器から剥がす。	ロクロテナ、ロクタケツ、内面仕上げナゲヂ、 <i>Hec.</i>	
267	1201	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(11.00)	3.75	丸井形で内側を土器で外側を土器で剥がす。立ち上 がり部で土器部のみを剥がす。	ロクロテナ、ロクタケツ、内面仕上げナゲヂ、 <i>Hec.</i>	
267	1202	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(8.70)	3.50	内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、無底部切り妻ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	
267	1203	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	10.70	3.80	7.40 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、無底部切り妻ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	
267	1204	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(12.63)	(5.50)	内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、無底部切り妻ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	
267	1205	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	12.55	4.75	内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1206	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(11.20)	3.60	内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1207	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(11.00)	2.70	6.15 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1208	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯形	(11.20)	(3.20)	7.90 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1209	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	10.00	5.35	7.80 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1210	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	(10.30)	6.45	一 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1211	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	12.35	7.10	8.95 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1212	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	—	(15.80)	9.80 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1213	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	15.50	8.30	10.10 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1214	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	(13.55)	11.85	10.30 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1215	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	(13.30)	11.05	10.95 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1216	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	碗	(11.90)	(3.40)	— 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1217	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	合掌形	—	(9.35)	(10.00) 外灰の薄手の部分で剥がす。内部内削り、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1218	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	合掌形	—	(7.35)	— 骨部工の底部から内削れする口縁部。	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1219	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	蓋	(23.80)	(8.85)	— 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
267	1220	5区	水田上面	黒シルト	須恵器	蓋	(14.80)	(12.35)	— 内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。	
268	1221	5区	F	匂合層	黒シルト	須恵器	直口	(10.10)	(12.90)	球状の底部から内削れする口縁部で、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1222	5区	F	匂合層	黒シルト	須恵器	直口	10.00	(9.65)	内側を土器で剥がす。立上ナゲヂ、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1223	5区	F	匂合層	黒シルト	須恵器	直口	7.25	22.10	球状の底部から内削れする口縁部で、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1224	5区	F	匂合層	黒シルト	土製品	長方	(6.90)	12.75 直口	球状の底部から内削れする口縁部で、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1225	5区	F	匂合層	大根跡	土製品	馬蹄	—	(10.45)	— 直口	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1226	5区	F	匂合層	土製品	イガコ	直口	(6.30)	10.95 直口	球状の底部から内削れする口縁部で、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1227	5区	F	匂合層	土製品	生糞土器	直口	(11.80)	(5.20) 直口	球状の底部から内削れする口縁部で、 <i>Hec.</i>	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1228	5区	F	匂合層	生糞土器	直口	(8.20)	14.20	2.70 直口	球状の底部から内削れする口縁部。	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。
268	1229	5区	F	匂合層	生糞土器	直口	(8.20)	14.20	2.70 直口	球状の底部から内削れする口縁部。	ロクロテナ、底付食合ナ ギ、丸井形。

図版 番号	標名	香川県 高松市地区	所生地	種別	花期	株高(cm)	口径	基盤	形態・変形特徴・外観		文様・調査特徴の特徴	備考
									外生土壠	内生土壠		
368	1230	565区	SI5601	外生土壠	15.5	(13.8)	(6.8)	-	強く立ち上がり外向に傾斜。	内面ヨコナゲ、内面ハバク。	外端ヨコナゲ、内面ハバク。	
368	1231	565K	SI5601	外生土壠	14.30	(11.45)	(11.30)	-	内側が少しの程度から傾く口部底。	内端ヨコナゲ、ハナゲ。	外端ヨコナゲ、内面ハバク。	
368	1232	565区	SI5601	外生土壠	17.75	1.70	11.75	-	腰高なほど生長する茎部。	外端ヨコナゲ、ミガキ、ハナゲ。	外端ヨコナゲ、内面ハバク。	
368	1233	565区	SI5601	外生土壠	15.40	4.30	7.15	-	内側から生長する茎部。	外端ヨコナゲ、ミガキ、ハナゲ。	外端ヨコナゲ、内面ハバク。	
368	1234	565K	SI5601	外生土壠	15.15	(3.8)	(3.8)	-	半球から外側へ傾斜する全体。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
368	1235	565K	SI5601	外生土壠	9.00	4.25	(3.8)	-	外側する土壁は外向に傾斜基に年月2段	外端ヨコナゲ。	外端ヨコナゲ。	
368	1236	565区	SI5601	外生土壠	16.30	17.30	(19.40)	-	内側から外側へ傾斜する全体。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
369	1237	565K	SI5602	十脚器	度	(17.30)	(14.70)	-	口部部はぐくで端部より体側に傾く口部底。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
369	1238	565K	SI5602	端土壠	3.80	(4.2)	(6.0)	-	外側する土壁は外向に傾斜基に年月2段	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
370	1239	565K	SI5601	端土壠	12.40	(26.40)	(26.40)	-	口部部が外側にして立ち上がる。端部をよく見ると口部底。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
370	1240	565区	SI5604	端土壠	13.85	(33.5)	(41.95)	(5.85)	内側する全体から腰から外向に傾斜するように	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1241	571区	SI5701	老輪	円筒	(20.80)	(4.80)	-	外側する全体から腰から内側に傾く口部底。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1242	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(13.90)	-	内側が外側にして立ち上がる。端部をよく見ると口部底。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1243	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(22.85)	(12.00)	内側する全体から腰から外向に傾く口部底。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1244	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(10.60)	-	腰からぐくで端部が傾いて、腰部を振り外側に傾く。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1245	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(10.60)	-	外側した腰部の口部が付く。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1246	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(19.15)	(14.30)	内側が外側にして立ち上がる。腰部は内側だけが張る。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1247	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(25.30)	(7.80)	内側が外側にして立ち上がる。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1248	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(24.80)	(5.70)	外反する口部底から内側のみに張り出る。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1249	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(27.40)	(3.90)	内側する全体が外側に張り出る。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1250	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(11.10)	-	外反し低い腰の突起。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
371	1251	571区	SI5701	老輪	円筒	-	(27.60)	(17.45)	外反し腰部を引る。低い腰の突起。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
372	1252	55区 下	包含層	端土壠	17.95	(47.70)	(8.25)	-	外反する口部底から内側のみに張り出る。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
372	1253	55区 下	下部土壠	上動土壠	15.90	(30.70)	(5.90)	-	内側する全体から内側のみに張り出る。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
372	1254	55区 下	下部土壠	端土壠	16.80	(26.50)	(6.80)	-	外反し腰部底で内側杯に腰をもつし、腰部が尖る。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
372	1255	1区	包含層	土劉鈎	16.50	(25.70)	(6.50)	-	立位部が内側に立ち上がり腰部から外側は外反し	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。	
372	1256	1区	包含層	出	-	(3.80)	-	立位部を上方に腰を立てる。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。		
372	1257	1区	包含層	鉢	-	(4.70)	-	外反する口部底で、口部をわざかに記厚させ	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。		
372	1258	1区	包含層	端土壠	-	(3.90)	-	外反する口部底である。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。		
372	1259	1区	包含層	鉢	-	(3.90)	-	外反する口部底である。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。		
372	1260	1区	包含層	鉢	-	(2.80)	-	全体部である。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。		
372	1261	1区	包含層	鉢	-	(2.80)	-	全体部である。	内面ヨコナゲ。	内面ヨコナゲ。		

監査 番号	監査 番号	出土区	川十遺跡	層位	種別	音響	口径	直径(cm)	高さ	文様・調査技術の特徴		備考
										基準	実測法の特徴	
372	372	37区	SDW719	基層	基土器	芯土器	芯土器	(25.00) (2.35)	-	大きめく壺に口部を削いで、削いで下に作られた。口部外側に凹形切欠きがある。表面は上から磨かれて工具による痛みをもつた。	表面外側に凹形切欠きがある。表面は上から磨かれて工具による痛みをもつた。	周囲には凹形切欠きがある。表面は上から磨かれて工具による痛みをもつた。
372	372	125区	西手	基層	基層表面出下	基土器	芯土器	(24.00) (1.90)	-	外側に削り落とすと内側が反して、へんこく削り落とす。	外側に削り落とすと内側が反して、へんこく削り落とす。	周囲には凹形切欠きがある。表面は上から磨かれて工具による痛みをもつた。
372	372	126区	西手	基層	褐色灰黑色粘板岩	芯土器	芯土器	(23.60) (3.70)	-	削り落とすと下に露出する。	削り落とすと下に露出する。	周囲には凹形切欠きがある。表面は上から磨かれて工具による痛みをもつた。
372	372	126区	西手	下	灰砂	芯土器	芯土器	(25.45) (15.30)	-	内側の表面から外側する逆バチ子型「T」断面	内側の表面から外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「T」断面コナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	126区	西手	下	灰砂	灰土器	灰土器	(18.50) (8.70)	18.70	腰から内側へ外側する逆バチ子型「T」断面	腰から内側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「T」断面コナヂ、灰砂。
372	372	126区	西手	下	灰砂	灰土器	灰土器	(12.00) (4.50)	-	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「T」断面コナヂ、灰砂。
372	372	126区	西手	下	灰砂	灰土器	灰土器	(3.25)	5.20	「T」断面から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	「T」断面から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、灰砂。
372	372	126区	西手	下	灰砂	灰土器	灰土器	(5.30)	5.60	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	126区	西手	下	灰砂	灰土器	灰土器	(7.40)	6.25	外側から内側へ外側する逆バチ子型「T」断面	外側から内側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	127区	下	黑シート	黑シート	灰土器	灰土器	(5.20)	-	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	127区	下	黑シート	黑シート	灰土器	灰土器	(5.25)	7.00	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	127区	下	黑シート	黑シート	灰土器	灰土器	(3.80)	6.50	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	127区	下	黑シート	黑シート	灰土器	灰土器	(6.30)	6.30	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	127区	下	黑シート	黑シート	灰土器	灰土器	(3.40)	8.45	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	内側から外側へ外側する逆バチ子型「T」断面	ハケ差込からナヂ、「ガキ、灰砂。
372	372	127区	下	黑シート	黑シート	灰土器	灰土器	(2.25)	5.30	不安定な平底から外側を主体で、斜傾合む。	不安定な平底から外側を主体で、斜傾合む。	ユビ差込からナヂ、黒。
373	373	127区	北半	黑シート内	黑シート内	灰土器	灰土器	(9.15)	9.85	外側に輪廓線をかくる。内側に泡影、脚部底付。	外側に輪廓線をかくる。内側に泡影、脚部底付。	ユビ差込からナヂ。
373	373	127区	北半	黑シート内	黑シート内	灰土器	灰土器	(7.15)	11.00	中実の丸いつまみ平底で外傾、輪廓線底。円孔	中実の丸いつまみ平底で外傾、輪廓線底。円孔	ハケ差込、「ガキ。
373	373	127区	北半	黑シート内	黑シート内	灰土器	灰土器	(12.00)	11.50	中実の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	中実の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	ハケ差込からナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	-	3.70	ヒート層は上層から下層へ。	ヒート層は上層から下層へ。	ユビ差込からナヂ、灰砂。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(5.45)	7.90	ヒート層は上層から下層へ。	ヒート層は上層から下層へ。	ユビ差込からナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(2.25)	4.25	大井筒をく、輪廓線行、「輪郭内凹し、端部弱	大井筒をく、輪廓線行、「輪郭内凹し、端部弱	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(12.25)	4.25	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(2.50)	4.25	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(3.45)	4.25	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(11.40)	4.30	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(12.60)	4.40	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(9.50)	3.30	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。
373	373	128区	下	下層ヒート層下	下層ヒート層下	灰土器	灰土器	(10.80)	2.80	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	圓筒形の底付行持ち、輪廓線は水平で外傾した後底を斜め下させる。斜底はまっすぐに伸びテナード。	内側から外側を主体で、天井部ヒートゾーン、内面仕上げナヂ。

問題番号	発行者地区	出土場所	施設名	施設名	施設名	施設名(cm)	施設名	施設名	施設名	施設名	施設名	文様・模様法の特徴	備考
373	1290 16区	SX1602 西側										形態・配置法の特徴	
373	1290 128区	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	14.00	4.30	5.60	5.60	5.60	5.60	単純な形部からやや内傾する。体部は外傾する。受部は内傾する。形部から外傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1291 31 - 4区	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(11.10)	4.15	(5.50)	(5.50)	(5.50)	(5.50)	平底から内傾する。体部は外傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1292 31 - 4区	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(9.60)	2.90	6.60	6.60	6.60	6.60	平底から内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1293 31 - 4区	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(6.70)	3.00	6.70	6.70	6.70	6.70	平底から外傾する。体部は外傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1294 31 - 4区	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	(10.10)	3.10	(5.50)	(5.50)	(5.50)	(5.50)	平底から外傾する。受部は外傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1295 31 - 4区	土	廻廊	廻廊	廻廊	(10.00)	3.60	(5.60)	(5.60)	(5.60)	(5.60)	平底から外傾する。受部は外傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1296 40区 西半	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(10.00)	3.20	(5.60)	(5.60)	(5.60)	(5.60)	平底から外傾する。受部は外傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1297 27区	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	(11.00)	(2.70)	-	-	-	-	直線的到受部に2つ、立ち上りで向外反する。	自然地付石。
373	1298 37区	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	(6.60)	3.45	-	-	-	-	底部は丸みを帯び、口部部が外傾に傾いて本間に伸びて下に押さける。下方に伸びて下に押さける。	自然地付石。
373	1299 5区 下	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(9.60)	3.10	(5.60)	(5.60)	(5.60)	(5.60)	平底から内傾する。受部は内傾する。受部は内傾する。	自然地付石。
373	1300 5区(307)	治利東 東半	ヒト巣	廻廊	廻廊	(12.10)	(3.40)	-	-	-	-	細長の巣合ひ、細長の巣合ひ。	ロクロナデ、灰白。
373	1301 25区 底下	治利東 東半	ヒト巣	廻廊	廻廊	(10.60)	3.50	4.95	4.95	4.95	4.95	底部到受部が傾く。ヘア切りのタキ。	ロクロナデ、灰白。
373	1302 26区	普清灰砂人工堆	廻廊	廻廊	廻廊	(11.60)	3.70	5.85	5.85	5.85	5.85	平底から内傾する。口部傾形で端振りがみで見る。	ロクロナデ、灰白。
373	1303 27区 東半	造営前まで	廻廊	廻廊	廻廊	(11.20)	(3.90)	-	-	-	-	常に構造する部位で底面がある。ヘア切り、サガリ、サガリ、サガリ。	ロクロナデ、灰白。
373	1304 5区 下	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(9.60)	3.00	(5.60)	(5.60)	(5.60)	(5.60)	内傾する体部と口部部が傾く。傾き少しある。	ロクロナデ、灰白。
373	1305 5区 西	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(10.20)	4.20	(5.60)	(5.60)	(5.60)	(5.60)	平底から外傾する。受部は内傾する。口部部が傾めに遡る。	ロクロナデ灰白。
374	1306 36区	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	(11.50)	(4.60)	-	-	-	-	口部中空に立ち上がりがみだる。口部部が傾めに遡る。	自然地付石。
374	1307 35区	廻廊剥離前	廻廊	廻廊	廻廊	(12.00)	(3.50)	-	-	-	-	底部の体部から長い直線で底面がある。	ロクロナデ、灰白。
374	1308 21K	換気筒	廻廊	廻廊	廻廊	-	(5.60)	-	-	-	-	端部が直線で底面がある。円孔があり。	ロクロナデ、灰白。
374	1309 31 - 4区	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	-	(13.30)	-	-	-	-	筋が手打い模様の体部が底面に対する口部部。	ロクロナデ、灰白。
374	1310 19区	治五重金庫	廻廊	廻廊	廻廊	-	(5.60)	8.80	8.80	8.80	8.80	内傾し端部底面がみに立ち少しある。	ロクロナデ、灰白。
374	1311 1区 治五重金庫	砂包	廻廊	廻廊	廻廊	(25.00)	(15.60)	-	-	-	-	筋の張る丸みと体部から、頭部は大きくて筋が張る。口部は直線で底面がある。	ロクロナデ、灰白。
374	1312 11区	中清野土～治臼土まで	廻廊	廻廊	廻廊	12.00	5.80	-	-	-	-	外傾する口部部で端部に向って丸角ある。体部テロヨウ。	自然地付石。
374	1313 42区	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	-	(9.70)	-	-	-	-	ほぼ規形の基盤。	自然地付石。
375	1314 19区	院正金庫	廻廊	廻廊	廻廊	-	(15.30)	-	-	-	-	斜筋の体部、頭部部は直角。ドラムはタキ見形。	奈良水田灰白。
374	1315 1区	賞物室	廻廊	廻廊	廻廊	(15.80)	(4.40)	-	-	-	-	大角よく腰ぐらで端部を肥厚させる。	内面に自然地付石。
374	1316 44区 東半	包合層	廻廊	廻廊	廻廊	(16.30)	(7.30)	-	-	-	-	内傾ぎみに立ち上がり反して開口部がある。1回転する口部部で底面がある。	ロクロナデ、2区の地盤は灰白。
374	1317 31 - 4区	廻廊	廻廊	廻廊	廻廊	(15.40)	(6.80)	-	-	-	-	内傾する体部、僅かな直角がある。タタタ。	自然地付石。

遺跡番号	出土施設名	層位	断面	器種	口径	法規(古文)	基準	文様・調査状況の特徴	参考
371 1318 16区 東平	遺構周囲	別室跡	土壟跡	壺	(4,50)	-	外反・腹部黒帯に白文、直腹・深形な法の特徴。	ロクロナデ、灰・灰白。	自然発生。
374 1319 1区	黄砂砂	須恵器	壺	-	(5,90)	-	内側を灰・外側を白に刷毛目で、肩部をかきかたに内側に刷毛目で。	内面に自然発生。	
374 1320 21区	黄砂砂	須恵器	壺	-	(3,90)	-	留さず、外側を白に刷毛目で、身部をかきかたに内側を灰・外側を白に刷毛目で。	留灰文、灰白・灰白。	
374 1321 27区 集中	遺構周囲で	須恵器	壺	-	(4,60)	-	内側を灰の「丁」字縞部で、腹部折り返す。	ロクロナデ、灰白。	
374 1322 19区	遺構周囲で	須恵器	壺	-	(3,20)	-	施灰が内側ぎみで腹部外縁に施厚する。	ロクロナデ、施灰が内側ぎみである。	
375 1323 26区	須恵器 人形頭	土壙跡	杯	13,00	4,70	-	内側を灰の後部から口縁部、輪部丸く窓立ぎみ。	ハラミヨキ、根に2段の施灰文。	
375 1324 28区	須恵器 人形頭	土壙跡	杯	(16,55)	7,60	-	内側する付近から後部で、輪部外縁が施灰する。	施灰者らしいが底部外縁ケズがち、根に。	
375 1325 28区	須恵器 人形頭	十脚鉢	瓶	(17,75)	5,95	7,60	内側する底から後部まで、輪部もしくは底に施灰する。	ヘラミヨキ、根にぶい感。	
375 1326 28区	包含層	土壙跡	杯	(15,75)	6,85	-	不安定な底から後部する付近で、輪部反りびらみでない、灰・灰白。	ロクロナデ、灰白。	
375 1327 26区	青灰砂層	土壙跡	杯	(11,80)	3,60	-	内側する全体で、口縁部外縁に施灰する。	ナデ、ヘラミヨキ、ヨコナデ、浅青白。	
375 1328 31区 (687)	黒ショルト	十脚鉢	杯	(10,90)	5,00	-	内側する全体で、面部に元々ほどけなり、輪部が施灰する。	ナデ、ミガキ、内面灰・根。	
375 1329 34区 西平	灰褐色塊塊じりシル	土壙跡	杯	(13,40)	3,30	(9,90)	輪部が施灰と輪部の隙間に付き、輪部に伸びる。	施灰者らしいが、周輪ナデと謂われる。	
375 1330 35区 下	包含層	土壙跡	瓶	(13,30)	12,05	-	内側する全体で、輪部外縁が施灰する。	ユビテクカラハハケ筋、ナデ、ヨコナデ、灰斑。	
375 1331 36区	包含層	十脚鉢	瓶	-	(6,10)	-	丸底で、やや腰高な深形な法の作品を持ち、質感の外縁に施灰が著しく濃霑不規。	内面はユビナデを有す。	
375 1332 31区 (607)	陶灰	土壙跡	瓶	(9,90)	7,35	-	内側する全体で、口縁部外縁に施灰する。	ナデ、ユビナデ、黑・浅灰。	
375 1333 25区	青灰砂層	土壙跡	瓶	(17,50)	2,15	(11,15)	内側から外縁に施灰する。輪部が施灰する。	ロクロナデ、ヨウカ、浅青白・根。	
375 1334 36区	包含層	十脚鉢	瓶	(17,60)	9,40	-	一方腰びらみは正面にて、口縁部は斜め	ノブヨコナデ、体部外縁はハケで、内面はハタケジ。	
375 1325 27区 東平	遺構周囲で	十脚鉢	瓶	(23,00)	4,30	-	内側する全体から外縁する付近で、輪部外縁ハケ施灰。	ナデ、ヨコナデ、内面灰・根。	
375 1336 35区 下	黒ショルト	土壙跡	瓶	(14,85)	4,80	-	口縁部外縁が施灰、施角部を有する。ナヨートな	ナデ仕上げ、にぶい黄白。	
375 1337 26区 西平中心	包含層	土壙跡	瓶	(12,50)	5,80	-	口縁部外縁が施灰する。	ナデ、ロクロナデ。	
375 1338 35区 下	黒ショルト	十脚鉢	瓶	(26,40)	7,40	-	内側する全体から外縁する付近が、輪部が施	ナデ、ヨビテクカラハハケ・ナデ、ロクロナデ。	
375 1339 35区 下	黒ショルト	土壙跡	瓶	(20,40)	9,35	-	外反のみの口縁部から外縁する付近が、輪部が施	ナデ、ロクロナデ、にぶい黄白。	
375 1340 35区 下	黒ショルト砂層	土壙跡	瓶	(25,80)	6,85	-	内側する全体から外縁する付近が、輪部が施	ナデ、ロクロナデ。	
375 1341 35区 下	黒ショルト	土壙跡	瓶	(28,60)	6,55	-	内側する全体から外縁する付近が、輪部が施	ナデ、ロクロナデ。	
375 1342 37区 (577)	包含層	土壙跡	瓶	(21,00)	4,90	-	外反して廣く口縁部で、輪部は内側に面を持つ。	ロクロナデ、体部ナデを有す。	
375 1343 37区	包含層	十脚鉢	瓶	(15,80)	6,90	-	美形の体部外縁に施灰する。	ロクロナデ。	
376 1344 37区	灰褐色塊塊シル	土壙跡	瓶	(25,20)	6,70	-	面部や口縁部に施灰する。	ロクロナデ。	
376 1345 35区	灰褐色塊塊	土壙跡	瓶	(24,00)	13,80	-	施灰者らしいが、輪部外縁が付く。	ロクロナデ。	
376 1346 34区	包含層	十脚鉢	杯	(2,50)	(11,30)	-	外反する全体、輪部外縁に施灰、輪部内側に施	ナデ、ヨコナデ、ミガキ、灰白・根。	
376 1347 37区	灰褐色塊塊	土壙跡	瓶	(29,20)	5,55	-	外反好みに伴う輪部外縁がある。	ロクロナデ。	

箇号	管番	管号	施工地区	出土壤質	部位	輪削	刮削	法量(cm)	法量(cm)	文様・調査方法の特徴	備考
376	1348	31区		沃被植物シルト	土壌層	變	變	(26.00) (9.19)	-	形態・色彩は他のものと異 物語はもみ寄り、削出した面はヨコナメ、内面はケズリの後ハ ツ。表面は上方に立ち上がる。端部は上方に面を有する。	
376	1349	31-1区		包含層	土壌層	板	板	(26.20) (16.90)	-	内面は水平に角状の突起で、外側は垂直の突起で、表面は板状。 外反し層は、必ずしも層界ではない。	
376	1350	31-2区		單孔砂	土壌層	板	板	- (20.60)	-	水平な壁面が砂質土層子が付く。	
376	1351	1区(817)	S09001		土壌層	土壌層	土壌層	(21.40) (10.50)	-	内側する体から外側する「U」字形である。端部 は張り込み、ヨコナメ。	複数個。
377	1352	28区		包含層	土壌層	電	電	(26.30) (20.30)	-	側面のハラツ形、ヨコナメ。	
377	1353	28区		包含層	土壌層	電	電	(33.00) (30.80) (29.20)	-	側面のハラツ形、ヨコナメ。	
378	1354	28区	前	真崎瓦秒人形	保土壁	變	變	(14.50) (1.75)	-	端部は水平する大半が薄く端部。 反りは鋭く尖る。へり切り。	
378	1355	4区 中央		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	- (2.65)	-	端部は宝珠山形、平たい刃形で内側する。	
378	1356	4区 西半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	- (1.90)	-	端部は宝珠山形、平たい刃形。	
378	1357	4区 中央		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(18.30) 2.70	-	端部は宝珠山形から斜めに下 がる。端下部は彫刻らしい。	
378	1358	4区 西半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(17.70) (1.70)	-	内側する天井形で、彫刻模様から下す。	
378	1359	4区 中央		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(15.60) (1.30)	-	豊かな長い内側する天井形で、端部を下す。	
378	1360	4区 中央		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(15.00) (1.40)	-	豊かな天井形から外側し、端部を下す。	
378	1361	3区		保土壁	保土壁	變	變	(15.80) (1.40)	-	水平な天井から外側し、端部を下す。	
378	1362	40区(547)		包含層	保土壁	變	變	(13.70) 2.40	-	天井部を水平で、端部を立つまみが付く。天井部は外側へラクダズ、口唇部は筋目ナガサゲ、天井部 は裏肉で、端部は上毛ナガサゲ。	自然崩落。
378	1363	8区(5)		耕作地	保土壁	變	變	(14.00) (1.10)	-	水平に立ち上げ、端部を立てる。	
378	1364	29区		品水洗浄地盤部分	保土壁	變	變	(15.80) (1.15)	-	内側し端部上方につまみ出す。へり切り。	
378	1365	33区		耕作地	保土壁	變	變	(15.80) (1.40)	-	外傾し端部つまみ出す。	
378	1366	40区 東半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(18.30) 3.35	-	内側する天井形で、端部を立つまみが付く。	
378	1367	40区 西半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(16.80) (2.20)	-	内側し、端部つまみ出すように重ね下す。	
378	1368	40区 東半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(18.10) (1.75)	-	平たい天井形で下すする施設。	
378	1369	40区		芋	保土壁	變	變	(17.40) (2.25)	-	平たい天井から内側する口輪部で、端部を下す。 端部に添下し、丸。	
378	1370	40区 東半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(17.80) (1.55)	-	天井部を立つまみが付く。	
378	1371	22区(387)		浜砂層	保土壁	變	變	(9.80) (1.70)	-	円筒形の天井部で外反し、端部下方に端部。	
378	1372	10区 東半		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(16.20) 2.40	-	内側する天井形で、端部に突出する施設。	
378	1373	10区		過床洗浄地盤	保土壁	變	變	(16.70) (1.00)	-	内側する天井形で、端部に突出する施設下方に つまみ出す。	

地図 番号	施設 番号	所管地区	川十瀬橋	所位	種別	器皿	口径	基点	法線(cm)	直進	備考
形態・成因方法の特徴											
275	1374	38区 西半	火船頭堤防	渠底面積狭じりシルト	渠底	渠底	[19,40]	1,60	-	渠底大断面、「渠底は削した後水車に伸びて渠底を付ける際のナダが残る」。上層 渠底は「ドア」が切れる。渠底を付ける際には「ドア」が残る。	渠底を付ける際には「ドア」が残る。渠底を付ける際には「ドア」が残る。
276	1375	40区	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[17,90]	[1,80]	-	渠底を付ける際には「ドア」が残る。	渠底を付ける際には「ドア」が残る。
276	1376	25区 東半	包含層	渠底	渠底	渠底	[15,80]	1,60	-	渠底を付ける際には「ドア」が残る。	渠底を付ける際には「ドア」が残る。
276	1377	25区 中東~東	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,80]	2,30	-	渠底を付ける際には「ドア」が残る。	渠底を付ける際には「ドア」が残る。
278	1378	60区 中央	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,90]	2,50	-	渠底を付ける際には「ドア」が残る。	渠底を付ける際には「ドア」が残る。
278	1379	38区 東半	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,90]	2,50	-	渠底を付ける際には「ドア」が残る。	渠底を付ける際には「ドア」が残る。
278	1380	11区	渠底	渠底	渠底	渠底	[9,60]	[2,75]	-	内側の口端部等に外圧による崩落を示す。	内側の口端部等に外圧による崩落を示す。
278	1381	61区 西	横構造渠出中	渠底	渠底	渠底	[9,40]	3,00	6,25	不安定な低速で陥没しきみで走る。	不安定な低速で陥没しきみで走る。
278	1382	47区 西	横構造渠出中	渠底	渠底	渠底	[9,60]	3,35	[7,00]	内側の外壁付近で走る。	内側の外壁付近で走る。
278	1383	47区 西半	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[9,20]	3,50	[6,40]	平底で外壁付近で走る。	平底で外壁付近で走る。
278	1384	38区 西半	包含層	渠底	渠底	渠底	[10,80]	3,50	[7,85]	平底で外壁付近で走る。	平底で外壁付近で走る。
278	1385	37区 北~東	包含層	渠底	渠底	渠底	[14,60]	3,30	[11,90]	平底で外壁付近で走る。	平底で外壁付近で走る。
278	1386	46区 中央	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[15,00]	3,15	[11,15]	平底で外壁付近で走る。	平底で外壁付近で走る。
278	1387	61区 壁半	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[12,70]	3,50	[9,80]	平底から傾斜して走る。	平底から傾斜して走る。
278	1388	54区(367)	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,00]	4,00	7,80	低速で走る。	低速で走る。
278	1389	1区 西端	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,80]	3,90	[8,00]	平底で外壁付近で走る。	平底で外壁付近で走る。
278	1390	37区	人丸圓	渠底	渠底	渠底	8,40	4,70	-	一部は水没せず、上部は走る。	一部は水没せず、上部は走る。
278	1391	31~西区	包含層	渠底	渠底	渠底	[13,40]	4,50	[8,30]	内側の立ち止まりから僅かに走る。	内側の立ち止まりから僅かに走る。
278	1392	37区(347)	包含層	渠底	渠底	渠底	[16,00]	4,40	[11,60]	低速で走る。	低速で走る。
278	1393	37区	仄蛇形砂巻シルト	渠底	渠底	渠底	[14,60]	4,50	16,65	平底から渠底を斜め上方に伸びる。	平底から渠底を斜め上方に伸びる。
278	1394	30区	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,00]	4,25	[9,45]	横構造渠を斜め上方に伸びる。	横構造渠を斜め上方に伸びる。
278	1395	19区 東半	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,10]	4,00	[8,80]	横構造渠を斜め上方に伸びる。	横構造渠を斜め上方に伸びる。
278	1396	61区 中央	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,60]	4,40	9,50	横構造渠を斜め上方に伸びる。	横構造渠を斜め上方に伸びる。
279	1397	18区 出水部	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[15,10]	4,10	[10,10]	平底で外壁付近で走る。	平底で外壁付近で走る。
279	1398	46区 内半	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[13,00]	3,35	[10,00]	手筋から内側へ走る。	手筋から内側へ走る。
279	1399	38区 内半	横構造渠	渠底	渠底	渠底	[17,40]	4,30	[11,75]	側面を走る走行部から、側面を走る走行部から、側面を走る走行部から、側面を走る走行部 から走る。	側面を走る走行部から走る。

国名	都道府県	市町村	出土場所	層位	縦剖面	横剖面	器種	口径(cm)	底径	形態・断面形状の特徴
379	1400 群馬県	邑楽郡 須賀村	天然氣井汲りシルト	中含層	直筒形	直筒形	杯	(16.20) 6.10	(11.40) 3.75	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1401 38区 西平	中含層	天然氣井汲りシルト	原生層	直筒形	直筒形	杯	(18.30) 6.10	(12.25) 3.75	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1401 37区	西平	天然氣井汲りシルト	原生層	直筒形	直筒形	杯	(15.40) 6.40	(9.80) 3.75	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1402 38区 西平	中含層	天然氣井汲りシルト	原生層	直筒形	直筒形	杯	14.00	4.30	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1403 37区 北平	中含層まで	油水層	原生層	直筒形	直筒形	杯	—	(1.50) 9.00	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1404 46区 中央	中含層まで	油水層	原生層	直筒形	直筒形	杯	—	(2.35) 9.00	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1405 40区 中央	中含層まで	油水層	原生層	直筒形	直筒形	杯	—	(2.35) 9.00	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、体部は同様に凹状の付着物がある。
379	1406 37区 北平	透水層と粘土中	原生層	砂質層	直筒形	直筒形	杯	(0.60) 1.70	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1407 40区 東平	透水層と粘土中	原生層	砂質層	直筒形	直筒形	杯	(8.10) 3.20	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1408 40区 内平	油水層と粘土中	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(7.00) (2.80)	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1409 37区 西平	透水層まで	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(16.80) (3.00)	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1410 40区	透水層	油水層と粘土中	油水層	直筒形	直筒形	杯	(16.80) (4.30)	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1411 31区 小糸	透水層	油水層と粘土中	油水層	直筒形	直筒形	杯	(15.70) 2.20	(13.10) 2.20	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1412 08区 東平	透水層まで	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(17.80) 1.95	(14.40) 1.95	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1413 17区	中含層と粘土中	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(14.20) 2.55	(7.40) 2.55	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1414 31-4区	中含層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	9.95	2.85	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1415 31-4区	中含層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(5.20) (8.10)	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1416 37区 (547)	中含層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	4.30	(3.30)	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1417 37区 西平	油水層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	(4.00) 4.10	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1418 11区	油水層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	(1.10) (4.70)	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1419 26区 西平	油水層まで	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(14.00) (12.30) 1.20	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1420 35区	西平と油水層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	(6.80) 9.00	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1421 05区	中含層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	—	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
379	1422 37区	中含層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	(7.10) 11.00	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
380	1423 37区	中含層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	(12.10) 10.40	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
380	1424 40区	透水層まで	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	(7.20) 8.00	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。
380	1425 05区	北平と油水層	油水層	油水層	直筒形	直筒形	杯	—	5.15 (6.30)	輪内面は凹状で、底部外側はへち切り後ナデ、口部部は瓦状に仕上げたナデを有す。

開拓 番号	開拓 番号	出土場所	出土墓構	墓位	種別	特徴	法量(cm)	形態・墓制作法の特徴	参考	
									口径	蓋内
380	1426	仙台区 北塩山中央	遺物貯蔵室 法量附付穴開掘	遺物貯蔵室	灰陶器	蓋	—	(5, 80) (11, 30) 半丸から小丸する形態、窓は方形で蓋ト。 蓋は円柱状に開口部がある形態の体部、窓は方 形で蓋と同様の形態多。	ロクロナヂ。	生焼け。
380	1427	仙台区 F	下野ビート上置	灰陶器	灰陶器	蓋	(12, 10) 13, 60 (12, 60)	横ально開口する形態の体部、窓は方 形で蓋と同様の形態多。	ロクロナヂ、ロクロタヅリ、不完全方向の仕上げナヂ、窓一 次ナヂ。	—
380	1428	373区西高周	灰陶器洗浄器の 蓋	灰陶器	灰陶器	蓋	(11, 40) 5, 60 (6, 80)	横ально開口する形態で、周縁はやや 窓は四角形である。体部はタマキで、内面にさきて具模様、外 縁はタマキである。	ロクロナヂ。	—
380	1429	100区東、東平 山	遺物貯蔵室まで	灰陶器	灰陶器	蓋	—	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1430	37区	人形	灰陶器	灰陶器	蓋	—	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1431	1 区	灰陶器	灰陶器	灰陶器	蓋	(8, 20)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1432	53区、下	墨シカトヘアビード 等	灰陶器	灰陶器	蓋	—	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1433	37区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	体	(22, 20) (8, 60)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1434	1 区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	体	(24, 00) (4, 20)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1435	37区、南西	遺物軸出中 瓦合層	灰陶器	灰陶器	体	(20, 50) (5, 65) (18, 40) (8, 30)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1436	27区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	体	(29, 20) (8, 30)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1437	37区、南西	瓦合層	灰陶器	灰陶器	盖	—	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1438	100区、東平 山	遺物貯蔵室 排水	灰陶器	灰陶器	盖	(16, 70) (13, 70)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
380	1439	100区	排水	灰陶器	灰陶器	盖	—	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1440	40区、西平 山	遺物貯蔵室まで	瓦合層	灰陶器	盖	(3, 20) (6, 60)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1441	37区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	盖	(17, 40) (2, 30)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1442	37区	瓦合層まで	灰陶器	灰陶器	盖	(23, 00) (2, 30)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1443	仙台区 西子	遺物貯蔵室 排水	灰陶器	灰陶器	盖	—	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1444	37区	遺物貯蔵室まで	瓦合層	灰陶器	盖	(25, 60) (2, 60)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1445	37区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	盖	(12, 60) (2, 60)	横ально開口する形態の窓が付く。 窓は丸を表す。	ロクロナヂ。	—
381	1446	37区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	盖	(2, 80)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
381	1447	37区	瓦合層	灰陶器	灰陶器	盖	(4, 80)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1448	17, 22区	遺物貯蔵室まで	土器	土器	盖	(21, 00) (5, 10)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1449	22区(387)	遺物貯蔵室	土器	土器	盖	(25, 00) (6, 40)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1450	9区	遺物貯蔵室	土器	土器	盖	(26, 00) (12, 50)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1451	1 区	瓦合層	土器	土器	盖	(26, 80) (14, 30)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1452	1 区、内塗地	瓦器洗浄器シルト	土器	土器	盖	(6, 20) 1, 85 5, 50	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1453	100区、下段	墨シルト	土器	土器	盖	9, 90 1, 65 (6, 70) 1, 25 (7, 30)	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—
382	1454	37区、上段	墨シルト	土器	土器	盖	—	横ально開口する形態の窓が付く。	ロクロナヂ。	—

図版番号	地名	市町村	出土地所	層位	地質	標高	法量(cm)	概観	形態・変遷状況の特徴	文様・調整方法の特徴	備考
364	佐賀市 新吉野 新吉野	川内市地区	新吉野	急伐場	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	棒状を呈し、周間に1個孔、計2箇所の丸を孕む。	全体にはナメ調整。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1483 佐区 西宇	35区	西宇	井干場	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面E。	浅削型明渠。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1484 佐区 21区	35区	21区	井干場	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面F。	ナメ。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1485 佐区 西宇	35区	西宇	井干場 邊境付近まで	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面G。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1486 31-1 南区	35区	31-1 南区	井干場	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面H。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1487 11区	35区	下	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面I。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1488 35区 下	35区	下	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面J。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1489 37区	35区	37区	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面K。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1490 40区 西宇	35区	西宇	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面L。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1491 46区 西宇	35区	西宇	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面M。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1492 46区 内平	35区	内平	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面N。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
364	1493 35区 西	35区	西	井干場 底	上層部 土壌層	1.1m 厚	9.25 幅×0.05 厚×0.05	手づくね、手のひら、断面斜面O。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
365	1494 24区 北	35区	北	表層	風化層	30.00	51.90 27.55	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
365	1495 23区 北	35区	北	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
365	1496 23区 北	35区	北	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
365	1497 35区 (307)	35区	307	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
366	1498 37区	35区	37区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
366	1499 146区 西宇	35区	西宇	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
366	1500 150区 西宇	35区	西宇	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1500 50区 西宇	35区	50区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1501 21区	35区	21区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1502 21区	35区	21区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1503 2 区	35区	2区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1504 2 区	35区	2区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1505 3 区	35区	3区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1506 21区	35区	21区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1507 24区	35区	24区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1508 31区	35区	31区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1509 34区	35区	34区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	
P.142	1510 4 区	35区	4区	表層	風化層	11.20	13.20	表面は風化に伴う凹凸が強く、内側は風化した部分で細かい風化物が付着する。	ナメ、棒状へ浅削。	直径3.5cm 高さ3.5cm	

原版 番号	解説 番号	所十卷区 所十卷期	解説	題名	著者	注釈(cm)	用語・複数性法の特徴		文法・複数性法の特徴	備考
							口述	説明	口述	説明
万葉原版 350	1511	刀灰 北東	挿出片 （人）細則	加藤野 内里	内里	—	—	「口傳部分。舞釋には繰反い違かし(複数は5個前)」 「口傳部分。舞釋には繰反い違かし(複数は5個前)」	写真の△。	写真の△。
万葉原版 353	1512	3区		舟毛器	舟毛器	—	—	—	自然転写書 狩戸門の△。	自然転写書 狩戸門の△。
万葉原版 353	1513	2区	人刀細則	貴賤	貴賤	—	—	「口傳部分」、譜部は外見する。船は無い△。	太宰治分類古新編。 吉良の△。	太宰治分類古新編。 吉良の△。
万葉原版 353	1514	2区	人刀細則	台頭	台頭	—	—	「口傳部分」、海藻を包むに外側に記述する。船は無い△。	太宰治分類古新編。 吉良の△。	太宰治分類古新編。 吉良の△。
万葉原版 353	1515	2区	人刀細則	百福	百福	—	—	「口傳部分」、船は無い△。	ロクロ底刷、陰刻の運手△。	ロクロ底刷、陰刻の運手△。
万葉原版 353	1516	2区	人刀細則	白油	白油	III	—	—	「口傳部分」。船は薄く、口縫内側から海藻を施す ロクロ底刷。	ロクロ底刷。
	353							さ。		△の△。

第10表 出土土器調査表

記載番号	件名	出土地区	出土遺物	器種	法量(cm)	色調	前面		背面		
							最大長	最大幅	最大	凸面	
387 T1	20区	SK38314復元	杵丸	(3.30) (7.55)	2.60	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
387 T2	31-西区	SK2101	杵丸	(20.80) (21.10)	6.00	灰白～灰	コロキヤ	ナデ	ナデ	無文	
387 T3	20区 内半	包含層	丸	(9.85) (9.85)	1.70	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
387 T4	20区	SK2597 P019	丸	(10.80) (6.90)	1.50	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
387 T5	31区	機械部屋	丸	(6.85) (6.85)	2.10	灰白～灰	ナデ	ナデ	ナデ	無文	
387 T6	31区	包含層	丸	(12.80) (11.20)	2.30	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T7	31区	包含層	丸	(10.95) (10.95)	1.60	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T8	31区 下	包含層	丸	(11.55) (11.55)	2.10	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T9	31区	北側層	丸	(10.60) (12.60)	2.20	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T10	70T	-----	丸	(10.60) (13.80)	1.85	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T11	17-22区	-----	丸	(10.10) (10.15)	1.70	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T12	20区	SK2666 P083	丸	(9.35) (9.35)	2.00	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T13	20区	包含層	丸	(11.00) (11.00)	2.00	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T14	40T	包含層	丸	(9.60) (12.10)	2.20	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T15	50T	-----	包含層	(9.85) (10.50)	2.00	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
388 T16	20区	人力廁所	丸	(7.40) (11.80)	2.90	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T17	10T-南北透	SK2701	平	(11.60) (10.30)	2.80	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T18	31区	包含層	平	(8.10) (8.10)	1.85	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T19	31-西区	SK2701	平	(13.30) (9.40)	2.30	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T20	31区	SK3716	平	(14.65) (15.10)	2.35	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T21	31区	SK3701	平	(6.70) (14.70)	2.00	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T22	30区 段丘上	包含層	平	(9.80) (9.30)	2.05	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T23	3区	包含層	平	(7.05) (8.10)	2.70	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T24	3区	人力廁所	平	(9.70) (8.60)	2.35	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
389 T25	31区 西牛小牛	SK3716	平	(12.30) (13.95)	1.50	灰	無文	ナデ	ナデ	無文	
389 T26	20区	段丘下東半	包含層	平	(7.65) (12.30)	1.90	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文
390 T27	30区	段丘下東半	包含層	平	(11.90) (11.40)	2.00	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文
390 T28	50区	P019	平	(10.50) (14.95)	2.55	灰白	布目	ナデ	ナデ	無文	
390 T29	30区 段丘下	包含層	平	(6.60) (9.75)	1.80	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
390 T30	31区	包含層	平	(9.85) (12.25)	1.80	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
390 T31	40区	包含層	平	(8.20) (8.35)	1.80	灰	無文	ナデ	ナデ	無文	
390 T32	31区	包含層	平	(8.70) (8.65)	1.60	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
390 T33	31区	人力廁所	平	(9.25) (6.40)	1.90	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
390 T34	21区	包含層	平	(18.50) (9.20)	1.60	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
390 T35	30区 東半	包含層	平	(12.00) (9.70)	1.55	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T36	31区	SK3502	平	(7.50) (8.60)	2.00	灰	無文	ナデ	ナデ	無文	
391 T37	31区	SK3717	平	(14.30) (11.95)	2.00	灰	無文	ナデ	ナデ	無文	
391 T38	19区	SK3701	平	(16.30) (11.25)	1.95	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T39	20区 東半	包含層	平	(14.50) (10.35)	2.30	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T40	20区	人力廁所	平	(11.30) (7.35)	2.00	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T41	31区 -西区	機械部屋	平	(6.50) (6.60)	1.80	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T42	17区	SK3705	平	(10.60) (9.75)	2.10	灰白～灰	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T43	20区	SK3699	平	(9.35) (14.40)	2.40	灰白～淡青	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T44	31区	包含層	平	(6.45) (15.15)	1.75	灰白	布目	ナデ	ナデ	無文	
391 T45	-----	人力廁所	平	(7.65) (11.50)	2.05	灰	無文	ナデ	ナデ	無文	

閑號	標号	出土地點	出土遺物	器性	法面(cm)		色調	凹面	凸面	端面	備考	
					幅	長						
392	746	37区	包含層	平	(6.40)	(9.85)	1.60	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
392	P053	31区～32区	平	(16.10)	(16.50)	1.65	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白	
392	748	41区	SK4101	平	(7.70)	(7.90)	2.50	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
392	749	SK4720	平	(7.40)	(8.00)	1.40	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白	
392	750	26区	SKP519 2117	平	(5.50)	(6.80)	2.90	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
392	751	31区～南西	包含層	平	(10.85)	(14.00)	1.80	灰白	青白	青白	青白	青白
392	752	26区	P019	平	(17.40)	(18.30)	2.50	灰白	青白	青白	青白	青白
392	753	31区	包含層	平	(13.40)	(8.80)	2.10	灰白	青白	青白	青白	青白
392	754	17区	SK7029	平	(7.70)	(11.50)	2.50	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
392	755	30区	SK7029	平	(6.65)	(12.90)	2.30	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
393	756	58区	SK7301	平	(3.75)	(12.40)	1.75	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
393	757	37区	SD2201	平	(21.70)	(15.80)	1.80	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
393	758	22区(367)	SD2201	平	(15.50)	(15.75)	1.40	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
393	759	37区	人形埴輪	平	(12.30)	(8.80)	2.00	陶器～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
393	760	37区	P064	平	(8.40)	(6.85)	1.80	陶器～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
393	761	29区	SK5901	平	(12.20)	(15.50)	1.75	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
393	762	37区～南西	包含層	平	(17.10)	(13.50)	1.75	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
394	763	58区下	包含層	平	(16.50)	(26.55)	2.60	灰白～土黃の質地	青白	青白	青白	青白
394	764	37区	SD7179	平	(17.40)	(16.30)	3.00	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
394	765	37区～南西	SD7179	平	(7.65)	(5.80)	2.50	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
394	766	40区(507)	包含層	平	(9.60)	(7.80)	1.80	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
394	767	37区	P064	平	(19.80)	(19.60)	2.00	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
395	768	37区	SD5602	平	(14.85)	(12.60)	1.70	灰白	青白	青白	青白	青白
395	769	37区	包含層	平	(8.90)	(13.30)	2.00	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
395	770	37区～北東	迷路の埴輪	平	(18.80)	(13.15)	2.10	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
395	771	17区	人形埴輪	平	(6.15)	(11.90)	2.15	灰白	青白	青白	青白	青白
395	772	19区	食糞馬	平	(6.00)	(13.10)	2.25	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
395	773	17区	人形埴輪	平	(9.05)	(12.30)	2.90	灰白	青白	青白	青白	青白
395	774	53区	人形埴輪	平	(16.90)	(35.30)	2.40	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
396	775	37区	包含層	平	(7.80)	(17.80)	2.20	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
396	776	28区	人形埴輪	平	(12.75)	(9.30)	2.30	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
396	777	37区	SD7176	平	(12.20)	(14.20)	3.10	灰白	青白	青白	青白	青白
396	778	75区	包含層	平	(21.40)	(15.75)	2.40	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
396	779	37区	包含層	平	(16.90)	(12.70)	2.60	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	780	53区	人形埴輪	平	(10.85)	(12.50)	2.40	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	781	26区	SD5609 P019	平	(10.10)	(14.90)	1.85	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	782	31～南西	SD5601	平	(9.40)	(10.50)	2.00	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	783	47区	SK5701	平	(6.80)	(7.35)	1.40	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	784	37区	人形埴輪	平	(6.25)	(16.20)	1.55	灰白～灰	青白	青白	青白	青白
397	785	37区	食糞馬	平	(9.00)	(8.80)	2.40	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	786	37区	包含層	平	(13.10)	(15.10)	1.80	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	787	36区	SD5609	平	(7.40)	(6.15)	1.20	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白
397	788	包含層	平	(19.40)	(6.30)	1.60	灰白～灰の質地	青白	青白	青白	青白	

第11表 出土石器類計測表

回収 番号	器物	出土地区	目次番号	部位	跡様	寸持	大きさ(cm)	厚さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	備考	
298 S1	27区 水牛			表面直まで 鉋形打削 人面彫	ナチュラル型 台形打削	中刃ナイフ 中刃ナイフ	45.50	35.50	21.00	7.50		
298 S2	28区 水牛			骨合	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	24.50	16.50	17.40	3.70	6.90	
298 S3	1区		SNS0106	角中	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	16.50	14.50	3.50	3.80	6.60	
298 S4	1区			衣冠	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	21.20	16.40	3.40	7.0		
298 S5	37区 水牛			衣冠	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	19.50	16.40	4.00	6.60		
298 S6	1区			衣冠	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	12.50	12.40	2.90	2.90		
298 S7				衣冠	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	19.30	11.60	3.40	6.50		
298 S8	1区		SNS0101	牛骨部	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	20.50	14.20	2.80	6.70		
298 S9	1区		SK0106		石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	21.00	18.40	3.50	1.50		
298 S10			SNS0106		石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	25.10	18.20	3.00	1.60		
298 S11					石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	25.10	18.20	3.00	1.60		
298 S12	1区		SNS0103	牛骨部2	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	11.40	11.40	3.50	6.60		
298 S13	1区		SNS0101	牛骨部	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	18.50	13.30	3.40	6.40		
298 S14				衣冠	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	23.30	16.40	4.20	6.80		
298 S15	33区 中央			骨合直後時	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	25.30	16.40	4.00	7.20		
298 S16	5区		SNS001	解+	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	25.00	17.10	5.00	7.20		
298 S17	1区		SNS0106		石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	23.60	17.60	4.10	6.40		
298 S18				衣冠	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	22.10	12.50	3.50	9.70		
298 S19	1区		SNS0106		石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	29.70	14.40	4.20	6.60		
298 S20	1区		SK0101	牛骨部	打削直前	チヌナイフ 中刃ナイフ	21.10	23.70	10.70	48.40		
298 S21	7区			骨合直前直上	打削直前	チヌナイフ 中刃ナイフ	23.60	11.00	4.20	6.80		
298 S22	41区			骨合直上	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	18.30	7.40	4.60	4.60		
298 S23	20区 西半中心			解	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	12.40	21.60	15.60			
299 S24	5区		SNS0101	(SNS0101)北側	解	チヌナイフ 中刃ナイフ	17.10	47.00	10.20	35.90		
299 S25	37区 北東			解正中	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	17.10	38.40	9.30	18.80		
299 S26	5区 南			黑シロ	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	21.70	9.20	14.40	49.10		
299 S27	1区			解正中(上)	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	21.70	32.20	6.30	9.30		
400 S28	50区		SNS0101	(SNS0101)北側	解	チヌナイフ 中刃ナイフ	43.40	36.20	9.20	12.80		
400 S29	50区 百半			解	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	35.30	55.90	7.50	12.80		
400 S30	50区 中央付近			黑シロト肉	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	45.20	45.20	8.10	57.10		
400 S31	36区			包含層	解片	チヌナイフ 中刃ナイフ	27.70	27.20	8.10	4.20		
400 S32	37区				解片	チヌナイフ 中刃ナイフ	53.20	53.20	10.40	15.60		
400 S33	40区 肉下				解片	チヌナイフ 中刃ナイフ	56.80	46.80	8.50	18.10		
400 S34	51区			解正中(肉下)	解片	チヌナイフ 中刃ナイフ	66.70	32.30	12.00	19.20		
400 S35				解正中(肉下)	解片	チヌナイフ 中刃ナイフ	34.80	46.70	8.00	11.90		
401 S36	39区 叠丘層上			解	石頭	チヌナイフ 中刃ナイフ	126.80	56.20	14.10	108.40		
401 S37	37区 西半			解	打削直後	チヌナイフ 中刃ナイフ	136.80	97.60	12.20	122.10		
401 S38	40区 肉下			解	打削直後	チヌナイフ 中刃ナイフ	18.90	127.30	31.80	31.80		
401 S39	40区 西半			解	解正中(肉下)	チヌナイフ 中刃ナイフ	138.10	121.40	67.50	176.60		
402 S40	31-南区		SNS1316	中央下	解	解片	解片	62.20	52.20	8.00	25.60	
402 S41	53区		SNS304		解	解片	解片	65.50	26.60	10.10	27.50	
402 S42	59区			解	解	解片	76.20	51.30	38.10	201.50		
402 S43	49区			?	解	解片	116.10	53.10	14.40	72.20		
402 S44	36区				解	解片	131.00	85.80	73.90	120.60		
402 S45	26区				解	解片	97.60	59.80	133.00			
403 S46	37区			急変層	石頭	解片	18.90	127.30	31.80	31.80		
403 S47	26区				解	解片	97.60	59.80	133.00			
403 S48	31区				解	解片	97.60	59.80	133.00			
403 S49	31区		SNS13102		解	解片	106.80	45.30	41.10	41.10		
403 S50	31区		SNS13102		解	解片	61.70	31.50	37.50	136.60		
403 S51	30区			解止下東半	解	解片	220.10	75.90	61.00	136.60		

第12表 出土金属器計測表

器皿 番号	組合 番号	出土地区	出土遺物	種別	器種	法 寸			備考
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
272 M1 53T		第6層	銅鏡	範用鏡	刀子	縦2.47	横2.48	0.13	2.50
404 M32 1K	SD001	灰陶	灰陶	(10.50)	1.80	0.40	8.22		平底主原式
404 M33 31-東区	P030	灰陶	刀子	(4.40)	1.40	0.60	4.58		圓腹三角、木質裏
404 M44 37区 北手	金合巻	灰陶	刀子	5.80	1.60	1.20	13.53		三つに折りたたまれている
404 M55 31-東区	SRW02	灰陶	刀子	(7.20)	2.40	0.30	9.64		
404 M66 2K	SKC01	灰陶	刀子	6.50	1.25	0.40	6.50	2.14	
404 M77 2K	SKG01	灰陶	刀子	(4.85)	1.00	0.30	6.95	1.43	
404 M88 2K	SKG01	灰陶	刀子	4.20	0.80	0.40	6.50	1.68	
404 M99 2K	SKC01	灰陶	刀子	(1.90)	1.25	0.40	6.90	0.83	
404 M10 2K	SKC01	灰陶	刀子	(3.75)	1.00	0.40	6.55	1.82	
404 M11 公区	P019	灰陶	刀子	11.50	0.90	0.50	11.10	7.96	完形
404 M12 18区 段丘上・南半	SR1901	灰陶	刀子	(2.65)	0.60	0.40	0.86		
404 M13 31-西区	SKR018	灰陶	刀子	(3.20)	0.40	0.50	1.65		
404 M14 37区 中央街	金合巻	灰陶	刀子	(8.40)	0.70	0.65	10.30		圓底四脚
404 M15 13区	SKJ001	灰陶	刀子	(7.80)	0.70	0.60	5.35		
405 M16 19区 段丘上・南半	SR1901	灰陶	刀子	(2.20)	0.75	0.40	1.23		
405 M17 31-西区	SKR0101	灰陶	刀子	(3.20)	0.65	0.30	1.00		圓底、斜平面直方形
405 M18 41区	金合巻	灰陶	刀子	(4.50)	0.60	0.50	4.88		
405 M19 31-南区	SXR0104	灰陶	刀子	(11.90)	0.50	0.40	4.57		斜面四脚
405 M20 25区	SKR0101	灰陶	刀子	(13.50)	0.70	0.60	9.16		斜面二角の部分と半円の部分がある
405 M21 31-西区	SKR0101	灰陶	刀子	(3.50)	0.70	0.60	2.33		小質地
405 M22 31-西区	楕球形	灰陶	刀子	(2.90)	0.60	0.70	2.78		圓面四脚
405 M23 40区	金合巻	灰陶	刀子	5.80	4.20	1.60	46.19		
405 M24 28区	P067	灰陶	刀子	(2.70)	1.80	0.60	3.35		
405 M25 37区	P067	灰陶	劍形	4.50	3.50	0.70-2.70	25.90		
405 M26 38区 (22区)	STP0201	灰陶	刀子	縦12.35	8.20	805.60	馬蹄の刃(7本)		

第13表 出土木製品計測表

部類	報告 番号	出土地名	種別	計測(cm)			備考
				高さ	幅	厚さ	
406	W.1	28区 行船	木箱	(60, 11)	4.90	1.00~1.30	-
406	W.2	30区 反正下 東手	木箱	30, 10	3.55	0.60	-
406	W.3	30区 反正下 西手	木箱	(79, 90)	3.50	0.60	-
406	W.4	30区 反正下 頂端	木箱	(11, 10)	2.50	0.30	-
407	W.5	20区 反正下 東手	木箱	(22, 60)	(4, 70)	0.35	-
407	W.6	63区 下	木箱	(12, 80)	(3, 45)	0.50	-
407	W.7	19区 反正下 頂端下	木箱(彫刻)	(11, 80)	7.00	0.60	-
407	W.8	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(10, 40)	(1, 90)	0.35~0.55	-
407	W.9	25区 反正下 頂端	木箱	(9, 40)	3.00	0.40	-
407	W.10	25区 反正下 頂端	木箱	(7, 80)	4.45	0.35	-
407	W.11	25区 SR3703	木箱	(117, 60)	1.40	0.70	-
407	W.12	30区 西手	木箱	(8, 60)	1.30	0.35	-
407	W.13	25区	木箱	(27, 30)	0.85	0.40	-
407	W.14	25区 反正下 頂端	木箱	(9, 75)	1.00	0.40	-
407	W.15	25区 反正下	木箱	(9, 60)	2.45	0.35	-
407	W.16	19区 東手 頂端	木箱	(15, 30)	3.80	0.50	-
407	W.17	19区 東手	木箱	(27, 60)	5.10	0.70	-
408	W.18	52区 東手	ナスピ影彫	(8, 30+5, 65)	(7, 50)	1.10	-
408	W.19	52区 東手	木箱	(7, 65)	8.00	1.45~2.20	-
408	W.20	52区 東手	木箱	(20, 60)	7.50	1.50	-
408	W.21	25区 反正下	木箱	(25, 60)	5.25	0.50	-
408	W.22	25区 反正下 頂端	(木手)	(14, 85)	4.10	3.95	-
408	W.23	53区	木箱(彫刻)	(41, 50)	(5, 20)	1.10	-
408	W.24	53区	木箱	(15, 20)	1.30	1.40	-
408	W.25	53区	木箱(彫刻)	(52, 60)	4.40	3.70	-
408	W.26	53区	木箱	(14, 40)	4.45	3.05	-
408	W.27	17区 SR3701	木箱	(9, 20)	2.80	0.40	-
409	W.28	25区 底	木箱	(14, 80)	1.40	1.50	-
409	W.29	37区 SR3701	木箱	(24, 90)	(6, 30)	1.60	-
409	W.30	25区 SR3702	木箱(彫刻)	(22, 50)	2.00	2.10	-
409	W.31	25区 行船	木箱(彫刻)	(15, 60)	(10, 30)	(4, 20)	-
409	W.32	25区 行船	木箱(彫刻)	(24, 60)	5.50	0.40	-
409	W.33	53区 下	木箱(彫刻)	(25, 30)	(6, 70)	(3, 10)	-
409	W.34	25区 行船	木箱(彫刻)	(12, 55)	(6, 22)	0.75~0.95	-
410	W.35	25区 行船	木箱(天板)	(54, 80)	15.05	2.55	-
410	W.36	53区	木箱	(90, 60)	(10, 80)	1.05	-
410	W.37	53区	木箱	(100, 60)	(10, 80)	1.05	-
410	W.38	53区	木箱(彫刻)	(58, 40)	(7, 20)	0.75	-
411	W.39	25区 行船	木箱(彫刻)	(58, 40)	(6, 30)	3.05	-
411	W.40	30区 SR3701直上	木箱(彫刻)	(45, 30)	(12, 50)	0.95	-
411	W.41	30区 反正下 SR3701直上	木箱(彫刻)	(7, 50)	(17, 90)	0.85	-
411	W.42	30区 反正下 頂端中央	木箱(彫刻)	(36, 30)	(10, 40)	0.70	-
411	W.43	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(8, 30)	9.00	0.50	-
411	W.44	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(4, 50)	(4, 80)	0.60	-
411	W.45	54区	木箱(彫刻)	(11, 50)	(27, 00)	0.50	-
412	W.46	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(17, 70)	(4, 10)	0.70	-
412	W.47	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(21, 10)	(3, 50)	0.60	-
412	W.48	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(14, 10)	4.40	0.60	-
412	W.49	25区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(16, 90)	(5, 60)	1.10	-
412	W.50	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(14, 20)	(5, 60)	0.65	-
412	W.51	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(25, 10)	(6, 25)	0.80	-
412	W.52	30区 反正下 SR3701直上	木箱(彫刻)	(32, 60)	(2, 70)	1.05	-
412	W.53	30区 反正下 頂端中央	木箱(彫刻)	(37, 65)	(19, 70)	1.15	-
412	W.54	30区 反正下 頂端中央	木箱(彫刻)	(58, 75)	1.85	-	-
412	W.55	30区 反正下	木箱(彫刻)	(5, 60+3, 40)	(15, 60)	0.60	-
412	W.56	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(40, 10)	(5, 90)	0.50	-
412	W.57	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(12, 90)	(7, 00)	0.70	-
412	W.58	30区 反正下	木箱(彫刻)	(47, 20)	(6, 60)	1.45	-
412	W.59	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(38, 30)	(6, 30)	1.50	-
412	W.60	25区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(19, 30)	(1, 30)	1.20	-
412	W.61	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(15, 80)	(6, 10)	0.60	-
412	W.62	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(19, 90)	(15, 10)	0.70	有孔
412	W.63	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(16, 95)	16.95	0.60	有孔 5 分割
413	W.64	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(11, 95)	(4, 25)	1.00	有孔
413	W.65	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(12, 80)	(2, 80)	(0, 90)	有孔
414	W.66	30区 反正下 東手	木箱(彫刻)	(18, 60)	(5, 60)	0.50	1.10
414	W.67	53区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(18, 10)	(10, 00)	0.70	1.70
414	W.68	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(18, 00)	(7, 90)	0.70	1.20
414	W.69	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(22, 90)	(11, 70)	0.70	2.00
414	W.70	30区 反正下 頂端	木箱(彫刻)	(22, 90)	(2, 35)	0.70	2.30
414	W.71	54区	木箱	(52, 60)	2.50	0.50	-
414	W.72	30区 段心下 頂端	木箱(彫刻)	(17, 30)	1.80	0.65	-
414	W.73	25区 段心下 頂端	木箱(彫刻)	(18, 40)	2.10	2.00	-
414	W.74	25区 行船	木箱(彫刻)	(21, 20)	2.60	(1, 70)	-
414	W.75	25区 行船	木箱(彫刻)	(26, 20)	3.00	1.90	-
414	W.76	25区 行船	木箱(彫刻)	(45, 20)	1.80	1.70	-
414	W.77	25区 行船	木箱(彫刻)	(17, 20)	1.80	0.65	直通か?
414	W.78	54区	木箱	(12, 90)	1.60	1.75	-
415	W.79	53区 下	板材	(164, 50)	(4, 30)	2.40	-
415	W.80	25区 行船	板材	(156, 30)	2.90	(5, 70)	-
415	W.81	25区 行船	板材	(195, 30)	1.70	1.40	-
415	W.82	25区 行船 東手	板材	(25, 20)	2.50	1.20	-
415	W.83	25区 行船 西手	板材	(25, 20)	2.50	1.50	-
415	W.84	25区 行船	板材	(172, 80)	2.30	1.30	-
415	W.85	25区 行船	板材	(186, 90)	6.20	1.30	-
415	W.86	25区 行船	板材	(105, 60)	(3, 50)	0.70	-
415	W.87	25区 行船	板材	(20, 60)	(20, 60)	0.70	0.95
415	W.88	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.89	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.90	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.91	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.92	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.93	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.94	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.95	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.96	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.97	25区 行船 東手	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.98	25区 行船 西手	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.99	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.100	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
415	W.101	25区 行船	板材	(17, 60)	1.80	0.65	直通か?
						14.40	底面4.45cm、ヒュウダン
417	W.97	25区 行船	板材	(175, 90)	10.70	11.80	-
417	W.98	25区 行船 東手西手	板材	(83, 90)	12.60	5.30	-
417	W.99	25区 行船	板材	(94, 80)	11.70	2.33	-
417	W.100	25区 行船	板材	(79, 90)	4.35	2.90	-
417	W.101	25区 行船	板材	(71, 60)	3.10	2.10	-

報告書抄録

ふりがな	さかもといせき
書名	坂元遺跡II
副書名	東播都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第366冊
編著者名	渡辺 畏(編集)、西口丰介、山上雅広、羅宮 正、鐵 英記、長濱誠司、友久伸子、青木哲哉、パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社加速器分析研究所
編集機関	兵庫県立考古博物館
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500 TEL079-437-5589
発行機関	兵庫県教育委員会
所在地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 TEL078-341-7711
発行年月日	2009(平成21)年3月23日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
坂元遺跡	加古川市野口町坂元・野口	28210	110634	34度 45分 36秒	134度 51分 11秒	確認調査(2002160) 20021114~20030205	1,620m ²	東播都市 計画事業 坂元・野 口土地区 画整理事 業
						本発掘調査(2003162· 2003197·2003198· 2003199) 20031023~20040308	7,626m ²	
						確認調査・本発掘調査 (2004001) 20040707~20050314	本発掘調査 18,502m ² 確認調査 576m ²	
						本発掘調査(2005001) 20050607~20051017	7,215m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
坂元遺跡	集落・墳墓・窯	旧石器時代		ナイフ形石器、台形石器	
		縄文時代	土坑、埋甕	縄文土器、石器	
		弥生時代	住居跡、掘立柱建物、方形周溝墓、土坑	弥生土器、石器	Ⅲ期~Ⅳ期の方形周溝墓15基
		古墳時代	住居跡、古墳、埴輪窯、祭祀土坑、水田	土築器、ガラス玉、形象埴輪、円筒埴輪	古墳とそこに樹立された埴輪を焼成した窯
		奈良時代	掘立柱建物、井戸、水田、溝、水田	土師器、須恵器、墨書き土器、播磨國府系瓦、木製祭具、土馬、和同開珎、押印須恵器	土地区画の変化に対応した2時期の集落跡。賀古駅に属する駅家郷か。墨書き土器「大家」・「吉家」・「小殿」など。
		鎌倉時代	掘立柱建物、鍛冶遺構、水田、溝	須恵器、土師器、陶磁器	

要約	区画整理事業に伴う記録保存のための調査。旧石器時代~中世にいたる遺構と遺物を検出した。旧石器時代のものは遺物のみの出土である。縄文時代は埋甕と土坑を検出し、墓域が営まれていたと思われる。弥生時代は中期半ばから後半の集落と方形周溝墓群、後期後半の集落を検出した。古墳時代は後期の集落と古墳を検出した。古墳には埴輪が樹立されており、その埴輪を焼成した窯跡も同時に調査した。窯跡は2基あり、1基は形象埴輪、もう1基は円筒埴輪を焼成している。奈良時代前半の集落は正方形に沿って建てられており、奈良時代後半の掘立柱建物は西に約45°振った地割りに沿って建てられている。駅家郷の可能性がある。平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物も検出されている。
----	---

兵庫県文化財調査報告 第366号

坂元遺跡 II

—本文編—

東播都市計画事業坂元・野口土地区画
整理事業に伴う発掘調査報告書

平成21年3月23日

編集 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 加古郡播磨町大中500

TEL 079-437-5589

発行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷 丸山印刷株式会社

〒676-8566 高砂市神爪1丁目11番33号
